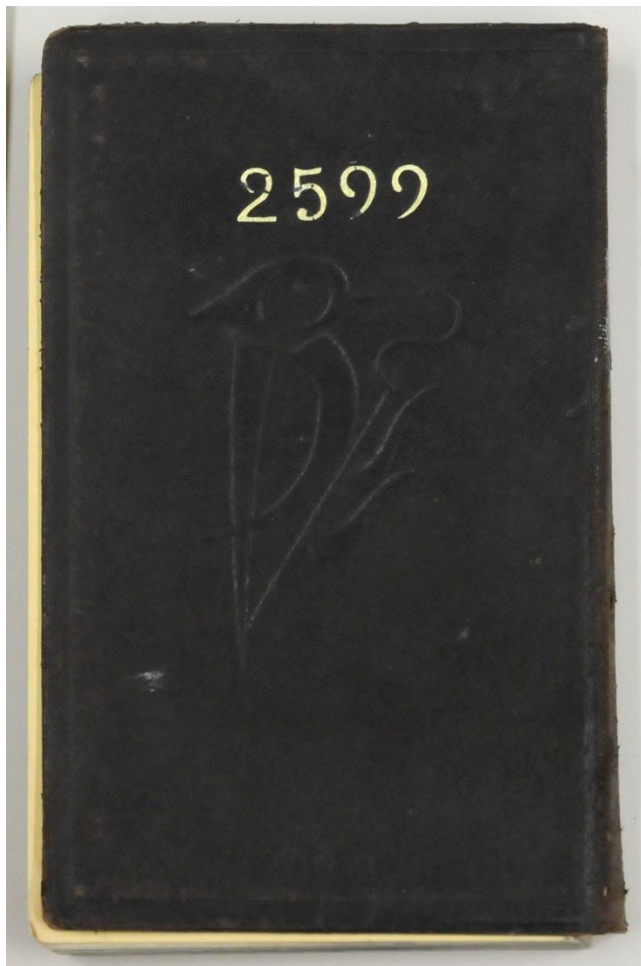




伊藤音次郎日記

1939(昭和 14)年

文字データ作成:一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼2ページ▲▼ 昭和十四年要記

NIプレーン研究ノコト

多翼式直昇機ヲ日本伊藤式即チNIプレーント名附ク 本考案ハ五六年前ヨリ考ヘタルモノナルモ時機ヲ得ズ本年ヨリ順序ヲ立テ研究ヲ行フ

▲▼3ページ▲▼ 一月

新資本家ヲ得ル事

軍部仕事ヲ得ルコトニ進ムコト

NI研究着手ノ事

近衛内閣総辞職

平沼内閣成立

▲▼4ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月1日(日)

天気 晴

六時過ぎ起床 ラジオ体操 之レヨリ先キ

神佛禮拜 四方拝

氏神サンヘ和子ヲ連レテ参拝 終ッテ神社裏ヘ出ル 正二日ノ出ノ直前 待ツコト約一分

紫雲ノ間ニ巨大ナ日ノ出ヲ拝ス

何ニカヨイ暗示ヲ得タ様ニ感ジル

今日ハ何モ考ヘナイ日トス

徳次、角除夜ノ鐘ヲ聞イタ後築井ト成田山ニ参詣ス 八時頃來 午後角兄ヘ行ク

夕方吉田重雄來 泊ル 夜花ヲ一回ヤツテ楽シキ一日ヲ過ス

▲▼5ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月2日(月)

天気 曇後晴

八時起床 午前中在宅 第一ノ若夫人、富尾夫人來

一時半頃ヨリ家内ト和子ヲ連レ船橋ニ行キ病院ニ太田、鈴木ヲ見舞フ ヒサハ一週間

目カラ普通ノ食事ヲシテ居ルトノコト 余リヨイ經過ニ驚ク。清平宅ニ行キ夕食ヲ馳走

ニナル 吉田ト東京ヘ行ツタ 徳次仁三郎モ歸リニ立寄ル 一同揃テ八時前帰宅 停電

シタノデスグ床ニ入ル 間モナク點ズ

▲▼6ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月3日(火)

天気 晴

快晴 終日在宅

來客 第一ノ宗里夫人、縣君、奥山君、宇賀君

十時二十五分四ノ宮君十年式ニテ郷土飛行ニ出發ス 十二時半頃名古屋着

梅ノ木ヲ鉢上ゲス 赤松ニ針金懸ケヲ行フ 予想以上ニヨクナツタ

夜航空雜誌ヲ讀ム NIプレーンノ研究第一頁ヲ初ム

▲▼7ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月4日(水)

天気 朝雪後晴

小雪アリ後晴レ 九時半工場出

十時相前後シテ 各役員來 岡田氏風引キニテ不參ノ電話アリ 福西氏十一時過ぎ來

十一時少シ前ヨリ式ヲ初ム 君ガ代合唱宮城遙拝、皇軍感謝、航空神社札拝 後ミカント菓子ヲ配リ終テ自分ヨリ年頭ノ挨拶ト昨年度ノ不成績 本年ノ予定ヲ述ベテ終ル 副社長ヨリ所感アリ式ヲ終ル 午後一時ヨリ部長級以上ノモノヲ自宅ニ呼ビ新年會ヲ開ク 料理オクレテ手違ヒヲ生ジタルモ皆氣持チヨクヨツテ歸ル

正午過ぎ千葉ノ菅谷氏來 吉田甚左衛門氏明日夕方千葉ニ來 会フトノコトニ資料ヲ提供ス

▲▼8ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月5日(木)

天気 晴曇寒

小雪

八時十五分工場出 カセイン無ク作業進マズ

各部長集合 会社ノ方針ニツキ質問アリ 大体ノ狀況ト今後ノ成行キニツキ話ス

十一時半ヨリ上京 清平ト階(マ)行社新館ニ滿州飛行協會阿久津氏訪問 不在

二時過ぎ吉原ト歸ル 別室ニテ会见 滿州進出ニツキ聞カレタガ充分慎重ニヤリタイ

旨述ベテ居ク 尚今年度協會ノ仕事ニハ今カラヤツテモ間ニ合ワナイカラ來年度ノ準備

ヲ今カラヤルコトニシタイ旨答ヘテ居ク 四時四十五分帰宅

工場ニ出テ作業後ノ遙拝ヲナシ帰宅

NIプレーンノ件角ト徳次ニ話ス

▲▼9ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月6日(金)

天気 晴

七時三十五分工場出 六時半起床

弘中、ト大蔵ニ手紙書ク

宇賀千葉へ夏見ノ見舞ト鉄鋼組合へ配給表ヲ貰ヒニヤル

正午前章氏來

退社希望者三名アリ 尚引續キアル見込ミ 材料本社へ請求セシモ金ガナイカラドウ
ニモナラヌトノコト

朝菅谷氏ニ電話スル 後チ電話ニテ今日會エズ明日會フトノ返事アリ。岡田勇氏ニモ電
話スル 明日頃先方ノ都合ヲ聞イテ知ラセルトノコト

午後四ノ宮機ニ中川大内兩名搭乗 名古屋ヨリ四国ニ行ク途中伊吹山附近ニテ遭難
中川重傷(大火傷) 中川輕傷 機体全焼トノ入電アリ 木下君ヲ今夜出張サセル

▲▼10ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月7日(土)

天気 晴

七時半工場出 朝礼ヲナシ菅谷氏ニ電話ス 今日何時ニ會フカマダ分ラナイガ後チ電
話スルトノコトデアッタガツヒニカハラナカッタ

章氏午後本社出 初メハタイヤーノ金貳百円出來ナイト云ツテ來タノデ白戸へ電話シ
タガ二人共居ラズ間モナク章氏ヨリ電話ニテ今岩間氏ガ金ヲ作りニ行ツタ 之レハ工場
ノ責任トシテ月曜カ火曜日ニ最(マ)非返サネバナラナイガ取りニ寄越シテ呉レトノコ
トニ驚津ニ命ジテ居キ自分ハ大和田ノ川口氏訪問 吉田氏ト菅谷氏トノ関係ヲ聞ク
大体良好 菅谷氏ノ話シハ吉田氏モ耳ヲカタムケルトノコト 京成ノ後藤氏ニハ賣込ムヨ
リ外方策ナイトノコトデアッタ 万一ノ場合ハタノムコトニシテ帰ル
朝謝文達へ手紙書ク

▲▼11ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月8日(日)

天気 晴

七時半工場出 朝礼

清平九時十五分來 帰宅ノ上海軍へ日参スルコト 其他吉田甚左衛門氏ノコト等相談
ス 正午工場へ行ク 奈良原氏來社。頼母木報知社長ト会见ノ模様聞ク 矢吹キニ報
知飛行場トスル由。工場ノ対矢吹策ニツキ明日田山氏ニ相談スルコトトス。

岡田勇氏ニ電話 明日会见ノコトヲ予約ス

午後三時菅谷氏訪問 吉田氏ノ模様聞ク 東金公園経営三十万円投資ノ予定ヲ当社へ出スコトニ傾キツゝアリ 今夜モ会フ筈トノコト 至急ヲ要スル旨依頼シテ帰ル
夕食中中川君四時四分死亡トノ通知アリ 弔電ヲ打ツ

◆▼12ページ◆▼ 昭和14(1939)年1月9日(月)

天気 晴

北風強ク寒氣厳シ

七時半工場出 本日ヨリ国旗掲揚ノ際君ケ代ヲ合唱サセ航空神社ニ礼拝サセル
散髪ヲシテ九時半ヨリ上京 木下帰リ報告ヲ聞ク 中川並ニ大内ノ處置沈着ニシテ実
ニ立派ナ行爲デアッタ 航空局千田大佐ニ報告 局長其他ニ挨拶シテ本社ニ行キ奈良
原榊氏同道飛行協会ニ行キ青年團ニモ挨拶ニヨル 清水君ニ會フ 東日ニモ行キ近藤部
隊行キニツキ打合せヲナシ本社ニ帰り岡田勇氏ニ會フ 決算ト予算書有ツタ方ガヨイト
ノコトデ作ルコトス
六時過ぎ辻岡田、留雄、岩間清平ト會議 自分ヨリ中川ダケヲ一本調子ニヤルヨリ外
ニモ対策ヲ講ズルコトヲ提案ス 七時半ノバスデ帰宅。大坂ヨリ久次郎帰ル 丹伊ノ姉
同道來宅シタ由

◆▼13ページ◆▼ 昭和14(1939)年1月10日(火)

天気 晴後曇ル

七時半工場出 朝礼 六時二十分起床

菅氏ヨリ電話アリ 吉田氏ノ方昨夜会见 有望ニツキ今夜会社ノ株主名簿ト決算書
ヲ見タイ 尚話シモ聞キタイトノコトニ、ソレニ予算書ヲ添エルコトニシハ時半ヨリ清平ニ
立寄り大坂ノ丹井夫人挨拶シ清平同道上京 清平局へ行 自分午前中本社ニテ前記
ノ書類ヲ作ツテタイプライターニ打タセ十二時半ヨリ春沢氏ノ告別式ニ行キ一時半神
田沢ニ帰ル 時間ガ早イノデ片倉ビルニ田山先生訪問 矢吹ノ件ニツキ相談ス ヤハリ
別小会社ヲ作ルコトガ必要ナリトノコトデアッタ。福西三時半頃來 章氏モ出社 吉
田氏ノ話シヲシテ四時ヨリ千葉ニ行ク 五時五分着イタガ菅谷氏モ上京シテ不在トノ
コトニ妻君ニ書類ヲ預ケテ明朝電話デ打合セルコトニシテ帰ル
太田ノ部下大人連ヨリ嘆願書トシテ夜業ヲヤラセテ呉レトノコトデアッタ

◆▼14ページ◆▼ 昭和14(1939)年1月11日(水)

天気 晴

風ナクヤゝアタタカナリシモ朝夕ハ寒氣厳シ 午前六時ハ〇下五度六分ノ由

六時二十五分起床 七時半工場出 朝礼ヲ受ケル 菅谷氏ヨリ電話アリ 用件ヲ云ヒツケテ八時半ヨリ菅谷氏訪問 昨日上京 京成ノ後藤氏ニ會ヒ大ニ諒解ヲ得タトノコトデアッタ 昨日作ッタ書類今一ツホシイトノコトニ渡シ吉田氏ノ方先キニマトメルコト十萬ヲ出スト云ツテ居タ由 十五萬出サセル 十五日頃迄ニマトメタイト菅谷君中々張切ツテ居タ 株ヲ渡スニツキニ割ノ三萬円役員ノ株ヲ出サセルカラ其内デ五千カ一万君ニ取ツテ貰ヒタイ、ソノ額デ吉田氏ノ方ノ模様デ適當ニキメラタイト述べ車賃トシテ二十円渡シテ白戸ニ立寄ル 養子ガチヨイ、泊ッテ來ルノデモウ買手ガアレバ賣ッテ止メル決心シタトノコトデアッタ 一時間程聞カサレテ歸ル。鈴木菊ヲ呼び金ヲタノムニ二三日内ニ三百円作ル由

東日ノ車ニテ近藤部隊ヘ寄贈ノプライマリー發送 自分モ同乗シ東日ニ行キ同社ヨリ福知氏清水氏ト乗用車ニテ立川ニ行 石原大尉不在 組立テ渡シ歸途近藤大佐宅ニヨリ面會 三十分程話シヲ聞キ登ノコトモ報告シテ七時帰宅 船橋カラ皆來テ居テ賑カデアッタ

清平來 明朝兄久次郎來ル由

◆▼15ページ◆▼ 昭和14(1939)年1月12日(木)

天気 晴

六時二十五分起床 七時半工場 朝礼

八時菅谷氏ヘ電話スル 持株数ヲ至急知リタイトノコトニ本社ヘ電話シ、持参セシム 晝頃青木持参ス 午後二時菅谷氏ヘ持参 今日午前中吉田氏在京 待ッテ居タガ午後カラ野田ヘタ方ニ東京ヘ行ク 今夜歸ルカラ明朝渡ストノコト 尚ヨク説明ス 明日多分吉田氏ト會見出來ルダロウトノコト 會見トナレバ決定モ同様トノコトニ心勇ム

兄大坂ヨリ來 晝過ギ工場着 四時半帰宅 兄ト夕食ヲ共ニス 今日カラ初マツタ相撲ヲラジオデ聞キ兄大分酒進ム

白戸ヨリ二百円受取ル 岩間氏ヘ百円返サセ材料購入五十円本社ヘモタセテヤル 宇賀ニ、十四日ノ報國會準備ヲサセル

朝福西ヘ千葉有望ノ電話ヲシテ居ク

尾崎今日歸ル由 章氏昨日モ今日モ來ラズ

◆▼16ページ◆▼ 昭和14(1939)年1月13日(金)

天気 晴

六時二十分起床 間モナク兄モ起キル 七時半工場出 菅谷氏電話スル 今日コレカラ行ッテ會フトノコト イツデモ用ガアレバ行クカラ待ツト云ツテ居イタガ、ツヒニ電話ハカ、ラナカッタ タ方カケ様ト思ッタガ明朝ノコトニス

尾崎本日帰京 明日會フ由岡田氏ヨリ電話アリ 章氏午後本社往キヨリ電話アリ
茲四五日 本社ヲ東京ニ用事ガアルトノコト 何用力分ラヌガ工場ガウルサイノデ逃ゲ
テ居ルノデハナイカ 外ニナニカ交渉ヲシテ居ル様子デモアル

山東ニ材料ノコトデ数回電話ス 島ニ清平へ受注ノ爲メ及海軍方面努力スル様手紙持
タセテアル。彼レモ若イ、クセニハカバシクナイ奴ダ
兄今日三井へ行ク由 仕事ウマク取レバヨイガ

▲▼17ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月14日(土)

天気 晴

六時廿五分起床 神佛礼拝 朝夕新聞 以上毎日

七時半工場出 朝礼終ツテ千葉菅谷氏ニ行ク 昨日ハ吉田氏ニ來客アリ夜九時半迄
カハッタガ話シ出來ズ 今日行クトノコト 尾崎昨日帰京 今日会见ノ由ニツキ今日中
ニ話シテ貫ヒタイトノコト 十六十七日福島県出張ノコトヲ話シテ帰ル 九時章氏
來ルカト思ッタガ來ラズ 産業報国会 清平來 兄來 国防婦人会約十名來

縣特高課高橋氏 工場課小高氏 最後ニ戦車學校杉本少佐ノ講演ヲ聞キ三時終ル
島ノ九三半映画ヲ見セ四時半散會

清平章氏ノ建議案ナルモノ持参ス 現状ヲ以テ立スル案デアッタガ借金ノコトニツキ一
言モシテナカッタノハ物足りナカッタ 借金ノ整理セズシテ百ノ改カクモ何ンモナラナ
イ

夜角ヲ加エ花ヲ時報迄ナス 自分一等 徳次二等 角三等 妻大負

▲▼18ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月15日(日)

天気 晴

七時半起床 久シ振リデユックリスル 朝食後工場ニ行キ九時菅谷氏ニ電話スル 昨日
モ一日待ツタガユックリ話シ出來ナカッタトノコト 十七日夕方迄ニキメテ居ク由 十七
日正午頃電話スルカモ知レヌト云ツテ居ク。

福西へ電話スル 昨日尾崎ニ會ヒ双方ヨリ條件ヲ出スコトナリ十六日更ニ会见ノ由
帰宅後章氏ノ建議書ヲ檢トウシ意見ヲマトメテ居ク 後チ矢吹工場ノ予定ヲ樹立ス
三時頃兄清平肉ヲ持ツテ來。相撲ヲ聞キナガラ夕食ス

▲▼19ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月16日(月)

天気 晴

定刻出勤 各部長ニ不在中ノ用件ヲ話シ中台來 金ノコト鷺津宛ニ書キ残ス 八時半

出登

上野十時発ニ乗車 協会ヨリ井上氏ノ代リニ加治木氏 報知頼母木社長ノ代理ニ喜多代議士 金子社員 今日ノ先達役榊老人ト同乗出登 車中喜多氏ノ上海ニ於ケル空襲体見談アリ イツカ白河ニツク。出向エヲ受ケ自動車ニテ矢吹町役場ニ入り町長河西代議士以下町役員ニ會見 喜多氏加治木氏ノ挨拶後自動車ヲ連ネテ飛行場ヲ見ル 役所ヨリ奈良原、早川氏等モ來 飛行場ハ上上デアッタ 見終ツテ鏡石町役場ニ行キ町関係者ノ案内ニテ自分ト奈良原氏ト工場敷地及試験飛行場予定地ヲ見ル。之レモ上上 須賀川町虎屋旅館ニ入り七時頃ヨリ宴会アリ 鏡石町長ヨリ最(ママ)非工場設置方頼マレル。当工場二期待ヲカケラレタラ困ル 当工場ガ出來タコトニヨリ他工場ノユーチニナレバ結構ト述べル 先方デモソレヲ希ムトノコトデアッタガ電力ガ町営デ馬鹿ニ高イコトヲ聞ク

十二時床ニ入ル ダラヽ、宴会デ閉ロシタ

▲▼20ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月17日(火)

天気 晴

四時頃女中ガ山本サン(報知ノ)カバンヲ取りニ來タ。其迄酒ヲ吞ンデ居タラシイ
七時半起床 奈良原サンハヨク寝ラレタ

八時頃半榊氏河西氏外一名來席 工場会社創立ニツキ二十万円以下ノ獨立会社トスルコト 伊藤名儀(ママ)ニ対シ若干株提供ノコト等先方ニテスデニ承知ノ由 設立方針ニツキ榊氏帰京ノ上相談進メルコトトシ九時半須賀川發ニテ出登 二時廿分上野着
三時丁度本社着 今井氏來テ福西岡田ト話シ中ニテ五時迄カハル 會議出來ズ。佐渡島氏來テ居ルトノコトニ清平ト宿ニ行キ十一時二十分發ヲ見送ル迄經過ヲ話ス。結局辞表ヲ明日出シテ呉レトノコトデアッタ

今朝奈良原氏起キル迄ニ今日ノ會議ノ々題トナルベキ本社問題ニツキ意見ヲ記入シテ居ク

清平ノ報告ニ海軍見ニ來ル由 瓦斯電三式間ニ合ワナイトノコト ヤヽ有望

▲▼21ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月18日(水)

天気 曇雪雨

定刻朝礼ヲ受ケル

太田外一名柏飛行場ヘ行クコトヲ命ジ八時半出 菅谷氏訪問 一昨日一度コトワラレタガ昨日更ニ會見 吉田氏ノ出陣ヲ強調シテ今日確答ヲ貰フコトニナツテ居ルトノコトデアッタ 尚万一ノ場合工場担保デ十萬カ十五萬融通ノ事ヲ頼ミ東日ニ行キ福知氏清水氏郡氏外写真部一名ト同乗 十二時四十分發自動車ニテ柏飛行場ニ行ク 一時

丁度到着 太田先着 二時ヨリセコンダリー一機組立テル 水野ノプライマリーニテ雪中飛行二回無事終了 近藤水野ヨリ四五名來テ居タ 集会所デ雑談 四時半頃皆返シ近藤部隊長ノ招キデ五時出發 野田ノ門松ニ行キ宴会 八時半散会 石原氏福知氏清水氏ト同乗 池袋ニ自分下車 十一時十分前御茶ノ水 十一時半頃ノ昨日ト同ジ電車ニテ帰ル 三嘴ヨリ電報ニテ電見タ二三日待タレタシトノ入電アリ

▲▼22ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月19日(木)

天気 晴

今時六時半起床 今日ハ少シツラカッタ

八時菅谷氏へ電話ス 昨日話シ出來ズ今朝スデニ吉田氏へ行ツタトノ事 晝頃電話シタラマダ帰ラヌ由 午後二時兄ト帰宅 余リ眠イノデ一寸横ニナツタガ眠レナカッタ 四時頃菅谷氏來 今日今迄会见外事業計畫中ノモノ六ツアリ 其内一二止メテコチラヲヤルコトニシタ、ドレヲ止メルカ考慮中 ツイテハ廿二日迄差支アリ 廿二日午前菅谷氏同道吉田氏ニ会フ事トナル。九分通り成功 兄ニ引合ス
タ方清平來 三人デ船橋へ行ク 自分行カズ 兄又ノムツモリラシイ

▲▼23ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月20日(金)

天気 晴

三円十銭ノホナルモン式筒ノンデ身体ノ工合大ニヨク過日三日續ケテノ夜深シモ何ントモナク一番ヨク分ルノハ電車内デ東日ノ新聞文字ガ眼鏡ナシデ讀メルコトデアッタ 定刻ニ今日ハ稍ヤ遅レテ朝礼初メタラ整列者多カッタ 八時ヨリ上京 清平同道福西ニヨリ千葉ノ方ノ件ト会議ニツキ一寸話シテ居テ、十一時航空局ニ行ク 十二時過ギ桜井サンニ會ヒ瓦斯電ノ有坂サンニ照(ママ)介ヲ貰ヒ、晝食後大森ニ行ク 丁度居合セスグ会见 仕事モアルトノコト 火曜日ニ圖面分ルモノヲ寄コシテ呉レトノコトデアッタ 金物ノ方ガ間ニ合ワヌ由。長島ヲ連レテ行クコトニス 大成功デアッタ 二時半本社着 三時過ギヨリ会議 尾崎ノ報告ヲ聞ク 金六出サナイラシイ。中川ノ調査マダ來ラズ。金ヲ別ニシテ機械ヲ使用スルコトダケ先キニ極メルコトニシタイトノコト 大ニヨロシ 金ナルベク、ツクラセナイ方ガヨカロウ ソレニツキ明日立川へ岡田行ツテ呉レトノコト 尾崎ノ方マダアヤフヤ 行クコトヲコトワル 決極(ママ)取キメヲ先決トス。

章氏ノ建議書決(ママ)局モノニナラズ 精神ダケ尊重スルコト

太田ヨリ報告会理事会開催ノ申出本社へナス

今日ハ愉快ナ日デアッタ ヤハリ、努力ガ何ニヨリダ

▲▼24ページ▲▼ 昭和14(1939)年1月21日(土)

天気 晴

定刻工場出 朝礼後初年工ニ対シ朝礼後朝食ニ行ク者アルコトヲ指摘シ早起キヲウナガス 部長級ヲ集メ昇給ニツキ意見ヲ聞ク
晝頃章氏ヨリ電話アリ 今日工場ニ來ル筈ノ處例ノ東京ミシン買収ノ件ヲ依頼シテアル方カラ電報ガ來タノデ行クトノコトデアッタ
午後兄ト成田山ニ参拝ス 今年初ノ御参リ 明日ノ吉田甚左衛門氏トノ會見ヲ控エ有意義ナラシメンコトヲ願フ 四時過ギ帰宅
相撲ヲ聞キ兄ト夕食 散髪ヲス

◆◆25ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月22日(日)

天気 快晴

六時五分起床 定刻出勤

八時半ヨリ千葉菅谷氏ニ行ク 散髪ニ行ツタラシイ 十時奈良屋前ニテ會ヒ吾妻クラブニ吉田氏訪問 先客アリ 一度菅谷氏宅ニ歸リ晝食後待ツ 二時半頃電話アリ行ク
丁度三時 デップリ太ツタ大キナ老人デアッタ 話シノ永イシカモ一ツコトヲ何度モ繰返ス人デアッタ 雑談多ク十時迄 夕食ノ馳走ニナリ話シ結局伊藤君ノコトハ大ニヤル
其爲メ鉾山ノ方ヲ一ツ中止スル 明日カ明後日工場ヲ見テ貰フコトヲ頼ンダガ日ヲ切
ル訳ニ行カナイガ行クトノコトデニ三日中トシテ菅谷氏ト歸ル 道々菅谷氏今月中ニ
出サセル 大丈夫トノコトデアッタ ヤルコトハ確メ得タコトハ今ノ収穫デアッタ
グライダーノコトモクワシク話シタ

◆◆26ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月23日(月)

天気 曇小雨

今朝ハ起キニクカッタガ六時半起床

久シ振リデ終日工場 章氏モ來

朝五時頃清平來 昨日ノ話シヲナス 間モナク奈良原氏來 明工場員ノ本社会談ニツ
キ何ニカ話シテ晝食後歸ラレタ

午後章氏ト今期昇給者ヲ決定ス

兄明日夜歸ル由 夕食ヲ共ニス 角モ共ニ 後佐藤來 又國ノ兄危篤トノコト 明日死
ンダ知ラセガ來タラ夜行クトノコト

◆◆27ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月24日(火)

天気 快晴

六時十五分起床 七時半工場 朝礼後菅谷氏ニ電話ス 昨日會エズ今日會ッテ工場行キノ時日ヲ知ラセルトノコトニ八時過ぎ長島ヲ連レ清平ニヨリ三人デ十時五分羽田ノ瓦斯電ニツク。スグ有坂部長ニ面会 小林、赤坂、其他ニ照(ママ)介サレ取エズ圖面ニヨリ金具(翼取付部)ヲ作ルコト 一台分見本トシテ、外ニ尾翼、昇降舵方向舵ノ圖面ニテ見積ルコトトシテ帰ル 廿六日金具材料呉レル由 尚監督官ト共ニ廿六七日頃工場見ニ行クトノコトデアッタ

帰途永渕氏訪問 器材ノ方ヘ照(ママ)介ヲ依頼ス 予定通ニ二時丁度本社ニツク 工場カラ十人來テ居タ。富尾氏三時頃 岡田三時半來皆今日ノ會ヲ忘レテ居タラシイ 無責任千万ナ話シダ 福西五時頃來タガツヒニ出席セズ 岩間會議途中ヨリ退場 行違不明 會議ハ会社ノ方針ニツキ社員カラ聞カレテ福(ママ)社長岡田ノ答辨不明確ナリ 最后ニ自分ヨリ自分ノ決意ダケ表明ス。イヅレモ、ナットクシタラシカッタ

福西ヲ加工重役会 岡田ノ話シデ尾崎信ナラズ 從ッテ監督班行キ夜止メルコトトス。自分吉田氏ノ報告ヲナシ月末ノ金ニ努力スルガ皆ニ於テモ努力サレ度旨述べテ居ク

◆◆28ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月25日(水)

天気 晴後曇リ

朝礼後菅谷氏ヘ電話スル 昨日會エズ今日行ッテ居ルトノコトデアッタ 白戸ヘ電話スル 小川不在 妻君カラ今日來テ呉レトノ電話アリタリ 十一時出十一時半船橋駅ニテ宗里ソノ氏ト會ヒ飛行協會ニ行キ小野氏ヨリ賞金ト賞状ヲ下附セラル 終ッテ附近デ晝食 二時半青山三千田大佐父君ノ告別式ニ参拝 信農(ママ)町駅ヨリ乗車 妻君ト錦糸町駅ニテ分レ四時十五分工場ニ帰ル

今朝出ル前清平ヘ二万円ノ株券ト手紙持参サセ大坂ヘ急送サセル。部長級ヲ呼ビ退社者ヲ喰ヒ留メルコトヲ申渡シ三式見積リヲ命ズ

今夜早ク床ニ入ル

◆◆29ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月26日(木)

天気 快晴

昨夜兄ヨリノ電報ニヨリ六時起床 六時半工場行キ 兄ヘ電話ス竹島不在ノ爲メ話シ出來ヌ。佐渡島ヘ電話シテ呉レトノコトデアッタ 一番自動車ニテ奈良原氏訪問 樺氏ニ株券デ五千円デ借用申込ミヲ相談スベク行ッタガ一昨日静岡ヘ行ッテマダ帰ラヌトノコト 帰途奥山氏ニヨリハンドマグネトト金ヲ頼ミ富尾氏宅ニヨリ金策ノコトヲ聞ク 何ニモ當ガナイトノコト 帰場ノ後千葉白戸ニ行ク 今日納メル代金モ呉レタノデ貰ッテ居ク 菅谷氏吉田氏ヘ行ッテ居ルトノコトニ電話シタガ來テ居ナイトノコトデアッタ。菅

谷氏宅ニ行ク 丁度帰ッテ居タノデ明日モ最(ママ)非タノム事 明後日給料支拂ヒニ金入用ノコトヲ話シテ居ク

二時帰場 本社カラ來テ貰ヒタイトノコトニ三時半ヨリ上京 六時半迄会議 決極(マ)ミ尾崎ヲ連レテ監督班へ昭和鋼業ノ工場デ受注ノ相談ニ行クコトニ決ス 明後日朝ノコトス

明日海軍ノ栗谷監督官午後來場ノ由清平ヨリ報告アリ。帰途奈良原氏ニヨリ今朝ノ榊氏借入金ノ件相談ス 明朝行ッテ呉レルトノコトデタノシテ居ク 九時半帰宅

◆◆30ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月27日(金)

天気 晴

六時半起床 朝礼後今日海軍監督官來場ニツキダラケタ行動ノナキ様希望シテ居ク 終日ヨカッタノデタ方解散ノ節礼ヲ云ツテ今後繼續スルコトヲ希望ス

菅谷氏電話シテ聞ク 今日午前中ニ工場見ニ行クトノコトデアッタガ終日ツヒニ來ラズ 一時過ギ予定通り栗屋監督官、瓦斯電ノ赤池氏ト來場 アトヨリ奈良原氏モ來 工場ヲ見雑談シテ朗ラカニ帰ル 悪クハナカロウト思ワル 長島瓦斯電ノ材料取りニ行ク 奈良原氏中沢氏連レテ來 榊氏旅行シタノデ中島氏ニタノシタトノコト 決(ママ)局式千ダケ一ヶ月手形ヲ借リルコトニ決ス 明日晝前行クコトス 副社長モ來 岡田福西奔走ノ件返事ナシ 章氏工賃計算デ徳次、青木ヲ相手ニ夜業ス。大坂兄ヨリダメノ電報アリ謝電ヲ打ツ

◆◆31ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月28日(土)

天気 快晴

朝礼後三番ノ自動車ニ乗りオクレ、タクシード船橋迄行ク 九時丁度東京駅着 待合所ニ岡田氏來テ居タ。尾崎二十分遅レテ來 スグ陸軍監督班ニ山下技師ヲ訪ヒ羽田工場利用ノ話シナシ立川ノ仕事ヲヤリタイ旨述べル 二三質問アリ 班長ニモ話シ仁井中佐係リトシテ來月曜日ニ仁井中佐立川へ行ッテ話シテ居クトノコトニ火曜日當方ヨリ立川へ行クコトニス。本社ニ帰ル 銀行二千六百円アルトノコト二千五百円出シ工場ヲ聞合セ三千弍百円入ルトノコトニ自分中沢氏へ行キ弍千円手形ニテ借受ケ三千弍百円ニシテ帰場 一時半 皆ノ支拂ヲ終ル 章氏テンテコ舞シテ居タ。

三時半頃菅谷氏吉田氏野口氏連レテ來場 工場ヲ見ニ二時間バカリ話シテ帰ル 具体的ノ話シナク明日行クコトス スベデ、順潮ニテ身体ハツカレタガ何ントナク好イ方ニ向ッテ居ル気分ガシタ 神佛ニ感謝シテ早ク床ニ入ル

◆◆32ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月29日(日)

天気 晴

今日ハユックリ静養スル予定デハ八時起床 九時ヨリ工場ニ出三式金具長島ニ急ガセル
長島二十五円貸シ金ス 十一時ヨリ布施病院ニ行キ血脈ヲ取ツテ貰フ 野谷ノ給料持
参ス 正午帰場

菅谷氏ト電話デ話ス 一日会見 具体案ニ写ルコトヲ打合セ其運ビヲシテ貰フ

午後帰宅 盆栽ノ雑誌ヲ見タリ傷病兵慰問ノ演藝ヲ聞キ三時半ヨリ床ヲ取り寝ル
其頃ヨリ左頭痛ム

夕方清平來

◆◆33ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月30日(月)

天気 曇小雨

昨日カラノ頭ノ痛ミ取レス身体モツカレヲ覺エルノデ明日立川行キニ、ソナエ静養ス午
後痛ミ次第第二薄ラゲ

朝太田ト部下ニ名來 収入増加ニツキ相談アリ 平均日ニ円位ニナル様ニシテホシイ
トノコトニ承認 其方法ニツキ太田ニ研究ヲ命ズ

夕方宇賀角來 右ニツキニ円ニ昇給サレタト誤認シテ他部ニ悪影響ヲ來シツゝアリトノ
コトニ作業ニヨリ収入ヲ増ス方針ナル旨述べ皆ニ諒解サセル様話ス

今日監督班羽田工場見ニ行ツタ由 明日ハ不明

夕方ヨリ右ノ眼ノフチ痛ム 頭モ時々痛ム

◆◆34ページ◆◆ 昭和14(1939)年1月31日(火)

天気 晴

十時起床 マダ時々痛ム 太田宇賀ヲ呼び職工ノ模様ヲ聞ク 結局此際十錢程度ノ
昇給ヲナシ更ニ三月多少ノ昇給ヲナスコト 不足ハ夜業ニヨツテ行フコトトス。清平、章
氏來 昨日立川カラ工場見ニ來タ模様ヲ聞ク 之レニヨル時ハ結局昭和ダケデモ出來ル
コトニナルノデ其辺ノコトヲ決定スベク午後上京スルコトトス 正午一寸工場ニ行キ章氏
ト上京ス 六時頃込会議セス 明日立川へ福西モ岡田モ岩間モ清平モ行ツタ方ガヨイト
ノ意見多ク自分トシテハ、イヤデアツタガ最(ママ)非ニト云フノデ行クコトトス。千葉ノ
方ハ午後立川ヨリ直行スルコトトス 副社長不在。金一寸モ出來ズ 役員給料不拂ヒ
必要ナ買物モ出來ズ

午後一時半頃アセチリンタンク暴(ママ)発 小供ニ名輕傷入院ス 工場戸硝子大破ス

◆◆35ページ◆◆ 二月

資本制度確立 工場方針建直シ

◆▼36ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月1日(水)

天気 晴

定刻朝礼 バクハツノアトヲ視ル 一應皆ニモ注意ヲ與ヘル 二番ノ自動車ニテ清平宅ニヨリ上京 丁度九時新宿駅ホームニツク 福西、岡田、岩間、中川、尾崎、石井計八名トナル。イササカ、キマリ悪イミタイ。十時立川着。十一時四十分迄待タサレ中島氏ト會見 中川ヨリ一ヶ月受注高予定ヲ申出ル 注文ハ岡田氏ヨリ伊藤名儀(ママ)ト云フコトヲ云ツタガ昭和トスルコトトノ中島氏ノ希望 ソレニ対シ尾崎中川ヨリ、内輪ノコトハ後ニキメルトシテ昭和ノ名デ引受ケルコトトナル 自分千葉へ行ク爲メ十二時半先キニ帰ル 二時半千葉着 菅谷宅ニ行ク 縣庁ニ行ツテ居タノデ電話デ話ス。明日會ラトノコトニ四時帰宅ス 今日ハ收穫ナシ

◆▼37ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月2日(木)

天気 晴

八時奥山ニ行ク 今日大矢ニ会フカヲトノコト イツモ同ジコトダ 名儀(ママ)変更ノ書類後ヨリ持参セシム。章氏ニ寄ロウト思ツタガ昨日カラ病氣デ会社へ當分出ナイトノコト 貧金病ダロウ 無責任ナコトダ。工場へ帰り菅谷氏ニ電話シテ居イテ行ク 吉田氏田中村へ帰ツテ居ルトノコト 向フガ正月ノ由デ菅谷氏ヲウナガシ柏へ行ク 先ヅ野口氏ヲ訪レタガ東京へ出タトノコトニ直接行ク 中々立派ナ宅デアッタ 間モナク連立ツテ柏駅前ノ事ム所ニ行キ事業開始ヲ急グコトヲ述べル 菅谷氏ヨリ五日ニ支拂フ金入ルコトモ話ス。ソレニツキ四日夜カ五日朝千葉へ帰ルカラ五日ニ合ツテ相談シヨウトノコトデ四時半辭シテ帰ル 船橋ニヨリ稲荷屋ニテ夕食 十時清平ニヨリ昨日ノ様子ヲ聞イテ十一時帰宅

◆▼38ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月3日(金)

天気 曇リ

七時起床 散髪シテ九時工場出 終日在所

皇国飛行協会副團長來 去年四月入レタ貳百五十円ノグライダー内金ヲゴム一本貰ツテアト百円返シテ貰ヒタイトノコト 本社へ行ツテ貰フ。其間本社へ電話スル 岩間君ダケ居タノデ話シテ居ク 尚昭和ノ方ニ対シテハ余リコチラカラヤイ、云ワナイデ仲人ニ下駄ヲ預ケテ向ノ出様ヲ見ル様云ツテ居ク。太田ノ方ノ人員ニテノ生産力ヲ調

查ス 残業シテ十五台漸クデアル

明日千田大佐へ礼ニ行クベク宗里ト打合ス

夜早く床ニ入ル スグ眠ル

◆▼40ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月4日(土)

天気 晴

定刻工場出 朝礼後部長会議 作業命令書ニツキ協議 九時半ヨリ上京 十時十分
船橋駅ニテ宗里夫人ト共ニ航空局千田大佐ニ礼ニ行ク 終ッテ三越ニテ小野サンヘノ買
物ヲナシ晝食後上目黒ヘ引越シタ小野氏宅ニ行ク 不在ガ分ッテ居タノデ自分ハ這入
ラズ外デ待ツ。局ヨリノ帰途日清ビルニエタパイ社長ヲ訪ネタガ旅行中トノコトデアッ
タ 渋谷駅ニテ宗里夫人ト分レ帰途清平宅ニヨリ四時半工場ニツク 清平居タ 三式
金具完成セズ 明日ユックリ、ヨクヤツテ明後早朝持参ノコトキメル
利根川君來 宅ニテ夕食ヲ共ニス

◆▼40ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月5日(日)

天気 晴夜雨

今日吉田氏ト会见予定日デアッタガ昨日菅谷氏ヨリ六日ニナッタトノ知ラセアリ今日
ハユックリシタ氣持ニナレタ 朝八時半床ヲハナレル。ヨク眠レタセイカ頭ノ工合モヨカッ
タ 奈良原サンヘ筑井ノ件デ行コカト思ッテ居ル處ヘ十一時頃來ラレタノデ之レモ出ナ
イデ用ガ方ヅク 先月ノ給料マダ差上ゲナイトノコトニ今日、十円残ッテ居タノヲ差上
ゲルクラブ練習ス 明日又ガソリン買ッテ呉レトノコトニ木下ヲ呼ビ練習生カラ取レン
ウナノヲ調べテ話シサス

午後松ノ植替ヲナシ、数年來ノ懸案ノ松ノ盆栽ニ手ヲツケ鉢上ゲ 夜ハ針金カケヲナス
タ方章氏來 昨日日本社ヘ行ッタトノコト 昭和事ワリタイ 其上自力更生ヲヤル爲メノ
会議ヲ開キタイトノコトデアッタ 明日吉田氏ノ会见後召集スルコトヲ約ス

◆▼41ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月6日(月)

天気 晴

七時起床 吉田氏ヘノ用意ノ爲メ株券二万円ヲ持ッテ工場出 九時頃ヨリ千葉ニ行ク
京成ノ駅前ニ下車スルト菅谷氏ガ居テ今電話シタ處ダトノコト 会社ノ定款ヲ見タイ
由 菅谷氏先キニ來テ呉レトノコトニ行ッテ居ルカラトノコト 一度帰社 本社ヘ電話シ
テ取ヨセル 一時五十分頃漸ク來 二時過ギノ自動車ニ乗ッタノデ三時十分前吉田氏
訪問ス 菅谷氏ニ二時間程前ニ歸リ今來客中トノコトニ菅谷氏宅ニ行ク 例ノ鉢山ノ方

ノ客ガ三人連レデ來テソレヲ、コトワルコトニシテ居ルトノコト 五時頃マダ、帰ラナイ由。
明朝早ク行クコトトシ菅谷氏ニ書類渡シ菅谷君吉田氏へ行ク。
大口昭和飛行場へ行クトノコトニ自由ニサセル タ方母親來 止メテ呉レトノコトノ由

◆◆42ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月7日(火)

天気 晴

六時二十分起床 七時半工場出 八時前清平來 瓦斯電ノ報告ヲ聞ク 局坪井サン
ニ禮ニ行ツタ由

八時過ギノ自動車ニテ千葉ニ行ク 停留所ニ菅谷氏待ツ 共ニ吉田氏訪問 マダ寝テ
居タ 表デ三十分程マチ坐敷へ通サレテツヒニ晝ニナリ晝食後会见ス。ドコカ温泉ノ計
晝ヲ一ツ中止スルコトニ決定 コチラニ参加スル旨言明 條件トシテ増資ノ型式ニヨルコ
ト 取締役二人 内一人ハ常務又ハ専務 監査役一名シタイトノコトデアッタ 役員ハヨ
イガ増資不可能ノ理由ヲ説明シ予定通り株ヲ買ツテ貰フコトニキマル ソノ爲メ株ハ十
五万円ノ現金ニ対シニ割ヲツケ十八万円ノ株ヲ提供スルコトニ話ス 諒解ナク尚アトハ
明日ニシタイトノコト スデニ來客モアルラシイノデ尚本決定取引前ニ株主總會等時日
ヲ要スルノデサシ當リ必要ナ金ヲ其前融通シテ貰ヒタイコトニ依頼ス 之レハスデニ向フ
デモ承知ノ上デ宜シイトノコトニ今日ハ氣モ輕クナリ帰場後本社へ電話ス 清平ト福西
ニ話ス 尚明日朝ノ中ニ福西へ行ク約束ヲス
筑井ノ件ニツキ夜南波サンへ手紙出ス ツヒデニ近況報告ス

◆◆43ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月8日(水)

天気 晴寒

定刻工場出 朝礼ノ集合時間遅ク注意ス 後チ作業場ヲ見ル 八時五分前ニ作業スル
モノ誰(マ)一人 後チ部長ヲ呼び注意ヲ喚起ス 清平ト共ニ福西ニ行ク 岡田氏モ來
十五万円ノ出資ニ対シ五万円ノ株ヲ出スコトヲ決定

晝食後一度工場帰ル 菅谷ヨリ二度電話アッタ由 二時半菅谷宅ニ行ク。昨夜吉田氏
ヨリ電話アリ 十五万円ニ対シ四千株 ツマリ二十万円ノ株ヲホシイトノコト 丁度今
朝キメテ來タノト合致スルノデ其點OK タ、菅谷君へ一万円ヲ其内カラ出ルカ別ニ
出サネバナラヌカノ問題デアッタ。吉田氏宅ニ野口氏其他來テ相談中ラシク夜遅クナ
ルトノコトニ明朝ノ事トシ菅谷君ニ依頼シテ四時半帰場 章氏ニ報告 五時帰宅

◆◆44ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月9日(木)

天気 晴

定刻出勤 朝礼後清平宅ニ行キ株五万円ノ外ニ菅谷分一万円入用ノコトヲ話シスル様云ツテ居ク 十五万円以外ノ株券ハ会社へ貸付ニナルカナナイカニツキ協議スベキカ否ヤハ止メテイヨ、ノ時迄待ツ事トス

九時半菅谷氏宅ニ行ク 共ニスグクラブへ行ク 二階ニ通サレタノデ今日ハ早く一舉ニ方付ケルベク期待シタガ晝食後モマダ會エズ 一時半頃一寸外出スルトノコトデ自動車デ出テ行ツタ 菅谷君ト待ツ 菅谷君ハ紀元節ノ論文ヲ書キ終ル 自分ハ持参ノ観音世界ヲ讀ミ終ル 二時半ヨリ菅谷合同銀行へ行ク 五時過ぎタガ帰ラズ。下ニ降りテ都合ヲ聞ク 女中ダケシカ居ラズマダイツカエラレルカ、オソクナルトノコトデアルトノコトニ菅谷氏ニ行キ妻君ニ右話シ佐久間病院ニ鷺津ノ病氣ヲ見舞ヒ帰宅 今一度菅谷氏ニ電話シタガマダ帰ラヌトノコト 明朝行クコトトス。少シ不安トナルガ更ニコンナ人ナノカモ知レナイ 今迄デモ時間ハ空ニスベテラシイ 観音ト不動ヲ念ジテ不安ヲ去ル

◆◆45ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月10日(金)

天気 晴

定刻工場出 朝礼。稲毛ノナホ來テ居タガ家ノ問題コチラガ方付カネバ何ントモシテヤル様ガナイ事ヲ話ス 十五日迄兎ニ角延期シテ居クトノコトデアッタ

九時前菅谷氏宅ニ行ク 吉田氏ハ電話シタラ來客中ニツキ帰り次第電話スルトノコト 一時頃マタカケタガマダ ツヒニ五時過ぎル 菅谷氏外ニ來客アリ 共ニ夕食ニ行クコトヲ進メラレタガ辞退シテ六時半帰宅。昨夜ノ牛肉デ皆共ニ食事ス ワリニ、ウマカツタ 食後観音世界ノ中カラ一節御経ノ説明ヲ皆ニ聞カセル 朝清平來 瓦斯電不合格トノコトニ長島ヲ連レテ行ク

◆◆46ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月11日(土)

天気 晴

六時半起床 朝食新聞

九時国民奉祝ラジオニ合セ徳次、角ナドモ一所ニ君ケ代皇居遙拝ヲ行フ 終テ氏神ニ家内ヤ小供ト参拝 後工場ニ行キ菅谷氏へ電話スル 來テ呉レトノコトニ一度帰宅 仕度シテ千葉行ニ乗ル 丁度奈良原氏居合セ共ニ千葉迄行ク 菅谷氏吉田氏ト今電話デ話シタ處吉田氏本日吉田氏ノ合(ママ)棒トナル人ニ會ヒニ行クカラタ方デナケレバ帰ラスガ帰り次第電話スル由トノコトデ奈良原氏ヲ照(ママ)介シ三十分程話シテ帰ル 正午帰宅 清平來テ居タ 建国團子デ晝食ヲスマセル

清平ヨリ瓦斯電ノ模様ヲ聞ク 有望ハ有望ノ由。先生へ五十円、安元へ五十円クラブノ中ヨリ渡ス 清平へ二十円渡ス

午後和子ノ御習ヘヲ見ニ行キ六時半帰宅　夕食後松ノ針金カケヲ行フ

◆▼47ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月12日(日)

天気 曇リ

定刻工場出　九時頃菅谷ニ電話ス　妻君デ連絡ツキ次第電話スルトノコト　一時頃又電話ス　菅谷君呼ンデ貰フ　吉田氏東京ヨリマダ帰ラストノコト　急グコトヲ、タノンデ居ク

十一時頃章氏出社

稲毛ナホ早朝來　結局夕方金太郎ト一所ニ草薙氏ヘヤルコトス　要領ハ四回位二分ケテ送ルコト　ソレデイクナケレバ勝手ニサセルコト。コチラモ対策ヲナスコト

奥山氏來　二百円受取ル。通信大臣カラ尋ネラレタノデ民間デ希望ガアレバ出シタラヨイトノコトデ相談会ヲシタイトノコトニ明後十四日午後六時ヨリ会合スルコトニキメル。鈴木モ呼ンダ上キメル

午後清平外三四名來　同乗飛行ス。夕食ヲ宅デ共ニス

大格南側カラグラライダー出発場ヲ作ル件　銚子方面ヘ野外飛行ノ件相談ス

◆▼48ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月13日(月)

天気 晴

六時二十五分起床　定刻工場朝礼　今日ハ大分ヨク、ソロツタ

八時半菅谷稲毛ナホ來　今日一日ステ居クコト　明(マ)日金太郎行ツタガテンデ受付ケナイトノコトデアッタ　夕方又金太郎ヲ稲毛ヘヤリ辨ゴ士ガ來タラ、コチラノ云フ通り以上ノコトハ出來ナイデハネットケル様云ワセル　宇賀ニ明日調定所聞合セテ貰フコトトス

九時菅谷氏ニ行ク　今朝マダ吉田氏東京ヨリ帰ラヌ由。ヨクタノンデ上京　局ニ行ク西尾受驗ノ件。伊東君ニ電報ヲ見セテ、タノンデ帰ル　会議デ誰レニモ會エズ　本社ニヨル。奈良原氏ニ會フ　榊氏旅行中トノコト　福西、岡田、岩間、留雄氏ト會フ　株集メルコトニツキ皆ニ話シテ居ク。マトメルコトデ交渉進メラレタイトノコト

千葉カラ、イツ來テ呉レト云ツテ來ルカモ知レヌノデ帰場　清平終日工場ニ居タ　章氏モ來場。定刻帰宅

白戸ハツ來宅　キンヲ見ニ明日目黒ヘ同行スル由

◆▼49ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月14日(火)

天気 晴

六時廿分起床 定刻出勤 礼

九時頃菅谷氏ヨリ電話アリ 今夜明朝吉田氏必ズ千葉ニ帰ルカラ明日ハ會エルトノコトデアッタ 其旨岡田氏ニモ通ズ

十時頃ヨリ旭航空ニ行ク 工場ヲ見ル 機械工場少(ママ)サイナガラ充実シテ居タ グライダーノ方ハ四五人デヤツテ居タ。平松奥山君案内シテ呉レル

午後島來 一三監(ママ)攻完成ス 無尾モ出來ル

朝グライダー出發點トシテノ畑ヲ借りル爲メ忠兵衛へ行ク 同氏ノ畑ハナカッタガ持主ハ分ツタ

夜大矢、奥山氏ノ招キデ樂園ニ行ク 奈良原、鈴木來ラズ タクシー、ト學校問題ニツキ所見ヲ述ベ十時帰ル。酒ヲノマナイトツマナイコトオビタダシイ

白戸昨日來 今日ハ家内ト二人デお金ノ處へ行ク 近ク一度千葉へ連レニ行クコトニナツタ由

夕方ナホ來 土方ヲ連レテ來テ會ツテ呉レトノコトデアッタガコトワル 調定(ママ)ニカケル準備ヲナス

◆▼50ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月15日(水)

天気 雪後晴

晝過ル迄大雪 三四寸積ル 今朝少シユツクリ眠リタカッタガ雪ガ降テ居ルトノコトニ

定刻工場ニ行ク

清平來 瓦斯電話スル イヨ、ヤルコトニ決定シタソウダガ材料出來ル迄三四日カ、ル由

菅谷君朝電話スル マダ帰ラヌ由 自分先キニ會ツテ電話デ知ラセルトノコトデアッタ 午後マタ電話シテ見タガ不在。予備航空團田村氏來 木更津へ行クトノコトニ千葉迄同行 ホテイヤニテ小一時間茶ヲノミ清平二本千葉駅迄送ラセ、菅谷ニ電話スル 妻君出テ行先キヲサガシテ居ルノダガ知レナイデ困ツテ居ルトノコト。ヤムナク鷺津ヲ見舞ヒ二十円渡シテ帰ル

◆▼51ページ◆▼ 昭和14(1939)年2月16日(木)

天気 晴

今日ハユツクリ七時半起床 八時半工場出

九時半ヨリ菅谷氏へ行ク 昨夜吉田氏帰葉 某宴会デ會ツタ今日會フトノコトデアッタガ今朝東金ノ方ノ問題ノ人々ガ五六名來タノデソレガ終ツテカラトノコトデ午後或ハ夜ニナルカモ知レヌトノコトデアッタノデ、一度帰場 待ツコトトシ呉レ、依頼ス

無尾試飛行大變工合ヨクナツテ來タ 萱場へ電話デ知ラセテ居ク 上ノ畑借りル方法

ニツキ村山ニ交渉サセル

一三監(ママ)攻試飛行終ル 試験場へ記録持ッテヤル 四時頃帰宅ス 菅谷氏ヨリツヒニ電話來ラズ

クラブ板野君單獨ス 三時間ト十分ノ由 グライダーニプライマリー六〇〇回 セコンダリー一〇〇回乗ッテ居ル由

◆◆52ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月17日(金)

天気 晴

六時半起床 今日ハ徳次モ早ク共ニ工場出

九時半菅谷氏へ行ク。吉田氏マダ寢テ居ルトノコト 押カケテ行クコトス。例ニヨリマタサレル 三時漸ク會フ 吉田氏ハ菅谷氏一人來テ居ルト思ッテ居タラシク大變待タセテ氣ノ毒ガッテ居タ 尚今日他ニ立替テアル金ヲ十五万バカリ持ッテ來ルコトニナッテ居ルトノコトデスグニモ取引スル様ナ話シ振リデアッタノデ差當リ一二万アレバヨクアトハ廿五日頃取引シタイト云ツタガ何ニ、ソレガ來ナケレバ來ナイデ何ントカシマスとノコトデアッタノデ、ソレ以上云エズ。マダ來客中ナノト菅谷上京スルノデ辭シテ歸リ本社役員ヲ呼ブ 六時頃來 清平宅ニテ株集メノ協議ニウツリ結局半額出ス、ツモリニナレバトノコトデ一決 自分明晩大坂へ行クコトス 九時散会

◆◆53ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月18日(土)

天気 晴

九時菅谷ニ行キ今夜大坂へ行クコト 株ヲソロエルカラ取引ヲ急グコトヲ頼ミ工場ニ歸ル萱場ヨリ泉外二名研究所ノ無尾ノ研究家岡本氏來 三四回飛バス

寺田航空官來 一三、鈴木ト木下ノ拡張ヲ終ル

五時本社ニ行ク 株ノ受領デナク金デ借リルトノ型式ニナル由。福西ニ同道シテ旅費ヲ受取り百円ノ内五十円清平ニ渡シ電話料ヲ拂ワセルコトヲ命ジテ八時發ニ乗ル

◆◆54ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月19日(日)

天気 晴

六時四十分着 戒町ニ行ク マダ戸ガシマッテ居タ 中山氏午後デナイト來ナイトノコトニ菅屋へ電話シ八時半出テ行ク 九時十分着 経過ヲ報告 株ノ件モヨク説明シタガ一株モ出セナイトノコト 昨年中有力者ガヤルナラ協力仕様ト云ツタコト、後チダレニ会社ヲ取ラレル様ナコトガアッテモドンナ條件ニナッテモ君ニマカセルト云ツタコトナドデソレ問題ニセズタ、役員ヲヌカナカッタコトヲタテニ取ッテ一株主トシテハ應ジラレナイ

トノコトデアッタ。最早ヤ話シノ余地ナク一時モ過ギタノデ大坂ニ帰り中山氏ノ新事務所ニ行ク 約一二時間待ツテ會フ 今夜東京へ商工省へ、会社ノ認可ヲ取りニ行クトノコトデアッタ。夕食ヲ、サソワレタガ辭シテ新世界ニヨリ姉ト広子ガ今朝男子ヲ生ンダノデ病院へ見舞ニ行ク 二人トモ元氣デアッタ 九時帰宅 入浴就寝

◆◆55ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月20日(月)

天気 曇後雨

七時半起床 九時堺へ電話ス 中君長尾君ト話ス 一三賣レタトノコト 一森ノ手デ間モナク佐渡島ヨリ電話アリスグ行ク。役員辭退ハ吉田氏ノ相談ノ上決定シテ呉レ株ハ千株残シテ式百ダケ出シテモヨイトノコトデアッタ 株ノコトハ話サズ、役員ノコトハ承認シテ帰ル 竹島ニ行ク 一通リ話ス 株自分ノヲ出シテモヨイトノコトデアッタガ、間ニ合ツタカラト辭シテ晝食後降り出シタ雨ノ中ヲ一時發ニテ出發ス 車中經營者讀本ヲ讀ミ得ル處アリ。東京駅ニ清平來テ居タ

◆◆56ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月21日(火)

天気 雨

七時半起床 八時半工場

菅谷十時頃漸ク電話カハル 今日中ニコチラ、マトメテ居クカラ明日カ明後日取引出來ル様依頼ス

一三監(ママ)攻昨日試験終ラズ辻本氏ト電話ニテ交渉 鈴木ノアブロコトモアリ明日來ルトノコト

白戸ヨリ電話アリ 会ヒタイトノコトデアッタガ午後上京スルノデ明日ナラ居ルトコトワル

清平來 瓦斯電交渉近日トノコトデアッタ

午後上京 本社三三時頃ツク 福西一人カケテ大坂ノ方協議ノ決(ママ)果自分ノヲ以テ全部出スコトニシタコト 役員問題ハ此際手續キハ不穩ナノデ吉田氏ノ意見ニ従フコトトス

出ガケニ岩間來 今後本社ニ勤續出來ナイナラ前ノ金ヲ返シテ呉レトノコトデアッタ 返シタ筈デアッタガ株デヤッタノカ其辺調べテ見ルコトトス 尚福西トモ聞イテ見ル必要ガアル

エタパイノ篠塚氏ニ久シ振リデ會フ 第一ノ買収ヲ依頼ス。旭航空本社ニ行キ奥山ニ會ヒ二三式内金五百円受取ル 中山弘一氏第一ニモ丸ノ内ホテルニモ泊ツテ居ラレナカッタノデ會フコトヲ斷念シテ三越デ盆栽ト小鳥ヲ見テ帰ル

▲▼57ページ▲▼ 昭和14(1939)年2月22日(水)

天気 晴

操縦士試験受検者四名 佐田少佐石橋君來 第二回目高帰り着陸出來ズ下志津へ着陸 奈良原氏來場 吉田氏ノ方万一ノ爲メ金沢氏ノ方金策タノム 中沢氏手形振り込ダトノ手紙來ル

菅谷へ行き吉田氏ノ方交渉ヲタノミ帰場 会见ノ返事ヲ待ツ。午後一時吉田氏へ直接電話ス 客ト外出シテ帰りハ遅イ見込ミトノコト 夕方菅谷へ電話スル 金貸シテアッタ分來ラズ 金ヲ作ツテ居ルラシイトノコトデアッタ 少シ心細イゾ 丸元商会來 武崎六百元保証ノ件 十一日以來利子モ這入ツテ居ラナイトノコト 日歩五錢。武崎ト相談ノ上明日中ニ何分ノ返事スルコトス。日野、平松氏來 岩間ノ件調査ス 今日ノ調査デハドウモ支拂ッテアルラシイ 四千八百円ニ対シ五千円トシタコトヲ思ヒ出シタ

▲▼58ページ▲▼ 昭和14(1939)年2月23日(木)

天気 曇雨

菅谷氏へ朝電話 昨夜吉田氏遅ク帰り今日ハマダ起キテ居ラヌトノコトデアッタ 夕方電話シタラ菅谷氏不在 吉田へ電話仕様カト思ツタガ中止ス

丸元ヨリ電話アリ 竹崎君ヨリ來月十日迄待ツテ貰ヒタイトノコトデオ待チスルコトニシタカラ其節ハヨロシクトノコトデアッタ

試験十一時ヨリ初マリ最後ノ西尾君三時 廿五分丁度發 四時二十分桐生着 帰りハ明朝ノコト

午後福西氏三時頃來 自宅ニ帰り懇談 今後共自分ノ爲メ協力ヲ乞ヒ岩間氏ノ件自分トシテ岩間氏疎外スル意志ハナイガ協調出來ナイトシタラ止ムヲ得ナイコト、四千八百円ハ出資デアルカラ返金ノ理由ニナラナイコト 株券ヲ引受ケルコトナラ出來ルコト以上ハ福西氏ノ考へ 同感 其意味ニテ交渉ヲ一任ス 副社長問題ヨリ引イテハ一度総辭職ノ型式ヲ取ル必要如何トノ考へニ対シ福西氏モソノ考へヲ持ツテ居タトノコトデアッタ 以上ニテ四時過ぎ帰ル

▲▼59ページ▲▼ 昭和14(1939)年2月24日(金)

天気 晴

昨夜ノ予報ヲ裏切り上天氣トナル

朝礼後八時半出カケタ處へ清平來 昨日ノ福西トノ会见談ヲ話シ榊原氏トノ話シヲ聞ク 相羽君處ノ飛行機使用ノ件ハ決定セズ 當方ノコトモ聞イテ居ルトノコト小川氏

二聞イタ由 瓦斯電ノ仕事ヤルコトヲ話シタラ嬉(ママ)ンデ呉レタトノコトデアッタ
九時半菅谷氏二行ク 昨日吉田氏番頭ヲ連レテ上京 第百銀行へ行ツタトノコト 金ノ
話シラシイ由 決極(ママ)マダ金ガマトマラナイラシイ 菅谷氏宅ヨリ電話ニテ会见ヲ申
込ンダガ今日ハ差支アリ當方ヨリ菅谷氏へ電話スルトノコトデアッタ
西尾無事帰り學科モ終全部終了ス

姉ニ父君死亡ノ件話ス 全ク知ラナカッタ 妹ニ帰宅後話ス由
今日モ無翼(ママ)ニ終ル 昨夜ハ一寸心配デ三時頃目ガ醒メタ

◆◆60ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月25日(土)

天気 晴曇

八時過ギ工場出 一三式トアブロ年度内奨励金間ニ合セル様努力スル様佐藤、布施、
今村ニ話シ菅谷氏二行ク 其十時吉田氏訪問シタガ不在トノコト。土産物ダケ預ケテ
スグ晝食ニ行ク 菅谷氏原稿ヲ書ク間待ツ 自分ハ経営者讀本ヲ讀ム

二時半頃本社へ電話申込ンダガ中々懸ラズ 四時過ギ漸ク懸リ岡田氏ト話ス 福西
氏明日夕方迄不在ノ由 其他ノ株ヲ取マトメ明朝津田沼へ持参スル由 今日マダ待機
中トノベル 清平奈良原氏中沢氏へ挨拶ニ行ツタ由。菅谷氏ニハ最(ママ)非共明後日迄
ニ会见ノコトヲ打合せ尚万一ノ爲メ五千円バカリ金融ノ件ヲ相談ス 明朝会见ノ上ノ
コトトシテ分レ五時半帰宅

◆◆61ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月26日(日)

天気 晴烈風

終日風ハゲシク黄砂ノ如キ砂ホコリ天ニ立コム

九時菅谷氏宅二行ク 十時過ギ吉田氏ヨリ菅谷君出来テ呉レトノコトニ菅谷氏行ク
正午清平ト岡田氏來葉 バス停留所へ自分迎へニ行キ附近ニ晝食 国産側ノ株券受
取ル 残りハ福西ト田山氏ノ分ダケ

菅谷氏宅ニ行ク 二時過ギ菅谷氏帰ル 結局銀行問題デアッタ 一時貸シタ二十万円
ト十三万円ノロガ帰ラナイ爲メ合同銀行ニ話シタ處関積専務ガ伊藤ニ出スナラ止メ
ナサイト吉田氏ニ注(ママ)告シタガ吉田氏ハ自分ガ損ヲシテモ銀行ニハ損ヲサセナイ、自
分ハ約束シタカラヤルト云ツタ由 嬉シカッタ 岡田氏今夜京都へ出張ス

清平ト帰場 章氏ニ報告 自分ハ奈良原サンニ行キ報告 尚中沢氏ノ方ノ件打合せ清
平ニ豊橋ノ金ニ、百十円ヲ加へ千円トシテ渡シテ居ク 中沢氏ノ方右半分ダケ内入
書替スルコトトス

◆◆62ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月27日(月)

天気 晴後曇

定刻出社 ナホ來テ居タガ出來次第持タセテヤルコトシテ帰ヘス
八時半ヨリ千葉二行ク 昨夜九十八銀行ノ常務取締役ト会食 一時頃帰ツタ由 今
朝吉田氏ト会見サセルコトニナツテ居ルトノコト 銀行ノ方ハ大体ヨイ由。菅谷氏十時
頃吉田氏二行ク。株取引ハ一日ナラ一日トシテ明日ノ分一万円バカリ一時出スコトヲ
先キニ話シテ貰フ様タノム 夜八時迄待ツ 結局銀行ト吉田氏ノ会見ハウマク決定ヲ見
タ由 明日ノ分コレカラ話シスルカラ明朝來テ呉レトノコトデ九時帰宅
其間白ノ戸ニ午前中行キ午後散髪シタリ 本社ト清平ニ電話ス 中沢氏千円内入話シ
出來三河屋ハ二三日延バシテ貰フコトシタ由 明日本社ノ五万円ハ設計事ム所ト本
社員ノ給料ニ當アル様命ズ

◆◆63ページ◆◆ 昭和14(1939)年2月28日(火)

天気 晴

六時二十分起床 朝礼 ナホ來 午後金ガ這入り次第持タセテヤルコトス 九時五
分前菅谷氏宅二行ク スデニ小島常務ノ宅ヘ行ツタトノコト 十時頃電話アリ 九八銀
行ノ方へ來テ居ル 今日一万五千円出ストノコト 尚今明日中ニ大キナ方ノ取引モ出
來ルトノコトニスグ清平ヲ上京サセ判ト福西田山ノ株券ヲ持参スル様命ズ 十一時ヨリ
食事ノ爲メ外出 ホテイ屋デ食事 晝ノニュースヲ聞キ一時菅谷宅ニ帰ル 再三電話デ
スグ九八へ來テ呉レトノコトニ心モハヅミスグ行ク 二十分程前ニ歸ツタトノコトニ俱樂部
ニ行ク 一時間程待ち二時半頃吉田氏ト会見。菅谷君ヨリ特ニ僕ニ三十年來ノ苦節ニ
同情サレ出資セラレタ理由ノ話シアリ 吉田氏ヨリハ最初ノコトデアルカラ少シヤリ過
ギルト思フカモ知レナイガ悪イ點ハドン、改メルカラトノコトデアッタ 役員三名ノ外ニ
會計ヲ一名入レタイトノコトデアッタ

右ニ対シ一日モ速カニ來テ貰フコト 今日一万五千円現金ニテ受取り名刺ニ受取りヲ
書イテ渡ス アトハ九八ノ預金証ニシテ貰フコト 借金ヲ返スノハ吉田氏ノ人來テカラ吉
田氏ノ手デ返シテ貰フコトヲ依頼ス 尚二日ニ取引スルコトニ取キメ當日午五時クラブ
へ現役員ヲ招待サレル
十五万円ノ無利子貸付ノ外二五万円ノ件増資ノ場合認メテ貰フコトヲ一寸話シタガ
考ヘルトノコトデアッタ

◆◆65ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月1日(水)

天気 晴

午前五時起床 六時七分前津田沼駅 清平ヲ待合セ六時廿分發電車ニテ成田山ニ御
礼ニ参拝 朝食後汽車ニテ千葉ニ廻リ菅谷氏ニ立寄り今日ノ明治坐ヲ進メタガ差支ア

リ帰場 章氏奈良原氏見エテ居タ 金全部章氏ニ渡ス
ナホ待ツテ居タ 宇賀ト豊作ト二人ニ貳百三十円渡シ稲毛ニヤル 今日先方ニ差支アリ明日ニシテ呉レトノコト

午後辻本氏來 名古屋ノ永坂君同道ス 維持奨励金沢山出ル由 年度内ノ予定ヲ書イテ出ス。永坂氏ニベンツペラ一本譲受約束出來五十円前金渡ス

二時半ヨリ妻和子オバーサント明治座ニ行ク。三時半着 スグ初マル おキン齒痛デ來ラレズ見合ハナラナカッタ 白戸ハ二人來 六時頃電話アリ 今日日ガヨイカラ取引ヲ、スマセタイトノコトニスグ帰宅 株券ヲ取揃ヘル 田山氏五十株不足 止ムヲ得ズ大口分ヲ加ヘ持参ス 十一時半十三万五千円小切手ヲ受取り四千株ノ受渡ヲ終ル 奈良原氏ノ委任状ダケ明日届ケルコト

380頁へ

(380ページへ続く)

◆◆66ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月2日(木)

天気 雨後晴

五時頃ヨリ眠レズ六時起床 八時工場出 福西ニ電話シテ少シ早く來テ貰フ 章氏來ラズ 残金五千円持ツテ本社へ行ツタ由 不都合ナ話シダ

正午福西氏來 奈良原氏來 朝清平來 株主總會議案ニツキ協議 役員撰擧ノ件、本社移轉ノ件ニ加エルコト打合せス 二時野口氏ト菅谷氏來 五万円増資ノ場合認メルコト不能。現役員ヨリ経営ニツキ吉田氏ヘ一任ノ念書ヲ入レサセルコトノ二件ハスデニ自分ヨリ福西ニ話シ讃(ママ)成ヲ得テ居タノデ、皆ニ合ツテ貰フヨリハトスグ歸ル 三時頃章、岩間岡田三氏來 副社長歸ラズ

380頁

(380ページへ続く)

◆◆67ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月3日(金)

天気 晴

朝ユツクリシテ自宅ヨリ九八銀行ニ行キ十三万五千円ヲ入金 会社トシテノ当坐取引ヲナス 其マ、出社 章氏スデニ來テ居タノデ右渡ス 田山氏五十株問題ニツキ話シ合フ 会社カラ千円モ金ヲ出スコトハ絶対イケナイカラ岡田氏ニ傳エテ呉レトノコトデアッタ 十二時過ギ本社着 清平ハ木村君ニ會フ爲メ渋谷ニ直行ス。福西出社前岡田氏ト岩間君問題協議ス 昨日來福西シキリニ岩間君ヲ引留メ策ヲ取ツテ居ルトノコト之レハ此際止メテ貰フ方ヨイコト、金ガ入ルナラ株券ヲ所分シテヤルコトデ福西君ノ尽力ニ待ツコトトス。十五万ト二十万ノ差金即チ四割問題吉田氏不承知ノコトヲ話ス 岡田

氏ハアク迄主張シテ居タ証書ニ但シ書キ(増資其他ノ)

382

(382ページへ続く)

◆◆68ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月4日(土)

天気 雨後晴

六時四十分起床 八時半工場出 少シ眠カッタガクタブレタ感じハナカッタ。T一ニ型ノ願書訂証ヲナシ書キ替ヲ命ジ上京 野村銀行ニヨリ現金ニ仕様トシタラ判ガ違ッテ居テ受取レズ 本社ニ行キ岡田氏ニ判ヲ押シ直サセ現金ヲ取りニヤリ其間航空局ニ行ク 器材課石田、飯塚、山川三氏ニ会ヒ松戸ニテ修理ノ件話ス 皆ヨカロウトノコトデアッタ スベテ乗員課デアッテ居ルトノコト二千田課長ニ會フ 課長ハ外カラマダ一人モ其件ニツイテハ話シガナイカラスグ願書ヲ出セトノコトデアッタ 主任ノ青木航空官カラハ使用機数カラ予算迄話サレ考慮ヲ約サレタノデ、更ニ税務課ニ行キ大場氏ニ話シヨイ氣持ニナル

384頁へ

(384ページへ続く)

◆◆69ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月5日(日)

天気 晴

六時過ぎ起床 五時迄グッスリ眠レテ氣持チヨカッタ
川口サンヘ行ク予定ヲ中止シ大坂ヤ其他心配掛ケタ處ヘ手紙ヲ書ク 計六通 十一時頃終ル 会社更生ニ到ル迄ノ経過ヲ記録ス
十時頃菅谷氏ヨリ一時間位ノ内ニ行クカラ在宅タノムトノコト電話アリ 船橋行キ間ニ合ワナクナッタガ待ツ 十二時半頃漸ク來 晝食ヲ共ニス 菅谷氏禁酒シタル由 大ニヨカッタ 吉田氏一昨日來ラレタノハワザ、來ラレタトノコト 恐縮デアッタ 用件ハ吉田氏ハ中島ヲ目標トシテ居ルコト、見習工養生ノ必要アルコト 組織ニツキ工場長ト常務取締役ト二役ニ縮メテ平重役ニ無報酬トスルコトトノ意見ヲ持ッテ來タ。コチラニモ職制下書キヲ作ッテ居ルカラ持ッテ行クコトトス 自分ハ公正ニ考ヘテ国産、吉田、伊藤カラ一人ヅ、入レルコトヲ考ヘテ居タノデアッタ

二時半船橋ニツク 山東君待ッテ居タガ三十分程話シテ兎三角航空時代ニ行ク 安藤帰ッタアト 相羽君ノ話シ中デ珍ラシク浅見君ガ來テ居タ 飯沼、鈴木、渡辺、尾崎氏諸氏丁度間ニ合ッテヨカッタ 局ニ対スル不平ヤ希望ヲ聞ク 四時半終ッテ夕食ノ話シアッタガ山東待タセテアルノデ浅見氏久シ振りナノデ明日午餐ヲ約シスグ帰ルタ 食ヲ共ニス

自分考ヘノ通り作ツテ居ク。ソレデモ富尾兄弟オミットシナケレバナライコトニナルノ
デ気毒ダ

八時半タクシーデ帰ル 谷津デガソリンエンコシテ歩イテ帰ル

◆▼70ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月6日(月)

天気 曇リ少雨

定刻出社 久シ振リデ朝礼ス

家内国防婦人会デ香取鹿島参拝ニ行キ九時過ギ帰ル

今日ノ支拂ヒト積立金貯金ヲ銀行カラ出スベク小切手ヲ書イテ八時半出ル。福西二十
時着 一昨日ノ福西ノ言動ヲ謝シ今後尚国産側トノ協約ニツキサビトナツテ善處ヲ
乞フ。福西氏ヨリソレニツキ一曾努力スル旨述べラレ、役員問題ハ総辞職ヲ決行スルコト、
無役々員無報酬タルコト ソレニハ福西自身進ンデソレニ應ズルコト、吉田氏ニハ一切一
任服従スルコトノ話シアリ頼モシク聞ク 田山氏ノ株券ニ対スル金田山氏ヨリ請求アリ
シモ福西ソレヲ、オサエ一銭モ出サヌコトニシタトノコトデアッタ。之レハ岡田氏ノ話シト
合セドノ點迄ガ福西氏ノ努力カ多少ギモンアリ 然シ全体トシテヨイ結果デ安心シタ
今日ノ菅谷氏行キ福西氏モ同道スル由。局ニ行キ千田大佐ニハ書類ヲ見セル。出セトノ
コトニ提出。佐々木氏ニ右ノ話シヲナス 大賛成トノコトデヨカッタ

386頁へ

(386ページへ続く)

◆▼71ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月7日(火)

天気 雨

六時半起床 二日以来ノ立替金勘定ヲナシ八時半工場ニ出ル 飯沼サルノ件交渉スベ
ク電話シタガ出タアト 後チ本社ニテ電話シタガ、ツヒニ連絡シ得ズ。三式予備航空團
分奨励金願書下書ヲ作ル。機体取リニ來タガ雨ノ爲メ中止ス

正午本社着 株券書替夕方漸ク終ル

三時ヨリ役員会 清平静岡縣鈴川ヨリ帰ル 昨日ノ経過報告岡田氏ヨリ話ス。役員株
主總會デ総辞職スルコトニ申合セ出來ル。株主總會日取り春季皇例(マ)祭ノ廿一日
トキメル 後チ借入金ノ支拂ニウツリ福西ノ分結局三月十日迄ノ日歩ヲ全部支拂
タ、浅草ノ分ダケ半額百二十余負ケル。国産ノ分全部支拂ベキナレドモ野村ノ定期
ノ一万二千円ダケ

388頁

(388ページへ続く)

▲▼72ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月8日(水)

天気 晴

六時半起床 上天気 八時半工場出 昨日ノ経過ヲ記録ニ止メル 吉田氏へ昨日ノ支拂ヒ内訳表ヲ作ル。銀行ヨリ千五百円出シ清平ニ本社へ持タセテヤル 過日ノ清平渡五十円受取ル。飯沼電話シタガ又居ラズ。山田君ニ洲崎へ見セテ貰ヒニ行クコトヲ通知シテ今村ヲ出張サセル 十時ヨリ菅谷ニ行キ更ニ吉田氏訪問 晝食後會フ。ソレ迄待ツ間ニ国産ノ立場カラ四割承認ノ件話ス 菅谷氏考慮ヲ約ス。組織ニツキ国産則(ママ)カラモ一人加エルコトヲ希望シテ居ク。吉田氏昨日自分ノ名デ成田山デ大護摩ヲ上ゲテ呉レ御札ヲ今工場へ届ケ尚職工一同ニヨウカン百五十本ヲ呉レタ由 株四千株念書ヲ手渡シス 機械ト職工ノ件又話シアリ 一時半辭シテ柏飛行場ニ近藤部隊長ヲ訪問 今日迄ノ経過ヲ話シ今夜ノ援助ヲ依頼ス 吉田氏ニ會ツテ呉レルノコトデアッタ 航空本部へモ話シスルカラ予定計畫ヲ出セトノコトデアッタ 清凌亭デ六時半ヨリ木村氏ニ會フ 小林陸軍ノ囑托(ママ)ニナルコトニナツタノデ工場ノ方モ囑托(ママ)ニシテ貰ヒタイトノコト。當方立場ト状況ヲ話シ不可能ナレドモ代リヲ見ツケテ呉レルナラヤロウト木村氏ト小川氏ニ責任ヲ以テ貰フコトトス 工場ノ方清平ニヤラセルコトニ腹ヲキメル。佐藤ヲツケレバ出來ルダロウ

▲▼73ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月9日(木)

天気 晴

飯沼ニ會フベク十時工場出 十一時着 マダ來テ居ラズ一時迄待サレル。サル交渉丁度千円デ譲リ受ケ、スグ小切手ニテ支拂ヒヲナシ東日ニヨリ、ウインチ借リルコトヲ諒解ヲ得。帰宅五時 第一航空ニ立寄ル カネ粕谷君來テ居タ 十日取引ノ予定ノ處ニ三日延ビルガ明日三千円ダケ内金持参スルトノコトデアッタガ來週水曜日迄待ツコトトス

夜部長連集メ此度ノ経過ト今後ノ方針ヲ話シ協力ヲ求メ豚デ酒宴 話シ終ツタアト 清平來 今日機械ノ方、大分ウマク行ツタトノコトデアッタ

▲▼74ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月10日(金)

天気 晴後曇

七時起床 九時工場出 章氏來 今日國産ノモノダケデ懇談シタイカラ上京シテホシイタ方ドウカトノコトニ今日ハツカレテ居ルノデ一日工場ニ居タイト云ツタガ最(ママ)非ニトノコトニソレデ晝ノ方ガヨイト正午行クコトトス。一月末以來ノ計算ヲナシ不足金受取ル。尚東日ノ機体(一三式監(ママ)攻)大矢へ譲タニツキコレガ器材費五百円ニ見

ラレルノデ半分式百五十円支出スルコトヲ章氏ニ諒解セシム

正午ヨリ章氏ト上京 一時本社着 タレモ居ラズ半時間程待ツガ帰ラズ 第一ホテル
二居ルダロウトノコトニ行ツタガ居ラズ 晝食後シバラク待ツ 岡田漸ク來 留雄氏三時
半漸ク來ル 主トシテ留雄氏ヨリ話シアリ 出來ルダケ摩察(ママ)ヲ少クシテ將來共ニ
協力シテ行キタイトノコトニ自分トシテハ吉田伊藤國産ト比例ヲ三分シテドコ迄モヤリ
タイ旨述ベテ居ク 役員ノコトハ総辭職シテモ吉田氏ノ方ハ再撰サセル意向ナルコトヲ述
ベテ居ク。岡田ヨリ機械工場ノ方ヲ國産デ受付テヤツテ行キタイ様ナコトヲ云ツテ居タ
重ネテ三分ノ一ノ比率デ行キタイト云ツテ居ク

七時ノ自動車デ帰宅

羽布一反トリーマー一、五一本持ツテ帰ル

▲▼75ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月11日(土)

天気 雨

夜ハ風モ強クナル

八時半工場デ 旭航空サル見積ト東日一〇年奨励金願書ヲ作ル 正午帰宅 晝食後
福西二行ク 二時半着 昨日ノ会见ノ模様ヲ話ス 福西ハアク迄平役員無報酬 役員
辭職デ行クコトヲ主張シテ居タコトニ誠ニヨカッタ 菅谷氏ト会见ヲ希望シテ居タノデ
機會ヲ作ルコトトス。岡田氏ヨリ電話アリ 東京ミシンイヨ、賣ルコトニナツタトノコト
福西氏ト会见スル由 自分一足先キニ分レテ本社ニ行ク 大牧利三郎待ツテ居タ。手
紙ノコトモアッタノデ會フ シバラク話シテ今夜帰青スル由。南氏北支ヘ行ク送別会ニ行
ク 東京會館ニテ牛肉ノスキ焼デ福社長、藤田、章、清平デ行フ 岡田、福西來ラズ
岡田氏京都ノ伊藤氏上京 會フ由。後章氏ノ話シデハ海軍ニグライダー云云ノ由
朝菅谷ニ電話シテ福社長吉田氏ニ会ヒタイ旨申込デ居ク 吉田氏ヨリ近藤部隊長ニ
電話シ千葉ヘ來テ貰フコトニシタ由

▲▼76ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月12日(日)

天気 晴

終日自宅 朝風呂ヲ立サセル 散髪ヲナス

佐野利一君來 晝食後船橋ヘ角ノ祝三洋服タンスヲ買ヒニ行ク 三十五円デ一寸見ラ
レルノガアツテ買フ 佐野君ガ下駄箱(十円)ノヲ買ツテ呉レタ

帰宅後一時間程吉田氏ヘ相談事項 工場ノ調査事項等ヲ調べル 夜清平夫妻來 組
織ニツキニ二元二直シタノヲ書カセル

夕方盆栽ノ植替ヲナス 細迫氏來 操縦士ヲ借りタイトノコト 木下ト相談ノ上明日
返事スル事トス

◆▼77ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月13日(月)

天気 晴風強

北風強ク寒シ 十時頃菅谷氏訪問 機械購入 品目ヲ見セ組織表ニツキ打合セル 吉田氏電話シタガ不在 午後帰ルトノコト 一度帰場後帰宅ス 四時頃吉田氏ヨリ帰ツテ來テ待ツトノコトニスグ行ク 菅谷氏不在 一人吉田氏ト会见。機械購入方ニツキ説明 アト五月中旬ヨリ八月末迄ニカケテ四万円程入用ノコトヲ話シテ諒解ヲ得注文決定ス 奈良原氏ノ給料ハ吉田氏ポケットマネーデ社長ヨリ渡スコトニシテ與レトノコトソシテ外平重役ハ全部無報酬トスルコト 右ニツキ野口君呼ンダガ今夜差支アリトノコト 明朝十時集ルコトトシテ帰ル

大坂ハ今夜九時出發スル由

朝与ハノジイサンカナリヤ持ツテ來テ與レタガ一向鳴カナカッタ 十五日頃モットヨイノヲ鳥屋ガ持參スル由

◆▼78ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月14日(火)

天気 晴

六時起床 工場へ出ル前太田ノ小供ニ焼香ニ行ク

工場ニテソレ、用件ヲ命ジ十時 菅谷氏ヲ行ク丁度吉田氏宅ニ行ク 三十分程オクレテ菅谷氏來 マタマサレ午後一時漸ク會フ 野口氏モ同席 今後ノ方針ニツキ自分ノ意見ヲ述べ、機械購入ノ件決定 四万円ノ支出モ諒解済ミ 終ツテ組織ト役員問題ニ入り組織ハ社長総務ノ二元トシテ其下ニ作業ト營業トヲ居キ營業部ニ營業ニ會計庶務ヲオキ營業庶務ノイズレニカ国産ヨリ一名入レルコトヲ決定ス 役員ハ全部無報酬トスルコトニ決定。四時頃ニナツタノト來客モアツタノデアトノコトハ又ニシテ分レ明正午福西ヲ呼び菅谷君ト二人デ右話スコトニシタ 工場ニ帰ル 章氏本日出社セズ。兄ト清平來テ居タ 今日ノ話シヲナス。兄ノ土地ノ件菅谷君ニ昨日話シタダケデ、マダ吉田氏ニハ話セナカッタ

夕食ヲ兄夫妻清平ト共ニス。八時吉田氏ヨリ電話アリスグ行ク 八時半着 役員無報酬ニ対シ万一止メルト云フ人ニハ退職手當一千元ヅ、出スコトノ相談デアッタ。大變ヨイコトデアッタ 副社長ノ場合少シ多クスルコトニナツテ居タガ自分ハ平均ニシテ貰フ初年工養生二五千元予算ヲ話シ諒解ヲ得 十一時帰宅

◆▼79ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月15日(水)

天気 晴

六時起床 八時工場出 福西ト時間ノ打合セヲナシ三時千葉駅デ會フコトス 正午
與ハノ處ヘ小鳥屋カナリヤヲ持ツテ來タトノコトニ行ツテ見ル 昨年末ノコンテラストデー
等賞ヲ取ツタト云フノトメスト二匹買フコトトス オス二十円メス五円ノ由 高イトハ思
ワレナカッタガ尚交渉ヲタノミ三十円與ハニ預ケル。二時半ノ自動車ニテ千葉ニ行キ菅
谷ニ昨夜吉田氏ヨリノ話シヲナシ福西ト三人板野家ニ行キ菅谷ヨリ、辞職ノ件、役員
全部無報酬ノコト、四割ノ件不承認ノコト、本社廃止ノコト等ヲ話ス 福西ハ絶対讃(マ
マ)成ニテムシロ自分カラ言ワントスル處ヲ云ツテ貰ツタト嬉(ママ)ンデ居タ 菅谷山水會
ニ出席後右ヲ国産側ニ話ス方法ニツキ打合セ福西ヨリ岡田ニ話スコトトス 岡田氏昨日
京都ヘ行キ十七日帰ル由 岩間氏ノ件ハ福西一任サレタシトノコトニ任カス 株二百株
ヲ七掛ケニテ買ヒソレニ、千円程ツケテ貸金ノ方モ全部引取ル様ニスルトノコトデアッタ
福西ノ話シニヨルト昨日本社ヨリ色々話シアリ章氏ヨリ申出アッタガドウモ分ラナイ人
ラシイ

夜船橋ニテ角、久次郎徳次自分夫妻等ト夕食ヲ共ニス。夕方徳次ノ野一色機械來
八十八円ハ高イモノデアッタ

今日章氏小沢サンヘ行ク 菅谷氏小沢氏ト會フトノコトニ注意シテ居ク

▲▼80ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月16日(木)

天気 晴

終日在所 朝與ハノジイサンガ來テ昨日ノカナリヤ廿四円ニシテ呉レタ由。工場二一
寸出テ十時ヨリ船橋ヘ菓子ヲ求メ川口氏訪問 出ガケニ章氏ニ一寸門デアッタガバスガ
來タノデロヲキクコトモ出來ズ分レル 帰ツタ時ニハスデニ居ラズ ドコトモ言ワズ出タ由
川口氏ニ岩間氏ノ株二百買ツテ貰フコトヲタノム 吉田氏ト相談ノ上キメタイトノコト
デアッタ 兄菅谷氏ニ會ヒタイトノコトニ電話シタガ不在
十時半家内東京福西潤婦人ト會ツテ帰ル。稲毛ノナホガ畫ノコトデ金ヲ借りニ行ツタ
トノコトデアッタ

▲▼81ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月17日(金)

天気 晴

昨夜オソク徳次ノ野一色ヲカケテ居タガスイッチ故障ヲ起シタノデ直シタリナホノ話
シヤラデ眠リカラ醒メ三時頃眠ル 七時起床 洋服屋來 自分、徳次、久次郎ノ春着
ヲタノム。九時半ヨリ上京 局ニ行ク 誰レモ居ラズ飯塚サンニダケ會ツテ東日ニヨリ清
平ヲ呼ンデ昨日佐藤ト長島ガ行ツテ見テ來タ機械ノ見積書ヲ渡ス 海軍ヘ行カセルグ
ライダーノ件目下調査中ノ由。終ツテ予備航空團ノ第五回卒業式ニ出席。相羽出田
ト會フ 永野修身大将ノ訓示ハヨカッタ。終ツテ飛行場ヲ見協會ノ井上氏ト同車シテ

飛行館ニ至リ永渕君ニ會ヒ大藪ノコトヲ頼ミ帰ル
船橋ノ宅ヘヨル 丁度清平モ帰ツテ居テ菅谷氏モ來テ居タ 三田浜ニ行キ明後日ノ結婚式場ノコトナド取キメタ食ヲ共ニシ九時終ツテ帰ル

◆◆82ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月18日(土)

天気 晴北風

西北風強シ 三嘴大坂へ飛行ノ予定中止ス 譲リ渡証ヲ渡ス 章氏今日ハ早く九時來工場勘定ノ月計表ヲ貰フ 有給ノ多イノニ驚ク。部長給(マ)カラ工場改善案ニツキ答案出ル 預リ置ク 晝食ニ帰宅シカケタ處へ福西潤夫人來 今朝ナホヨリ速達ニテ廿日迄マテナイカラ百円ダケ出セトノ手紙ヲ持ツテ來タ。スグ家内ヲ返スコトニシテ自己役員会ニ出席ノ爲メ上京 船橋デ家内ニ會ヒスグ帰セル

役員会役員無報酬ノ件、一名ダケ職務ニツク件案外楽クニ承認ヲ得一安心ス。後チ岩間君ノ問題ニ及ビ弍百株七千円デ買フコトト退職手當百円出スコトヲ決定シ岩間氏ニ申渡シ中工場ヨリ電話アリ 瓦斯電ノ飛行機部長有坂少将ト木村氏來トノコトニ三田浜へ案内サセ清平トタクシーデカケツケタ處、ヨラズニ帰ッタトノコト 長島一人待ツテ居タノデタ食ヲ共ニシ明日瓦斯電へ材料ヲ貰ヒニ行クコトヲ打合セル
九時半角ノ父、兄、外一名來 食事シテ帰ル
恵美子帰ラズ十時家内ト徳治見ニ出カケル

◆◆83ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月19日(日)

天気 晴

六時半起床 工場ニ行キ福西ニ電話ス 留雄氏ヨリ明朝十時本社ニ來テ呉レトノ速達便來 昨日吾レ等帰ッタアト国産ヨリ何ニカ話シアリタル趣キ 今夜ノコトトシ菅谷君ニ電話ス 昨日經過ヲ報告シ岩間君ノ二百株ノ件川口氏へ三十五円デタノム。引受テ呉レタ 福西氏ニ六岩間氏ノ取引ハ今月中ニ延バスコトヲ依頼ス

辻本外二名來 一三式ト鈴木アブロ驗査終ル
大連送リカゼイン木下ニ立川へ持参スルコト依頼ス

正午顔ヲ當リ三時半迄宅ニテ休息 自動車來 三田浜ニ行ク 四時半ヨリ擧式 三十分ニテ終ル 写真ヲ取り七時半ヨリ宴会 島安、ト鷺津來ラズ 鈴木菊遅刻ス

福西ヨリ昨夜ノ話シ聞ク 国産主トシテ章氏ヨリ種々異議アリ 今朝岡田、福西宅へ來 大局論ヨリ、ナットク 明朝ノ会合晝頃ニ來テ呉レ ソレ迄ニヨク、キメテ居クトノコトデアッタ 万事タノム

◆◆84ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月20日(月)

天気 晴

六時半起床 八時半工場出

瓦斯電ノ材料ヲ見ル。清平ニ最初カラノ作業方針ヲ確立スルコトヲ命ジテ居ク

上京 局ニ行キクラブ一三ト鈴木アブロノ変更登録申請ヲナシ部長局長ヲ訪問シタガ居ラズ 青木航空官モ不在 工政課長ニ挨拶シテ帰ル 十一時半本社着 福西君見エズ、山東ニ鋸盤ノ金小切手渡シ皆ト清涼亭ニ行ク 岡田氏ヨリ国産ヲ代表シテ社長ヲ吉田氏ニ 若シ吉田氏ナラネバ空位トスルコト 工場長清平ヲキライ他ニ適任者ヲ入レルコト 国産三人共実務ニツカナイ事トノ申込ミアリ 之レニ対シ吉田氏ニ意ヲ通ズルコトヲ返事シテ居ク

岩間氏ノ件明日最(マ)非ニトノコトニ万一ノ場合福西氏金融スルコトトシテ約束ス 帰途清平宅ニヨリ打合せ 第一ニ行キ佐渡島へ電話ス 佐渡島留任トシテ呉レトノコト 馬鹿々々シクテ話シニナナイヨク、ソシナコトガ云エタモノダ

第一ノ妻君十時過ギ東京ヨリ帰ル 粕谷ガ契約スルカラ來テ呉レトテ行ツテ來タトノコトシカシ出來ズ 卅一日カ一日ニナツタ由

本社ニテ鹿島ノ山本氏來 廿五日無尾鹿島へ運搬スルコトトス

◆◆85ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月21日(火)

天気 晴

晴レタレドモ風寒シ

八時半工場出 一三トアブロ奨励金願書ヲ作ル

十時頃奈良原氏來 章氏、菅谷氏、福西岩間氏、岡田、留雄佐藤氏ノ順デ來場 二十十分ヨリ株主總會ト役員会ヲ開催 無事終了

吉田氏足ヲ痛メ出席不可能

之レヨリ先キ菅谷氏ヨリ岩間ノ株六千円デ吉田氏ニ無理ニ御願ヒスルコトニシタトノコト 岩間氏承認スルヤ否ヤガ問題デ福西、章氏等ト相談 結局自分カラ話シテ呉レトノコトニ話シス。初メ難色アリシモ、次ギニ心ヨク承諾シテ呉レタノデホツトシタ。会社ノ寸志百円ハ現金デ已ニ別ニ九八小切手ニテ六千円ヲ書イテ渡ス 株券二百株受取ル 氣ニシタ株主總會モ案外無事終了ス 佐渡島氏ノ希望ヲ入レラレナカッタガ之レモ止ムヲ得ナイコトデアロウ

◆◆86ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月22日(水)

天気 曇後雨

朝菅谷氏訪問 吉田氏へ昨日ノ礼ヲ傳言タノム 天気ヨクナリソウニナツタノデ川口氏晝頃來ルトノコトデアッタガ、委細依頼シテ帰場。部長ノ一部ニ昨日ノ話ヲナシ今後ノ

方針ヲ語ル

清平午後上京ス 機械買入レ手付金千八百円銀行小切手書ク 尚斎藤納入済ミノ分
ダケ手形書カセル爲メ押印シテ渡ス 富尾氏來 鷺津マダ休ンデ居ルノデ記帳出來ズ
トノコトニ墓参ヲサソウ 同氏ノ兄君モ八柱ニアルトノコトニ同道スルコトトス 兄夫妻
節子角、キミ家内和子ト行ク 三時八柱着 墓参ヲ終ル頃ヨリポツリ、降ル イソ
イデ帰ル 丁度六時菅谷氏待ツテ居タ 千円渡ス 内二百円廿五日ノ役員会ノツヒデ
ニ岩間氏ノ送別会ヲ三田浜デヤルコトトス 其費用トシテ受取ル

此頃五時ニハ目ガ醒メテ身体ニ力ガアフレル様ナ氣ガスル。エナルモノ効果カ神佛ノ加護
カト二角元氣ガ出テ來タコトハ此際有難イコトデアッタ

◆▼87ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月23日(木)

天気 晴風

朝昨日ツイタ植木ヲ植エ八時半工場出

午前中工場 午後上京 岩間氏株ヲ川口氏へ百株 吉田氏へ百株書キ替エヲナス 終ッ
テ東日ニ行ク 福知氏居ラズ 傳言ヲ書イテ奥平氏來テ貰フコトヲ書キ残ス 吉田ノ
服トメガネ預ツテ清凌亭ニ行ク。福前ノ生田アカシヤノ専務、水野ノ梅津ト太田、吉
原、清平外ニ松下倍(マ)席ス 議案ニツキ協議 決定後食事ヲナシ十時散会 吉原氏
ノ處株式ニ変更ノ由發表アリ

◆▼88ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月24日(金)

天気 晴

諸方針ノ研究ヲ命ジ清平各部長ソレニ當ル 章氏ニモ案ヲ渡シテ居ク

川口氏へ株券持参 印鑑ヲ貰ヒ菅谷ニ立寄ル 不在 途中晝食ヲスマセ吉田氏訪問 野
口君ニ會ヒ株券ト判ヲ渡シ明日午前十時來テ呉レトノコトニ辭シテカナリヤヲ見ニ行キ
割ニ安イノデ前ノガイヤニナツテ八円ノヲ一個求メル 丁度仁三郎通り合セタノデ持
タセテ帰シ自分ハ大和橋迄植木鉢ヲ買ヒニ行ク

三時帰場後帰宅 盆栽ノ植替ヲナス。上ノ原デ採集シタ楓ガ初メテ盆栽鉢ニ上ゲル
大変ヨクナッタ。ユスラ梅モ数年振リデ鉢ニ上ゲル

◆▼89ページ◆▼ 昭和14(1939)年3月25日(土)

天気 曇リ後雨

久シ振リデ定刻出社 其前ラジオ体操モヤル

早速部長級集メ研究事項ニツキ聞キ九時半ノ自動車デクラブニ行ク 十時半ヨリ吉

田、野口菅谷自分デ会議 今日ノ役員会デナスベキコトキメル。社長代表社員共自分トスルコト 本社今月中ニ引上ゲルコト 役員給料自分式百五十円 総務百五十円 清平百三十円トスルコトトス等ヲ取キメル 正午頃ヨリ雨トナル

二時半田山氏、福西、富尾兄弟岡田、兄清平、來 吉田氏ヨリ今朝ノ件話ス 中々ウマク話シヲ持ッテ行クノニ感心シタ 後半ハ一寸工合悪ルカッタ 後(ママ)ッテ五時出 三田浜樂園ニ行キ岩間氏ノ送別会ヲ開キツイデニ木村、小林、山崎、新役員ヲ照(ママ)介ス 全部帰ッタノ八十時

▲▼90ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月26日(日)

天気 晴

北西風強シ

五時半起床 島ヲ船橋へ見ニ行ク 六時半出タトノコトニ安心 千葉デ会フ 車中萱場ノ人ト會フ 社長旅行中ノ由 途中道路工事ノ爲メ困難シ一時頃漸ク着ク 誰レモ居ラズ 組立モセズ鹿島へ参詣ニ行ッタトノコトデアッタ。人夫ガ間ニ合ワナカッタ由 明日廿人依頼ス。模型クラブノ人二人來ル 行途中佐原中學ノグライダー訓練習ヲ見ル

▲▼91ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月27日(月)

天気 晴

風強ク上天氣

午前中ニ予定通り八回ノ飛行ヲ終ル

午後四回 計十二回 午後ノ百八十度旋回ハ完全ニ出來ナカッタ ヤハリ沈下ハカナ

リ早イ スピード九〇キロ 平均十倍位 沈下一、一、五迄 最後ノ直線滑空六四十米ノ最高地カラ五百七十余歩行ク 約十二位 時間三十二秒ニツキ一、二之レ等ガ最モヨイ處カモ知レナイ

笹川七時発ニテ帰ル

仁三郎手術シタ方ガヨイトノコト

▲▼92ページ▲▼ 昭和14(1939)年3月28日(火)

天気 曇雨

六時起床 八時ヨリ章氏宅ニ行 今日十時ニ本社デ役員会ヲ開キタイトノコトデアッタガ行カレナイカラ社員ノ諒解ト事ム所ノ開ケ渡シダケナラ適當ニヤッテ貰フコトトス 四割問題ハ直接菅谷氏ニ渡シテ貰フコトトス

帰場 部長会議ヲ開キ改革案審議ヲナス 三時過ぎ迄カ、リ晝食モ共ニス 一部終了
産業報国会ヲ開キ菅谷野口氏ヲ照(マ)介シ改革ニツイテ一通リ話シ組織ニツイテ発
表ヲナス 今日ハ工場ノ方ダケニトゞメル

長山君來 男装デアッタ 馬渕君ツイテ來タ ユツクリ泊ッテ行ッテハト云ツタガ、又ユツ
クリ改メテ來ルトテ帰ッタ

仁三郎モウ腸手術シタ方ヨイトノコトニツイニ東京同愛病院ニ入院サセル。明日手術ノ
由

今日ハ非常ニ急(マ)ガシカッタ 昨夜一昨夜ヨク眠レナカッタノデツカレタ

◆◆93ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月29日(水)

天気 曇少晴

八時工場出 仁三郎手術ノ爲メ家内早く上京サセル 午後二時手術 十七分デ好結
果ニ終ッタ由

午前中雑用多ク正午頃会議ヲ初メタ時第一カラ來テ呉レトノコト スグ行ク 株式ノ
引合セヲナシ一通リノ調査ヲ終リアトハ取引スルバカリトナリ帰ル 多分明後日取引ス
ル由

一時過ぎ帰ル 野口氏モ來 野口氏ト共ニ会議ヲ開キ昨日ノ決定事項ヲ野口氏ニ話シ
承認ヲ得 之レデ今日一日ヲ終ル。給料支拂ヒヲナス

富田老ト小供二人來場 夕方三田浜ニテ食事ヲ共ニス

章岡田両氏午後菅谷氏訪問シタ由 本社引上ゲヲ引延サントスル風ヲ見エルノデ今月
中ニ引拂フ様命ズ

◆◆94ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月30日(木)

天気 晴

六時起床 仁三郎看護ニキント代ル爲メ家内行ク 當分帰ラス予定

八時工場出 自分モ上ノ元ノ室ニ帰ル 九時頃野口氏來 同室ス 之レヨリ先キ菅谷
氏來 昨日岡田章両氏來テ頼マレタ四割問題ノ件国産ダケニ書イテヤルコトニシタガ
絶対ニ責任ハ持タナイ事ヲ條件トスルトノコトニ別紙ニ書クコトキメ文案ヲ作ル

清平八時來 青木同道本社ヘ行ク 役員變更登記ヲナス筈。萱場繼續出來ナイトノコ
ト電話デ話シトノコト、ソレデハ出來ルモノモ出來ナクナル 尚頼マセルコトトシテ万一ノ
場合ヲ思ヒ小切手ヲ持タセテヤル 肥田木三二百円電送ス
野口ニ諸種ノ用件ヲ引継グ

◆◆95ページ◆◆ 昭和14(1939)年3月31日(金)

天気 曇雨

定刻出勤 久シ振リデ君ケ代合唱 明日ヨリタイムレコーダー使用ノコトヲ注意シテ居ク

スグ上京 清平宅ニヨリ九時半同愛病院ニ仁三郎ヲ見舞フ モウ痛ミハスツカリナク元氣デアッタ 福西ニ行キ四割ノ書類ハ国産ダケニ出シ外ニハ出サナイコトニ打合セ出來羽田ニ行ク 東日格納庫ニテ梅本君ヨリ瓦斯電ノ三式譲受ノ話聞ク 乗池君電話カケタガ居ラズ。タノンデ朝日ニ立寄り帰ル 有坂閣下十二時半迄來ラズ 協会ニ行ク 二時ヨリ総務理事堀閣下ニスル会議ニ列ス 小倉中将(元大佐)ニ久シ振リデ會フ 其内ニ又アサリノ味噌シルヲ御馳走ニナリニ行クトノコトデ御待チスル旨御答エス。局ニ立寄ル 一三カンコウ六百円シタ由。大森ビルニヨル 今日カラ国産ガ小サイ室ニ這ッテ居タ

◆◆96ページ◆◆ 四月

革新ノ推行

機械作業ノ増加確立ヲ計ルコト

グライダー販賣ノ確立

◆◆97ページ◆◆ 昭和14(1939)年4月1日(土)

天気 晴

富田氏本日帰阪セラル

六時半起床 久シ振リデラジオ体操ヲ行フ 今日カラ六時トナル 定刻前工場出 本日ヨリタイムレコーダーヲ使用ス 出勤者ホトンド定刻ニ参集シテ居タ 五百円ノ値打ガカクモ、アッタ

野口氏五時迄ニ來ラレタラ來ルトノコトデアッタガ千葉ヘ行ッタラシイ

事ム員ノ作業分担ヲ定メ十五万円ノ借用証作製ヲ終ル。八日役員会ニ提出スベキ報告書予算ノ作製等ニツキ努力督励ス 其前六日ニ販賣会議ヲ開クコトトス

◆◆98ページ◆◆ 昭和14(1939)年4月2日(日)

天気 曇雨

三時頃ヨリ目ガ醒メ色々ノコトヲ考ヘル 頭ノソバノ電燈ツカズ四時頃ヨリ上ノ電燈ヲツケタマヽニス 一三覺書キヲナス 七時起床 小鳥ノ世話ヲシ箱ノ中ヲキレイニシテヤル 朝食後植木ノ植替ナド行ヒ十時終ル 内田ノ弟ヲ見舞ヒ困ルト思ッテ二十円見舞トシテヤル 工場ニ一寸寄り幕張ノ表具師ニ、一昨日買ッタ達磨ノ繪ヲ表装シ持参

帰途木元工場ニヨリ永渕氏ニ頼マレタ地所ノ件ヲタノミ晝帰リツヒデニ顔ヲ當ツテ貰フ
午後静ニ雨ノ音ヲ聞ク 夕方恵美子ヲ合(ママ)手ニ軸物ノ整理ヲナス

◆▼99ページ◆▼ 昭和14(1939)年4月3日(月)

天気 雨

終日雨 時々止ム

朝九時半ヨリ小沢寅吉閣下ヲ千葉ニ訪問 改組ニツキ章氏ノ位置並ニ昨年来陸軍ニツ
イテノ札ヲ述ベ尚今後ノ方針ニツキ一應話シ諒解ヲ求メ監督班ヘ挨拶ヲ如何ニスベキヤ
ヲ相談 閣下ヨリ話シテ居クトノコトデアッタ ヨロシク頼ンデ帰ル

北島氏訪問予定ナリシモ不在ニテ中止 野口氏來テ居タノデ種々協議ス 棚卸ホヰ評
價出來ル。宮崎氏午後三時頃來 來社ハ二十日頃ニナル由 山東ノ引合セ事ム上ノ研
究ヲナス

夜角ヲ呼ビ作業能率ニツキ話ス 研究セシム

◆▼100ページ◆▼ 昭和14(1939)年4月4日(火)

天気 曇雨

六時前起床 ラジオ体操 昨夜艶子ガ來テ泊ッタノニ五円小遣ヲヤリオバアサントキ
ミモ一所ニ病院ヘ行ク様電車賃トバス券ヲ與ヘル

内田ノ弟昨夜入院サセタガ永クモツマイトノコト

朝礼ヲ終ツテ奥山君訪問 名古屋ヘ行ツテ不在 大矢君帰ッタガ留都(ママ)番ハ知ラヌ
由 章氏宅ニヨリ借用証ト国産ニ対スル四割ノ書類ヲ渡ス 岩間君ノヲ事傳ケル 昨日
小沢氏ニ會ッタコトヲ話シテ居ク 章氏北支ニ行キ度費用ヲ株券デ借リタイトノコトデ
アッタ 工場ハ野口君來テ居タ 夕方ヤット予算書出來ル 八日平塚行決定ス

◆▼101ページ◆▼ 昭和14(1939)年4月5日(水)

天気 雨

五時四十分起床 ラジオ体操 定刻工場出 朝礼 出勤状況ヨシ 事ム所ガ悪イ
手紙二三書キ小宮ニ家賃送ラセル

今明日ノ手形ノ金五千八百円九八ヨリ引出シ清平ニ野村ヘ持参サセル 外ニ八百円美
装鋼板代七百五十円工場小拂ヒ引出シ外小切手十数枚三印ヲ押シテ居ク 佐野、三
河屋手形ヲ書ク 佐野來 渡ス 同道シテ上京 自分羽田ニ直行 乗池君ニ會フ。九百
円バカリ会社カラ借金ガアルトノコト 條件ハヤリ金ヲ千円ナリ千五百円預ケテ借り
ル約束ニタイトノコトニテ榊君ト二三日内ニ相談決定返事ヲ呉レル由

三時有坂部長ト會見 海軍トシテモ出來ルナラ伊藤ヲ援助シテヤリタイトノコト
ノ分一台分デモ先キニ持參シタラ、ヨケレバスグアト五台分又出ストノコト
乗池君ノ神風カーブレーター二個東日格納庫ヨリ借りテ歸ル
豊作昨夜盲腸手術シタ由 歸リニ病院ニヨル 仁三郎明日退院ノ由

▲▼102ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月6日(木)

天気 雨

今日モ寒イ雨 定刻朝礼

九時五十分出 十時半検事局着 筑井ノ件ニツキ聞取り書キヲ取ラレル マダ若イ兵
隊前ダカラ寛大ナル處置ヲ願ッテ居ク

午後三時ヨリ營業部ノ販賣會議ヲ行フ 六時終ル。

棚卸表久次郎七時頃迄力ハッテ出來上ル

仁三郎今日退院ス

徳二、久次郎、エミ子皆風引デ早く寢サセル

▲▼103ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月7日(金)

天気 晴後雨

久シ振リデ晴レタト思ッたら午後又降り出ス

朝礼後各主任ヲ集メ今後ノ方針ト予算關係等ヲ話シ職工ノ能率増進ニツキ注意ヲ喚
起ス

十時ヨリ上京 奈良原氏ヲ訪ネテ水上スキーヘ行ッタガマダ來ラズトノコトニ名刺ニ書
キイテ明日ノ役員会ノ件知ラセ日比谷公園ヲ散歩シ桜ノ盆栽ヲ見ル

三時丁度研究所ニ小川氏ト會見 小林君ノ件ニツキ協議 出來ルナラ返シテ貰フコト
然ラザレバ代リヲタノンデ山崎氏ニ會フ 文部省型大型キマッタトノコトデ原圖ヲ見セ
テ呉レタ 後チ上野ニ夕食ヲ共ニシ職工(機械工)ヲ頭ニ次ギニ山崎君自身來テ貰ヒタ
イト申込ム 大乘氣ラシカッタガ何ンダカダトモツタイ振ッテ居タガ別ニ驚カナイ 考
慮ヲ約シテ歸ル

▲▼104ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月8日(土)

天気 雨後晴

朝ハジャン、降ッテ居タ 正午過ぎヨリキレイニ晴レル

定刻出社 今日ノ役員会説明ノ準備ヲナス

野口氏ト十一時二十分発自動車ニテ同道 十二時半丁度東京駅着 スデニ皆來テ居

タ 奈良原氏ダケ不参 一時五分發 二時二十分平塚着 四時十二分發汽車ニテ帰ル 其間見学 中型旅客機モ大分出來テ居タ 學生機モ大分型ニナツテ居タ 職工八百名バカリノ由 辻本金井氏ニ會フ 主トシテ若林氏案内シテ呉レル 後半用ガ済ンダトテ戸川氏案内シ後チ信田、玉木來
五時半東京ステーションホテルニテ役員会 福西欠席 三月末決算報告ヲナシ事業計畫ヲ話シ吉田氏其他ヨリ大分質問アリ永クナリ七時ヨリ食堂ヲ聞キ尚会食中ニ野口氏ヨリ組織ノ件ヲ話シ人員補充ニツキ諒解ヲ求メ承認ヲ得 但シ廃品倉庫ノ件ダケ次回会合迄保留トナル 次回ハ來月ノ予定ノ處留雄氏ノ希望ニテ來ル十八日開クコトトス

▲▼105ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月9日(日)

天気 晴

上天氣 ユツクリ七時起床 ツル姉ニ起サレタ

八時半工場出 清平來テ居タ 十一時辻野口氏ト話シ工場ヲ見テ兄ト帰宅 入浴晝

食後盆栽ノ手入レナドス

奈良原氏來 三時頃帰ラル

正午散髪ヲナス

夜兄夫婦明朝帰坂スルノデ送別会 清平、角、兄、自分四夫婦ト小供ダケ 丁度十

三人 ニギヤカニ食事ヲナス 八時ノバスデ船橋ヘ帰ル

▲▼106ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月10日(月)

天気 晴

風静カナ上天氣

朝礼後工場ヲ見ル 四五名仕事ニヤツテ居ナイモノガアッタ 仕上トセンバン各一名

ヅ、今日カラ來 初年工七八名這入ル

原商店ヨリ式千五百円ノ小切手不渡リ帰ツテ來タトノ電話アリ ヨク調ベルト原ノ手

形ヲ山東君受取ラズニ小切手ダケ渡シタ爲メ手形ガ先キニ支拂ツテアッタコトガ分リ

原商店デ恐縮シテ居タガ今更取カエシツカズ 山東來ラズ聞クコト出來ズ驚津ニ云ヒ居

イテ上京 局ニ行キ榊原氏ト文部省デマトメテ注文ヲシテ貰フコト 値段ノ方モ相談

出來ルコト等ヲ話ス 大變乗氣デアッタ 実現ヲ見ルコトと思フ 修理ノコトハ各學校デ

ヤル様講習会ヲヤルコト。ゴムミリ各社ヘ分配送ルトノコト。文部省形圖面出來次第

來テ貰ヒタイトノコトデアッタ パラシュートノタタミ方講習会モヤルコト

東日ニヨリ自動車ノコトヲ話ス 岸田君又父親危篤デ歸ッタ由 十八日カラ名古屋ニ

行ク由

歸リニ福西ニヨリ借用証妻君ニ渡シテ來ル

▲▼107ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月11日(火)

天気 晴

今朝モヤ深シ 好晴風静

終日在所 実行予算ノ再編制ヲナス

宗里ノ妻君來 粕谷ニ電話スル 今日中カ明日ニ現金ヲ持参スルトノコトデアッタ。司法省ノ和田氏ニ電話スル 先方デモ青山氏ノ返事ヲ待ツテ居ルトノコトデアッタ

菅谷氏來ルトノコトデアッタガツヒニ來ラズ

野口氏來 十一時過ギ千葉へ行クツヒデニ宮崎氏ノ給料ト花見ノ件ヲ貰フ様依頼ス 午後日日ノ連中五六名來場 大牧志鶴明日ノ試験ノ爲メ

▲▼108ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月12日(水)

天気 晴

今日モ快晴

朝菅谷氏昨日來ルト云ツテ來ナカッタノデ行ツテ見ル 過日ノ決算報告ト予算ニツキ彼レコレ話シアッタガ一應説明ス 自分ノ話シガ余リ正眞スギタコトヲサトツタ 少シ樂觀的二風呂敷ヲ開ケルノデアッタ

第三商事ト当社ノ合併問題デアッタガ之レハ吉田氏ニ聞イテ貰フコト 吉田氏ガヨケレバ、イツデモ判ヲスル旨述べテ歸リ野口氏ニ右報告シ予算ニツキ協議ス。花見ノ件十五日野田正油見学清水公園行キト決定 宮崎氏へ百円ヤツテ呉レトノコト 自分ノ予定通りデアッタ。

一等ノ試験志鶴君桐羽(ママ)デ着陸後發動機廻ラズツヒニ泊ル 梅本君急行ス 佐田、伊東両氏來 三田浜ニ泊ル 吉田大牧宅へ泊ル 竹崎氏ノ件青柳氏ヨリ電話アリ 竹崎氏分解決願度シトノコト 夜竹崎氏ヨリ右ニツキ善處スル安心ヲ乞フトノ電報アリ。岡田勇氏ヨリ電話アリ 明日上京電話スル旨シラス

▲▼109ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月13日(木)

天気 曇雨

定刻出 九時ヨリ局ニ行ク 青木少佐ニ會ヒ明年度ノ修理ノ前ニ手ナラシニ本年若干ノ修理ヲ願出ル 局トシテハ東京飛行機以外ニモ発注スルコトヲ差支イガ部品ガ陸軍ノ仕事ヲシテ居ル處デナイトウマク行カナイノデ困ルノデハナイカ、ソレサエウマク行ケバ出スコトハ差支ナイトノコトデアッタガソレハ航空本廠へ一言局カラ話シテ貰ヒタイトノコ

トヲ述ベテ居ク。尚此修理モ器材課デ扱フカ乗員課デヤルカマダ、キマラナイガ何ントカキメナケバナナイトノコトデアッタノデ石田サント飯塚サシニモ頼ンデ居ク。柳原サシニ會ヒ圖面ヲ見セテ貰ヒ帰ル 清水君ニ久シ振リデ会フ 岡田勇氏ニ七十円渡スクラブリヨリ借リル 二時半船橋へ帰ル 第一ニ電話シタガ粕谷マダコナイトノコト 來タラ知ラストノコトニ工場デ待ツ ツヒニ電話ナシ
志鶴外一名四時半頃帰着ス 大牧明朝ニナル

▲▼110ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月14日(金)

天気 快晴

五時過ぎ起床 用件ヲ書キ付ケテ徳治ニ持タセテヤル
學會ノ記章無イノデ清平宅へ寄ッタガ寢テ居テ中々起キナイノデ屏ヲ乗り越シテ這ッ
タラ中カラ明ケテ居タ

八時十分高田ノ馬場着 予定通り所沢ノ整備學校ト中島ノ新武蔵野工場ヲ見學
二時半終ツテスグズット帰ル 四時十五分帰場ス 野村入金シタカ聞イタラマダセヌト
ノコト アスノ花見デ休ムニツイテスデニ銀行遅ク止ムナク明日徳治ガ日直スルトノコト
ニ徳治ニ野村へ持参サセルコトトス 山東モ此頃ボケタ様ダ

青木、竹田盲腸ニナリ青木入院セリトノコト 去月末カラ之レデ入院四名 外ニ合計
六名デアル 米ヲ調査ノ必要アリ

大牧志鶴一等試験六時頃漸ク終ル

千葉ノ小沢中将昨日急死セラレタ由タ刊ト福西氏ノ電話デ知ル 夕方弔問ニ行ク
中島ノ見學ハ大ニ効果アッタ 通路ハ地下道ニナッテ居タ

▲▼111ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月15日(土)

天気 晴

御花見 八時四十分船橋発 野田正油十七工場ヲ見學 醬油油ガホントーニ正油カ
ラ出來ルコトハ今日初メテ知ッタ

清水公園モ予想以上ニヨカッタ 皆モ大体満足シタコトト思フ 四時四十分デ皆返シ
主任以上ノモノ野田門松へ 吉田氏ノ招宴アリ一同ヲ照(ママ)介シ八時半終車ニテ帰
ル

徳治昨夜青木ノ處へ看護婦來ナイ爲メ泊ッタ由 青木昨夜手術ヲナス。今朝マダ看護
婦來ナイトノコトニ君ヲヤル

花ハ満花デチラゝ、落花ガキレイデアッタ 明日ハ少シオソイカモ知レヌ

▲▼112ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月16日(日)

天気 曇リ

終日在宅 朝ト午後工場へ行ク 宿直ハツキリシナイコト、作業場ノ掃除不良ナド特ニ目ニツク

奈良原氏來宅 晝食後小沢サンノ告別式ニ行カル

◆◆113ページ◆◆ 昭和14(1939)年4月17日(月)

天気 曇後晴

クラブ花見 三里塚へ行ク 奈良原氏モ自分モ行ケズ徳治行ク

朝礼後各主任ヲ集メ掃除及アト仕(ママ)末ノ不良 宿直ノデタラメニツキ、ツヨク注意ス

十時ヨリ上京 福西ニ行ク 岡田氏ト十一時ヨリ会見 五日ニ小沢サンニ会ツタ時工場ノ根本方針ヲキメルコトヲ教ヘラレタトテ部品工場充實 之レガ費用経(ママ)上シテ近ク來ラントスル金ノ不足ヲ補フ方法ヲ取ツテハドウカトノコトデアッタ 方針ハスデニ部品デ利益ヲ見ル迄ヤルコトハキメテ居ルガ、今吉田氏ニ出サセタコトハ廿五台ノ機械ヲ動カス様ニスルコトデソレガマダ、ソロワナイ内ニハ自分カラハ云ヒニクイカラ岡田氏ヨリ意見トシテ話シテ貰フコトトス 外ニ四割問題全部ニ出シタ方ガヨイトテ田山氏ガ云ワレタトノコトデアタイプニ打ツテヨコシタ。頼デ居イタガ之レハ国産ニダケ出スニツキ他へ話シテハ困ルト云ツテ居イタノニ田山氏ニ話シタコトハ信義ニモドルモノデアル。岡田氏ト機械展ヲ見清平ニ會フ。航空局ニ行キ整理部長工政課長ニ會ヒ習修理工場ノ件依頼ス皆好意ヲ見セテ呉レタ 柳原氏ニ會ヒ坂本氏ニモ話シ福西氏出盆栽ヲ呉レルトノコトニタクシーデニ鉢貰フ 石ツキノエゾ松ハヨカッタガ外ニ石ツキノ松ト赤花紫塩モヨカッタ 三時半帰り工場ニヨリ五時半帰宅 腹ガヘツタ 今頃ハ三パイタベテモマダホシイ位デ食欲ガ増シタコトハウレシイ

◆◆114ページ◆◆ 昭和14(1939)年4月18日(火)

二番バスデ菅谷氏へ決算表持参 一三十分話シテ十時迄ニ來テ貰フ様タノミ帰ル 九時半岡田氏來 十時半漸クソロウ 会議初メル。決算ノ棚卸評價低ク過ギル爲メ会社創立當時ニ無理ガアツタ如キ考ヘヲ持タレルコトヲ恐レ岡田氏ヨリ、シキリニ質問ヤラ辨解アリ 次ギニ菅谷氏ヨリ昨年ノ経過ニツキ質問アリ 岡田氏ヨリ事業計畫「グライダー二十台計畫ガ十台ヨリ賣レナカッタ」ガ伊藤氏ノ誤算ヨリ生ジタモノトノ辨明アリ 当統制經濟下ニ於テグライダーヤ飛行機ノ製作ハ不合理ニテ部品ニヨツテ工場經濟ノ根本トスルコトトノ提案アリ聞キ居ク 尚右ニツキ自分ヨリ部品製作ハ国策ニソウモノニシテ会社創立前ヨリ自分ハ知ツテ居タシ実行シタカッタガ迷惑ナガラ実行シ得ナイ事情ニアツタト暗ニ資金不足ヲ述ベテ一矢報ヒテ居ク 三時頃ニナリツヒニ野武士會ニ行

ケナクナル 奈良原氏モ中止ス

夕方第一ノ妻君來 司法省ノ和田氏來 至急キメテ呉レトノコトデアルガ粕谷來ラズ
トノコトニ明朝早ク同道スルコトニキメル

夜菅谷君ヨリ電話アリ共ニ吉田氏訪問 海面土地一万六千七百五十円ニテ話マトマ
リ南波氏へ手紙出スコトス。後チ会社整理ノ実ヲ上ゲル爲メ三十万円ニ減資ノ相談
アリ三人デ内定ス 尚三分位ノ配當ヲイツ出來ルカトノコトニ下期ニ実行スベク調査ス
ル旨返事ス
十二時帰宅

▲▼115ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月19日(水)

天気 曇少晴

六時起床 多少汗ハ出タガ直ラズ 気分ハヨカッタ

丁度七時大神宮下宗里妻君ト一所ニナリ上京 安田ニ行ク 青山、粕谷ヲ電話デ呼
ビ共ニ司法省保護課ニ行キ角岡氏ニモ会フ 今日初メ全部ニ會エタトノコトデアッタ 一
万円デキマツタガ報酬問題デゴタツキ角田ガ千円ノ借用証ヲ書クトノコトデオサマラ
ズ松本デ食事ヲナシ交渉 ツヒニ宗里ヨリ五百円現金ヲ出シ前ノ千五百円ハ其マヽニヤ
ルコトデキマル 安田千円呉レト大分ガンバッタガ右ニテ決定 契約書ヲ作ツテ再ビ行キ
調印迄終ツタガ課長ノ言デ、未成年者ノ代理行爲ニハ親族會議ノ決議ガ入ルトノコト
ソレデハ、オクレルノデ、ソノノ名議(ママ)デ明日登記シテ明後日取引ト決定ス 安田ノ
方ハ角岡ノ方千円取レテモ取レナクテモ五百円デ打切リトス 千円出スナラ角岡ノ借
用証當方ニ取ルコトト申入レタノデアッタ

七時帰ル 途中清平宅ニヨル 山東、ト入社予定ノ ■ 日田君ガ來テ居タ 大分ハッキリ
シタ男デアッタ

▲▼116ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月20日(木)

天気 晴

終日会社 南波サン外小宮ヘモ手紙書ク

來月八日ノ役員會迄ニナスベキ事項ニツキ調査 倉庫過日廃品倉庫建築承認ヲ得ラレ
ナカッタノデ丁度空イテ來タノデ大格ノ一部ヲ倉庫トシテ利用スルコトニキメ申渡ス
野口氏千葉ヘ行クトノコトニ海面土地ト共ニ陸ノ兄ノ土地モ話シテ貰フコトニ依頼ス
夜早く床ニツク

▲▼117ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月21日(金)

天気 雨

七時清平宅ニヨリ昨日栗谷サンカラ中島出張所ニ照(ママ)介シテ呉レタトノコト 行ク様ニ相談ス

青年航空團ノ本年第一回訓練大会ノ発会式ニ青山青年会館ニ行ク 定刻ニ五分オクレル 式後沢田君ニ無尾試飛行ノ助力ヲタノミ快諾ヲ得 尚茶会ノ時宇高閣下ニモ諒解ヲ得テ居ク

根岸君ニ會フ 文部省イツデモヨイトノコト

関口氏ヨリ月曜日文部省型ニツキ來省サレタイトノコトデアッタ。佐田少佐ト同乗シテ局ニ行ク 甲斐榊原サンニ関口サンノコト話シテ居ク 協会へ行ツテ見タガ誰レモ居ラズニ三挨拶シテ帰宅ス

第一ヘ電話シテ見ル 又模様ガ変ツテドウシテモ親族會議ガ必要トノコト ツヒニ山口ノ方ノ代リニ自分ニナツテ貰フコトニ司法省ノ和田サンニ電話シタラキメテ書類モ作ツテアルトノコトデアッタ

川辺君來 夕方鈴木ヲサソヒ樂園ヘ夕食ニ行ク 帰リニ西川ヨリ和子ヲ連レテ帰ル 十時ニナツタ

▲▼118ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月22日(土)

天気 曇晴雨

七時起床 散髪後工場出

野口氏ヨリ吉田氏ト会见 自分カラ依頼シタ件ニツキ兄ノ地所ノ件ツイデダカラ何ントカ仕様トノコトデアッタ由 株式現金買入代金ニツイテハ研究スルトノコト 其他一件

野口氏午後柏ノ警察ニ用件アリ帰ル 自分佐藤氏見舞ノ爲メ三時ヨリ上京 店ニヨリ更ニ自宅ニ行ク 大分ヤセテ居タ 減資ノ件相談ス。反対ハシナカッタガ、ソシナニシナクテモヨカロウトノ意見デアッタ

帰途清平宅ニヨリ夕食 減資問題ニツキ其手續キナド研究ス 和子ノ鷺子ノ終ルヲ待ち九時帰ル 入浴

▲▼119ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月23日(日)

天気 曇雨晴

朝菅谷氏訪問 減資問題研究ノ結果国産側其他ニ対シ借入金、株共ニ吉田氏引受テ貰フ覺後(ママ)ガナイト話シガ進メニタイガト聞イテ貰フコトトス 菅谷氏ハ佐藤氏ノ意見ノ如ク此マヽデ利益ヲ上ゲ得ラルヽナラバシイテ減資ニモ及ブタイトノコトデアッタ 章氏ノ旅費借用問題ハ国産ノ金ヲツカツテ貰フコトニ意見一致。兄ノ土地ノ件コトワツ

テ居ク 明日九州へ行ク由 五十円シカ旅費ガナイトノコトニ五十円コシラエルコトヲ約ス

千葉税務署ヨリ合資会社最後ノ決算提出方通知アリ ドウシテモ十一万円バカリノ利益ヲ如何ニスルカノ問題デ利益ト云ツテモタゞ評價ダケノモノデ株ハ皆二分テシマッタノダシ税金ノ出シ處ガナイノデ、一應福西ト相談スルコトトス

金工部機械仕事主腦者ニツキ長島佐藤ト相談ス。イヤムシロ君タチニ出來ナイデハナイカト云フコトヲダメヲオシテ居ク 今後新タニ入レル爲メニ
夜豊作ノ全快祝ヲ兼ネテ一族牛肉会ヲ催ス

▲▼120ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月24日(月)

天気 晴

十時頃菅谷氏來 五十円渡 クラブヨリ交際費トシテ出ス

今日ノ産業報国会幹部ガタレモ居ナイノデ奈良原サンニ來ル様ヤッタガ電報デコラレヌトノ返電アリタリ 東京デ何ニヤツテ居ルノカ、ドウモ困ツタ人ダ

二時半工場ヲ休ミ三時十六聯隊ノ尾高少佐來社 工場案内シ三時半ヨリ初メル 大木船橋署長千葉縣庁へ行ツテ遅クナルトノコトニガイ旋兵士ノ入社記念品贈呈ヲ行ヒ尾高氏ノ講演ヲ聞ク 支那民衆ノ心持チヤ飛行機トノ共同策戦ナド有益デアッタ
終ツテ階デビールヲ出ス 丁度大木署長モ來 六時散会ス 夜早ク床ニ入ル

▲▼121ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月25日(火)

天気 晴

午前中工場 金工部作業ノ人員ノ研究ヲヤラセル 時報発行ノ順序ヲ作ル

晝前野口氏來 奈良原氏ノ給百五十円 外ニ菅谷君ノ分会社デ出スコトヲ不當ナリトシ吉田氏出シテ呉レタトテ千五百五十円ノ小切手ヲ持ツテ來タ コレニハ恐縮ノ外ナカツタ 前役員共ガ僕ニ対シ御礼ヲスルトテ尚其礼ノ上前ヲハネ様トシタ心事ニ引クラベ実ニ雲泥ノ差デアル。午後上京 竹崎ニ行ク 会エズ東日デ待ツ 五時頃來 結局丸天ノ方六百円ニマケサセテコチラデ支拂ツテヤルコトニ打合セル 大蔵羽田氏ニ会フ 大蔵久兵衛ト云フすしやへ案内ス 九時帰宅

▲▼122ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月26日(水)

天気 曇夜雨

工場出 金工部職人充実ニツキ佐藤、長島、宇賀ニ命ジ清平ト上京 中島出張所ニ横地氏ヲ訪問(栗谷大佐照介)ス 機械ガ揃タラ知ラセテ呉レトノコトデアッタガ差當リ

ホシイノダガソウモ行カナイラシイ 中島トシテハ今後ノ下請ハ五十台以上ノ設備アル處ト云フコトデアッタ 尚機械部品ノ將來見込ミニイコト 即チドコノ機械工場デモ出來ルコト。ソレヨリドユラルミン仕事ノ特種作業ガヤラレタラ人モ三十人限度位ガヨイトノコトデアッタ。之レハ自分モ考テ居タコトヲ裏書キサレタ様ニ思タ。協会各囑托(マコ)、新総務ニ挨拶シテ、局ニ行ク 技術部長不在 松浦新器材課長ニ挨拶シ青木サンニ練習機ノ下請ケヲタノム

池田君ニ會ヒ鳥飼氏ノコト相談 同氏今月カラ五十円ツヽ出ストノコトデアッタ。大森ビルニ福西岡田ニ會ヒ合資会社ノ利益問題ニツキ協議 尚、之ヲヘラスコトヲ考慮スルコトトス

▲▼123ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月27日(木)

天気 曇リ

終日在所 仕事ノ無イコトガシミヽヽ氣ニナル

三時半ヨリ清平ト上京 自分ダケ三越ノ七階ヲ見テ小鳥ノエヲ買ヒ六時過ギレインボーグリルニ行ク 七時ヨリ初マル 食事出ズサントウイチトビールガ出タガ、カタスミヘ喰ニ行カネバナラスノデツヒニ行カス

話シアメリカカラ初マリ英佛伊獨ト航空機製造ノ状態ヲ聞ク 獨ハモットモ、クワシク又モットモ大量生産ガ行ワレテ居ル由 伊ハ大分オクレテ今尚木製機ガ多イ由。十時マダ話シテ居タガ出テ新橋駅前デスシノ立喰ヲシテ歸ル 十二時半眠ル

▲▼124ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月28日(金)

天気 晴

今朝ハ少々ツラカッタガ五時半起床 六時十分出テ成田山ニ参拝シ八時半帰宅 朝食後工場ニ出 野口君奈良原サン來 野口氏ヨリ百五十円受取り奈良原サンニ渡ス 菅谷君ノ千円ハ自分ニ借用シタコトニシテ貰ヒタイトタノンデ居ク

上京 技術部長又不在。片桐氏ニ會ヒ少時話ス 電話申込ミニノ爲メノ証明書ヲ貰ヒ徳次ニ中央郵便局ヘ出サセル 自分瓦斯電ニ行 乗池井上ドチラモ居ラズ再ビ局ニ歸ル 青木氏マダ會議 練習用機材不足ノ話ヲ聞ク 尾崎氏ニ會ヒ尚青木氏ヘ依頼シテ居ク。浅草ニ参詣シニュースヲ見ルツモリヲ止メ帰途第一ニヨル 機体トセンパン四台ミーリンクセーパー各一台來テ居タ 今日ハツイブンクタブレタガ入浴後ハ返ッテ気分ガヨカッタ

乗池ヘ速達出シ會見申込ム

▲▼125ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月29日(土)

天気 晴

二日續キノ休ミハ上天気ラシイ

乗池ヨリ電報來 意味ガヨク分ラナイガ電話ガカヽルラシイノデ工場ヘ行ク 丁度菅谷氏小供ヲ連レテ來 写真ノ現像ヲタノマレ徳次ニヤラセル ツヒテ二千円ノ件話シテ諒解ヲ得。共ニ船橋ヘオドリヲ見ニ行ク 和子ガ愛馬行進曲デ三人デオドツテ居テ勢ヒアマッテスベツテタオレ舞台カラ落チカヽニハフキ出シタガ泣カズニスグアト續イテ踊ツタノハヨカッタ

夜酒井行雄止メタイトテ來 ヨク話シテ聞カセル 自分ハヤメタクナサソウダガオジノ家ヘ來イトノコトデアル由

▲▼126ページ▲▼ 昭和14(1939)年4月30日(日)

天気 晴

九時工場出 野口氏ト五日支拂ニツキ打合せ 吉田氏ニ明日相談シテ貰フコトトス 機械ノ金ヲ一時流用シテ其間グライダーノ販賣ニ努力スル事

肥田木帰ツタカ大連ヘ手紙見タカ返待ツト南波氏ヘ打電ス

夕方幕張ノ表具屋ヘ富士ト観音ヲ持参ス ダルマバマダ出來テ居ナカッタ。ツヒテ二千葉ニ行キ菅谷氏ヘ写真ヲ置イテ來ル タレモ居ナカッタ

乗池ヨリ電話アリ 明日正午会社ヘ行ク事ヲ約ス

▲▼127ページ▲▼ 五月

グライダー販賣強化

機械木工部品修理作業ヲ取ルコト

▲▼128ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月1日(月)

天気 雨晴曇リ

定刻出 八時ヨリ上京 清平ニヨル 菅谷ニ電話シテ今日野口氏吉田氏ヘ五日支拂ノコトヨリ機械ノ金融通ノ件話シニ行クコトヲハナシ尚減資ノ件八日ニ発表シタイ吉田氏ノ意向ニツキ自分ノ調査ニヨル話シヲ今日シテ貰フ様依頼ス

航空局ニ青木航空官ニ工政課ヘ提出スベキ今年度擴張計畫ヲ書イテ出ス三三三百万円ノ内二百万円設備費トシテ書キ出シテヨイ 尚其上ニ設備中内容モ出セトノ言葉ヲ聞

ク。乗員課長ニ會ヒ第一ノ賣レタコトト川辺君ノ就職ト協会ノ表章(ママ)ヲ相談ス野武士デ推撰シテヤレバ自分カラ進メテヤル 就職ノ方モ知ラナイ人ニ照(ママ)介出來ナイカラ聞合セガアレバ大ニ取持ッテヤルカラ僕カラ話シテヤレトノコトデアッタ 技術部長ニ會フ 修理ノ件今年度ハダメダロウトノコトデアッタガタノム 部品ハ瓦斯電ヲヤハリマトニヤッタ方ガヨイトノコトデアッタ。今日ハ大分都合ヨカッタ 佐々木氏ニ岩崎君ノコトヲ聞ク 之レハダメダトノコトデアッタ 逋信省ノ朝鮮出張所ニヨリ慎ニタノマレタ發動機ノ受領書ヲ貰フ

裁判所ニ行キ和田氏ニ會フ 青山モ居リ五日取引公証スル爲メ印鑑証明入ルトノコト会社ノ謄本青山知人ノ代書ニタノム 明日夕方迄ニ出來ル由

瓦斯電ニ行ク 乗池ニ會ヒ明日夕方浜田屋ヘヨルコトニキメル

羽田ニ行ク 梅本君ニ會ヒ礼ヲノベル 木下瓦斯電ノ有坂サン二人共不在 吉田ト同車シテ東日ニ帰ル 帰途奈良原第一ニヨル

◆◆129ページ◆◆ 昭和14(1939)年5月2日(火)

天気 晴雨

朝菅谷君ニ行ク 減資ノ件、南波氏ノ件、金融ノ件千円問題等話題ニ打合セル。野口氏昨日吉田氏ヘ行ッタ由モ話ス 菅谷氏午後二時頃行ッタガ會ワナカッタ由 下ニ居タラシイトノコト 九時帰場 野口氏ヨリ電話アリ 昨晚泊ッタ由 金融問題話シ中トノコト 菅谷氏ニ相談サレタキ旨ノベ菅谷氏ニモ電話シテ居ク。合資会社所得税二百余円ノ爲メクラブノ金工場ヘ弍百円入金 ソレデ納入サセル 二時半ヨリ上京 裁判所デ登記謄本ヲ受取ル 金弍円 電話局ヘ行ッタガ番号分ラズ。時ニ四時 大森濱田屋ニ行ク 四時半奈良原氏先着 五時半清平來。六時井上氏來 下請ノコト話シアリ 尚局ノ練習機仕事取ッテ貰フコトヲ依頼ス 明日有坂氏ト話シテ居クトノコトデアッタ 七時乗池來 梅本六時半來 宴ヲ初ム 榊氏ハ八時頃來 千五百円ハ乗池氏ニ預ケル 覺書キニツイテハ不満ノ點アルノカマダ出來テ居ラナイ由 常務ト交渉中トモ云ッテ居タイヅレニシテモ現品ハスグ持ッテ行ッテヨイトノコトデアッタ 梅本西川氏ニ招カレ北支ヘ行クツモリトノコト 北支中前ノ修理工場ヤッテハトノコトニ一度西川氏ニ會フ予定

◆◆130ページ◆◆ 昭和14(1939)年5月3日(水)

天気 晴

九時ヨリ清平ト海軍省行キ グライダーノ方ハマダ何等ヤルカヤラナイカモ決定シテ居ラナイ由デアッタ

補給部ノ落合中佐ハ今日夕方工場ヲ見ニ行クトノコトデアッタ 急イデ帰場 正午晝食ニ帰宅 少シ眠ル 一時工場出 野口氏ヨリ吉田氏自分ニ會ヒタイトノコトニ電話ス

ルスグ來テ吳レトノコトニ行ク。海軍ノ模様航空局ヘノ回答書カラ事業法ノ説明ヲシ
金ノ件減資ノ件デ丁度四時ニナル 明朝十時菅谷ヲ加ヘ相談スルコトシテ帰場 五時
十分頃落合氏來場 種々話シ合ヒ工場ヲ見テ六時過ギ帰ル 大変ヨイ人ノ様ダ 千
葉市在住デ明治四十三年カラ居ルトノコト 千葉師範ノ附属小學カラ千葉中ヲ出タ
由デアッタ

夜早く床ニツク クタブレタノト眠カッタ

▲▼131ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月4日(木)

天気 晴

朝菅谷氏ヨリ電話アリ 吉田氏田中村ヘ帰ッタノデ十時三花ノ井迄來テ吳レトノコトニ
九時五十分ノガソリンカーニ乗ルコトス 野口氏清平ニ門デ出會フ

二時半迄吉田氏ト會談 問題ハ減資ノ件 決極(ママ)吉田氏九八銀行ヘ言質ヲ與ヘテ
アルラシク減資最(ママ)非共決行シタシトノコト 理由ハ充分アルノデ実行ニ決定 前二
ハ二十万円減資ノ予定ナリシモ五万円位ハ五十歩百歩ダカラ半額減資トスルコトニ決
定 先ヅ福西ヨリ話スベク六時午前十時千葉(福西ヲ同道スルコトニ決定ス。金明日支
拂ヒノ件ハ野口氏ヲヨコシテ吳レトノコトニ急ギ帰り野口氏四時半ノ自動車デ行ッテ貰
フ 現金買入レノ機械ニツキ頼ンデ居ク

▲▼132ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月5日(金)

天気 晴

今日ノ支拂ダケ貰ッテ來タ由 野口氏ノ話シヲ聞イテ上京 中央局ヘ電話ノ不足書類
ヲ提出。丸ビルノハイバラデ書紙ヲ買物シ晝食デ丁度十二時過ギタノデ時間アレバ海
軍ヘカ有坂サンニ行コウカト思ッタガ時間ナク佐藤公証役場ニ直行ス 丁度十分前ツク
宗里ト隅田ノ老人ガ居タダケ 書類ニ静枝サンノ判ガ入ルガ印鑑証明ナキ爲メ兄知
人二名司法省ノ人ヲタノミ静枝サン船橋カラヨブ 四時漸ク全員揃フ 青山氏來ラズ
立会人ヨリヌク。全部終ッタノガ六時半 七千円現金ヲ受取ル 大森駅前ノソバヤニヨ
リ粕谷、安田ニ五百円渡シ合計式千六百円ノ受取書ヲ取ル 尚会ノ爲メ先キノ手金
流レニツキ今後故障ガアッテモ一切宗里ニ迷惑ヲカケナイ事ヲ附記シテ貰フ 九時過ギ
帰宅

井上長一ノモタラシタ問題ニツキ青木サンニタシカメテ見ル必要アリ

▲▼133ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月6日(土)

天気 晴

清平瓦斯電有坂氏へヤル 野口氏來 一時千葉へ行ク 自分福西ヲ待チ二時千葉へ行ク 菅谷氏先着 カンジンノ主人公帰ラズ四時過ぎ待ツ。ツヒニ柏迫行ク 七時頃主人公三會ヒ共ニ市川一直園ニ行ク。スデニ八時 野口氏柏ニテ分レル 八時千葉へ行ク 車中減資ノ件福西ニ話ス 一直ニテハ先ヅ菅谷氏ヨリ話シアト吉田氏ヨリ十時過ぎ迫話サレル 福西国産ノ方ハ引受ケル 万一ノ場合ハ株主總會ヲ開カセ京都へ行ツテ話シテモヨイトノコトデタ、自分ノモノガ三十七円五十錢デ銀行へ這入ツテ居ルノガ質受セネバナラナイノデ半分デモ助テ貰ヒタラトノコトデアッタ 吉田氏ハ困ツタ、ハト云ツテ居タガ結局出スモノト見ラレル 十二時半漸ク引上ゲル 眠クテ閉口ス

◆▼134ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月7日(日)

天気 曇リ

九時第三商事ノ重役連來ルトノコトニ七時起床 眠カッタガ起キ散髪ヲシ朝食後九時半工場ニ行ク 間モナク菅谷氏來 十時頃四人連レデ來ル 大坂ヨリ志治ト云フ人來 十一時過迄話シ工場ヲ見ル 三田浜樂園デ晝食ノ馳走ニナル 二時半終ツテ菅谷氏ト一足先キニ出ル 何ンノ爲メニ御馳走ニナツタカ意ハヨク分ラナカッタガ菅谷氏ニ対スル御礼心ニ御招判シタモノト思フ

清平宅ニヨル 不在 途中ニテ會フ 瓦斯電單價ガ高イノト外ニ二軒下品出シタノデ急ガナクナツタトノコト 仕事ノ遅レタコトガ悪カッタラシイ 今後モアル事ダカラ大ニ警戒ヲ要ス

小鳥ノ買物シテ帰ル 尾長鳥床屋へヤル

◆▼135ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月8日(月)

天気 曇後雨

定刻工場出 今日カラ守衛來

菅谷氏ヨリ電話アリ 福西ニ會ヒタイトノコト 福西へ午後一時頃會フ約束ス 菅谷氏來 共ニ上京 萱場へ行ク 十一時半着 予定ヨリ三十分オクレル 社長ト松井氏ニ會フ 無尾今月中ニ引渡シヲ受ケタイトノコト アト方向舵ヲ取り發動機ヲ付ケテヤリタイトノコト。ソレニ設計者ト操縦士ヲ借りタイトノコトデアッタ 操縦士ハ世話スル事トシ設計ハ模型ヲ作りタイトノコトデフライイトノ川守氏ヲ推撰ス。上野清凌亭ニイキ福西二時半來 會談 吉田氏ハ福西ノ先日ノ話シデ六ヶ間敷ト思ツタラシク、ソレハ外ニモ色々故障ガ起ルコトヲ予期シタモノラシイガ国産ノ方ハ福西引受ケルトノコト 福西ノ金ハ福西ハシイテトハ云ワズ サレドモ之レガ速力ニ進ムナラバ菅谷ハ吉田氏ニ出サセルトノコトデ今日會見ヲ終ル 十一日ニ役員會ヲ開キキメタイ希望。福西氏ノ願デ日活ノ土ヲ見テ六時半ノ京成デ帰ル

▲▼136ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月9日(火)

天気 晴

快晴 今日ハイクラデモ眠レソデアッタ 七時半起床

九時工場出 朝ユックリス 昨夜ノ大雨ニキラ、朝日ガ照リ映エテ気持ちヨイ日デアッタ。正午過ぎ福西ヨリ電話アリ 国産ト会見原則トシテ賛成ナレドモ一度菅谷氏ニ會ヒタイトノコト 明日トノコトダガ菅谷氏明日婚禮ノ爲メ今日ノ方ガヨイトノコト今日四時大森ビルへ行ッテ貰フコトトシテ福西へ電話デ其旨知ラセル 自分ハ行カナイ方ガザクバラシノ話シガ出来テヨカロウト行カナイコトトス。清平海軍省ニ落合氏訪問 横須賀へ照(ママ)介ノ名刺ヲ貰ッテ來ル 明日行クコトトス 昨日今日ノ話ヲナシ工場長問題ト仕事ノ件打合セ努力スルコトトス 長島明日瓦斯電ト日本車輛へヤルコトトス 肥田木昨夜満州ヨリ帰ル 今日午後帰社 状況ヲ聞ク

▲▼137ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月10日(水)

天気 晴

自分航空局、田山氏協会、日新北島氏研究所山崎、木村、小林会見、国産主人ト會見、奈良原氏訪問 清平ニヨリ帰宅 九時

清平横須賀行 海軍デ行クノヲ待ッテ居タトノコト 大分ヨイ話シデ月曜日工場見ニ來ル由

局青木氏器材不足ヲ聞ク 修理ノ件頼ム 甲斐榊原氏ニ會フ 協会北尾君ニ會ヒ川辺君依頼ノ協会廃業手當金ノ件懇談 名古屋ヤ東京遠藤ナドト一所ニ考慮ヲタノム 日新北島氏ニ機材工場カントク者タノム 至急サガシテ貰フコトトス 山崎入社ノ件清平ノ下ニ使ワレルノガイヤダトノコト 從來通リトシテ考慮スルコトトス 小林今月ヨリ六十円トシ嘱托(ママ)ノコト出社ノ毎五円支給ノコトトス。明日來社ノ予定

国産明日ノ会合前ニ會ヒタイトノコト 会見岡田氏ヨリ吉田氏ノ意見ニハ從フガ減資ノ結果ドウナルカラ具体的デナクトモヨイカラ吉田氏ノ方針ヲ聞キタイトノコト ソレハ具体的ニハ六理ダカ一應話シハアル筈ニツキソレ以上ニツイテハ希望トシテ述べラレタイ旨デ打合セヲ終ル

▲▼138ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月11日(木)

天気 晴

四時頃目醒メテ五時半起床 役員会ツヒニ奈良原氏來ラズ 昨夜帰ラナカタノデア

ロウ。福西、岡田、吉田、菅谷、留雄、章ノ順デ來社 十一時半ニナリ晝食ヲ先キニス
十二時半ヨリ会議 自分ヨリ一通ノ説明ヲナシスグ減資問題ニナリ菅谷氏吉田氏ヨリ
一應ノ説明アリ 岡田氏ヨリ減資ト共ニ將來ノ目安ヲ發表サレタイ旨希望アリ 福西
ヨリ更ニ増資ノ急務ナルヲ力説 同時ニ考慮セラレタイトノ申出アリ アトハ雑談デ永
クナル。グライダー販賣ニツキ森氏ニ協会ヘ寄附ノ件申出デ菅谷氏吉田氏、縣ヘ出サセ
ルコトガ早道ナリトテ進メルコトニキマル
小林君六時半頃ヨリ会谈 月産二十台 發動機部品五万円生産ノ予定ニテ計畫立テ
貰フコトニキメル
竹崎來 六百円持参ニテ話シツケタイトノ希望デアッタガ金ヲ先キニ渡ス訳ニハ行カナ
イノデ來タラ支拂フコトニシテ帰ツテ貰フ 夕方青柳ヨリ電話アリ 六百円迄ハ引受ケ
ルガソレ以上ハ引受ケラレナイトコトワル

◆▼139ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月12日(金)

天気 曇リ雨

定刻出 朝礼 萱場ト北島サン手紙書ク

大坂ノ兄今夜ツク由

九時過ギ南波米藏氏來 十時過ギ千葉登記所ニ行ク 町ノ人達八名先着 野口氏來
ラズ書類ダケ作製 晝食ニ行ク 十二時十分前野口氏來 スグ行キテ書類ヲ提出シ晝
食後一時過ギ行ク 少シヅ、手違ヒアリシモ三時半頃全部終リ金ハクラブデ渡スコトニ
シ南波氏ト野口氏トクラブニ行ク 一万六千七百五十円受取ル 内一万五千五百円
契約ヨリ渡し式千五百円返シテ貰フ 一万三千元ノ受取リヲ貰ヒ吉田氏ヘハ自分ヨリ
全額ノ受領書ヲ出ス

千式百五十円ハ鈴木ノ式千五百円ニ対スル五割ノ札 之レノ内菅谷イクラカ取ツテ貰
ヒタイトノコトデアッタ

クラブニテ後チ宮崎氏明日ヨリ出社ノコト 総務次長トスルコト 自分ヨリ自発的ニ銀
行名儀(ママ)ヲ野口カ宮崎ニスルコトヲ申出ル。菅谷氏ヘノ千円ハ吉田氏支出 今後之
ノ問題ニハフレナイコト。吉田氏支出ノ金ニ銀行利子ヲツケルコトヲ決定ス
田山氏ノ立替金ノ件株ノ件二件ヲ野口菅谷二人ニダケ話シテ居ク

◆▼140ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月13日(土)

天気 雨後晴

朝大雨 定刻出 八時半頃野口氏來 正午ヨリ野田ヘ太田ヲ連レテ行ツテ貰フ 十時

頃宮崎氏來 正午清平東京ヨリ帰ル 栗谷サンニ會ツテ來タ由

午後川口氏來 ベークライト製ノ滑車持参 工場見テ帰ル 減資ノ件話ス 増資スルナ

ラ其必要ナカロウトノコトデアッタガ事情ヲヨク話シ賛成ヲ得
今夜ハ清平兄泊ル

竹崎來丸豐商店六百五十円ニテ話ツキ金支拂ヒヲナス 六百五十円ハ竹崎ニ立替

▲▼141ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月14日(日)

天気 曇リ小雨

定刻出 宮崎氏出テ居タ 菅谷氏訪問 鈴木ヨリ取ツタ内式百五十円渡ス 先キ二貸
シタ五十円ト三十円返シテ呉レタ 之レハ意外ナ収入デアッタ

野口氏ニ臨時株主總會ノ召集状ヲ出シテ貰フコトス

早川、石橋君來 正午佐田航空官來 場内試験中止 學科ヲヤル 自宅へ案内 食事
ヲ共ニス 奈良原氏モ共ニス

南波氏ニ一昨日ノ報告ト同氏招ヘイノ手紙ヲ出ス 佐渡島竹島へモ減資ノ件手紙出ス

▲▼142ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月15日(月)

天気 晴

五時半工場出 間モ無ク佐田航空官以下來。次ギニ鈴木木下一番遅レテ來ル。南風
ツヨク汐干カズ出發オクレル 定刻朝礼後帰宅 上京 福西へ九時四十分ツク 田山氏
ノ件相談 マモナク岡田氏來 決(ママ)局田山氏分顧問料トシテ一千円会社デ出スコ
トノ諒解ヲ新重役ニ得ルコト 株ノ方ハ成行キノマヽトシテ相談一決 外ニ菅谷君ニ五百
円乃至千円国産カラ前重役五名デ借リテヤルコト 岡田氏ヨリ富尾氏等ニ諒解サセル
コトトス

三越ニ寄り帰ル 二時半工場着 明日ノ接待ニツキ打合セヲナス 夕方臨時總會ノ通
知ヲ發送ス 夜三田浜へ兄ヲ同行 佐田航空官石橋君モ列車ヲ乞ヒ食事ヲ共ニス 鈴
木ニツキ佐田航空官ヨリ注意アリタリ

▲▼143ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月16日(火)

天気 曇リ

野外飛行全部無事終了

七時出社 九時海軍航空廠桜井大佐來場。自分奈良原、吉田、岡田、アトヨリ菅谷
氏來 野口宮崎全部出社 工場見學仕事ヲ見約一時以上ニ渡ル 終ツテ養生工ニ対ス
ル打合セ 願書ノ書方ニツキ注意アリ十一時半トナル 食事ヲト思ツタが大變急ガレテ
自動車ニテ清平御送リス

午後上京 東日ニヨリ發動機ノ件和田氏ニタノミ二時四十分ヒイラギ屋ニ佐渡島氏訪

問 先搬ノ件シキリニ辨解シテ居ラレタ 自分デモ悪ルカッタと思ワレタラシイ 減資ノ件必要ハナシ増資ガ困難ト思フト色々述べラレタガ結果吉田氏ニ一任ト云フコトニキメル

四時半飛行館ニ行キ佐藤博先生ノ獨乙ヨリ帰朝談ヲ聞ク 二時間ニ渡ル 奈良原清平岡氏ト帰ル 十時ニナル

▲▼144ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月17日(水)

天気 晴

定刻工場出 八時四十分ニテ出 九時五分前大塚駅着 岡田氏待ツテ居タ 共二大塚仲町ノ沢井大佐宅ヲ訪問 御礼ノ名刺ヲ居キ航空局ニ行ク 青木大少佐ト千田大佐ニ會フ 乗員養生機ノ件ヨク聞ク 千田大佐ハ自分工場デ飛行機製作ヲヤラセル變リニ古イ人ヲ助ケテヤツテ呉レトノコトデアッタ。尾崎君ガピアノ線賣ル處ヲ照(ママ)介シテ呉レタノデスグ行ク 二、五 四十九キロアルトノコトニ皆買フ約束シテ帰ル。香雲莊ニ行ク 十二時過ギタノデ香雲花清平先キニ行ツテ居タ小林ト相談 新工場ノ設備ニツキ大体出來ル 四時半出テ帰ル 六時半帰宅

▲▼145ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月18日(木)

天気 晴

定刻出社 五時起床 カナリヤノ小供分ケル爲メ庭箱修理ス 手紙五通発信 菅谷氏來 野口氏ト増資ニ関スル通信省ノ予定ト計畫ヲ話シ計畫書局へ提出ノコトヲ決定 機械ノ金工場へ融通ノ爲メ二三万マツメテ出シテ貰フコト之レハ昨日野口氏ヨリ承(ママ)細話シテアルトノコトニ大極(ママ)的ニ菅谷氏ヨリ話シテ貰フコトトス 十一時迄ニ上野へ行ク約束アリト菅谷氏急グ

今日ハカナリ急(ママ)ガシカッタ 金工部七名大島行キ借金ノ件不許可 但シ六七十円ナラ社長個人トシテ貸シテヤルコト。矢野退社ノ件不許可 之レハ上岡ノ方へ行クトノコトノ爲メ

夕方中山氏ヨリ電話アリ四時半ヨリ上京 五時十分第一ホテルニツキ 其二出テ銀座裏ノ長崎料理ニテ会談 八時迄コチラノ話シモ向フ話シモ聞ク 十時半帰宅ス

▲▼146ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月19日(金)

天気 晴

五時過キ起床 定刻出 恵美子今朝ハ参宮シテ居ル筈 雨ガ降テ居ナケレバヨイガ八時工場出 清平宅ニ一寸ヨリ田園調布ノ多田永昌氏訪問 十時十五分ツク 十一

時半迄面談 午後ヲ約シテ岩間氏訪問 奈良原氏ト永島氏來テ居タ 千五百円永島氏保証シテ昨年來借リタ金ガ一月以來ズル、延バシテ今ハケ間數ナツテ居ルトノコト後刻事ム所ヘ行クコトトシテ岩間氏ト会见 同氏ヨリ聞カレルマニ現状ヲ話ス 減資ニハ賛成シテ居タ 尚僕ニ洋行ヲス、メテ居タ。二時中沢氏事ム所ニ行ク 遠藤奈良原、永島氏ニ會ヒ兎ニ角野口氏ニ相談スルトテ分レニ時半交詢社ニ多田氏ヲ訪問 同道シテ工場ニ行キ工場ヲ見セ宮崎、清平同道三田浜ニテ夕食ヲナシ九時過ぎ駅迄送ル 千田サンノ話シ局全体ノ意向ナリヤ桜井氏ニ聞イテ貰フコトトス

▲▼147ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月20日(土)

天気 晴

一三式田中計器ヨリ今日來ル由 計器代支拂ヒノ事。木下ニ出張中ノ注意。上岡來アンリオ検査会社名儀(ママ)ヲ貸ス件等モキメル 鈴木菊雄ヲ呼び學校停止ノ場合グライダー製作部ヲヤラセルガヤル意志アリヤ話シテ見ル 目下少年團ヘ身賣リノ相談中トノコトデアッタ

野口氏出社 今日ノ産業報国会道徳科學研究所ヨリ來テ呉レルトノコト 商工省ハヤハリ昨年ト方針ハ變ツテ居ラナイ 要ハ金ガ有ツテモ事業ガ適切ナモノデ願書ノ上ニスベテガ完備シナケレバ許可ニナラナイトノコトデアッタ。ヤハリ増資ヨリモ借入金デヤル外ナイコトアキラカトナル

九時半出ル 十一時半立川着 拂下品ヲ見保管料運賃ヲ五十円デ取キメル 氣象台カラ今朝來計器ヘ持ツテ帰ルトノコトデ別ニシテアッタ

金工部員ヘ貸ス百二十円ノ件ニツキワスレテ來タノデ宇賀ニ電話シテ居ク

午後立川飛行機見學二時間 講演三時間 有益デアッタ 倉橋君ト同道清凌亭ニテ夕食ヲ共ニシ技術者二三名タノム 心當リ有リソウデアッタ 十時半帰宅 南波氏ヨリ返事アリ 今少シ台湾デハタラキタイトノコトデアッタ

▲▼148ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月21日(日)

天気 晴

朝顔ノ植替エ 金蔓鉢ニ金蔓ヲ買フ

事業予定ト予算清平ヲ呼ンデ作ル

作業場ノ設備ニツキ一兩日中ニ調査スベキ點

夜兄ト食事ヲ共ニス

矢野來 満蒙ニ行キタイトノコト 世話シテヤルガ上岡ハ止メル様進メル

▲▼149ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月22日(月)

天気 晴

何ンダカジツトシテ居レナイ様ナ氣持チノ日デアッタ

西川氏ニ電話シタガ変ツテ居タ 菅谷氏ヘ行キ増資ノ困難ナコト 国産側デ即時増資
決行ヲ進メルダロウコトヲ予想シテ打合せ 田山氏ノ件千円出スコト決定承認ス

野口氏トモ増資即時決行不可能ノ打合セル。吉田氏ヨリ今日ノ手形ノ金トシテ三千
円ダケ貰ツテ來タ由 廿八日ノ分ニ対シテハ出ナイ様ナ口振り 菅谷氏ハ二万円話シテ
諒承シテ居タトノコトデアッタ。又聞イテ見ル必要アリ 材料檜安イモノ粕谷君ヨリ知
ラセテ呉レタガ金ノ爲メコトワル。午後二時半頃ヨリ羽田ヘ行ク 東京飛行機ニテ設備
ノ調査ノツモリデアッタガウマク行カナカッタ。梅本君ニ矢野ノ件タノンデ居ク

仕事終ツテ女工連帰宿スルノデ同道シテ主人ニ禮ヲ述ベテ帰ル。帰途清平ニヨリ機械
仕事取ルコトニ全力ヲソ、グコトヲ話ス

太田其他仕事進マズ、ダラケ氣分 野口氏ノ手前注意ス

◆▼150ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月23日(火)

天気 晴

定刻工場出 朝礼後航空局ニ行ク 九時 誰レモ居ラズ工政課長守屋氏ニ會フ 仕事
ノ事ヲ依頼シテ奈良原サンノ事ム所ニヨル 今出カケラレタトノコトニ工場ニ帰り今年
度ノ収支予算並ニ擴張計畫ト収支予算ヲ作ル

野口氏前月ノ計算書作製 夕方千葉ヘ行ク

昨日逃ゲタセキセイ帰ツテ來タ

恵美子ハ今日ハ名古屋ヲ夜中ニ通過 長野ニ向フ 一番クタブレル日ダ

山形機昨日福島ニ不時着 今日マムロ川ニ着ク

◆▼151ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月24日(水)

天気 小雨

定刻出 昨日作製ノ予算書捕促(ママ)シ丁度十一時ニナル 留雄氏一番ニテ間モナク
皆來 吉田氏來ラズ 之レハ予定ノ計畫ト見ラレル 岡田氏田山氏ヲ連レテ來タノハ減
資返(ママ)対ヲ云ワシメル爲メラシカッタ ハタシテ増資ノ困難ナルコトヲ述ベラレタガ之
レニ対シアラカジメ自分カラ注意シテアッタノデ菅谷、野口両氏ヨリ吉田氏ノ意ヲ説明
ツヒニ諒解 賛成セシム

之レヨリ先キ開會ニ先キダチ海軍問題ニツキ国産ノ伊藤氏並ニ吉田菅谷氏ニ一言謝礼
ヲ述ベル 先月分計算ニ到ツテ富尾兄弟ヨリコマカイ質問アリ 岡田氏ヨリハ何ニカ工場
ガアレバ之レト合同スル事ノ話シ更ニ申出アリタリ 四時半散会

▲▼152ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月25日(木)

天気 曇雨

航空局へ十一時頃ツク 三式艦航証受取ッテD一定期願出ト旧艦航証提出。山川氏不在 桜井氏來客待ツ内出テ來タノハ多田サンデアッタ 同道シテ交詢社ニ行キ晝食ノ馳走ニナル。桜井氏ノ意見ハヤリマトマルモノナラ皆一所ニナツタ方ガヨイトノコトデ其爲メニ反(ママ)ッテ當方ハ不利ニナル譯デアル。第百銀行ニ行キ二三年コノマ、デ毎月十五円ヅ、ノ月賦トスルコト 自分ハ証書ニシタトタシカニ思ッテ居タノニ昭和二年ニ書キ替テアッタ 昭和二年頃宮本ニ會ツタコトモナイノニ裏書キガシデアッタ 之レハ何ントシテモ不思議ニ思ワレタ 三越ニヨリ小鳥ヲ買ヒ四時帰宅 今日ハ何シモ得ル處ナカッタ

▲▼153ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月26日(金)

天気 晴雨

終日在所 菅谷氏ニ來テ貰フ 吉田氏ニ今後ノ方針説明シ且ツ出資ノ件話サネバナラヌコト明日中ニスル必要アルコトヲ相談ス 昨夜兄ヨリ減資額ダケ吉田氏ニ出資ヲ乞ヒ現在ノ五十万円デ進ムコトノ話シアリタル由。之レハヨイ考ヘデ一昨日自分モ考ヘテ居タコトデアッタガ話サナカッタノデ自分ノ考ハ吉田氏二十万円出サセ借入金ノ十五万円ヲ株金ニ振り替ルコトノ案デアッタ。菅谷君上京 今夜力明朝吉田氏ニ會フトノコト午後野口氏吉田氏へ電話シタラ今日花野井へ帰ル由ニツキ今日ノ菅谷氏ノ話シシテ貰フコトトス

夕方玉木成田ノ帰リニ寄ル スグ帰ル

▲▼154ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月27日(土)

天気 晴

終日在所 二番自動車ニテ菅谷氏へ行き昨日野口氏ニ減資増資ノ件話シタコトヲ報告ス 今朝花野井へ來テ呉レトノコトデ今カラ行クノダトノコト 万事吉田氏ノ意ニマカセルコトヲ強調シテ帰宅ス 野口氏オソクナルトノ事傳アリタル由 花野井へ行ツタモノト思ワル 重役級ヲ呼び能率増進ト動作ニツキ注意ヲ與ヘル。四時半終ッテ帰宅 兄ト船橋ノ大神宮植木市ヲ見ニ行キサンショノ木ト柿外一鉢買フ 兄ノ清平宅ノ庭木ヲ十六円ガトニ買入ル

上岡來 伊藤式プライマリー製作ヲヤラセテ呉レトノコト申入レアリ 相談シテ居クトノコトトス

矢野帰場ヲ進メル様申渡ス

▲▼155ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月28日(日)

天気 曇少晴

四時四十五分起床 五時五分兄ト出テ成田山参拝 七時四十五分帰宅 万一柳父氏ナド來テ波乱ガアツタ場合ノ心ガマエニツキ考ヘテ居ク
川口氏一番ニ來 岡田氏病氣欠 アト皆出一氣ニ終ル
晝食後雑談 二時頃ニハ全部解散ス

昨日菅谷野口花野井ニ行キ菅谷氏ノ話シデハ入用ダケ出サセルコトニシタガ尚旧株主側デ千株程出シソレヲ無利子デ会社ヘ貸スコトヲ吉田氏ガ要求シタノコト 之レハ減資後ノ株デモヨイトノコト 之レハ伊藤側デマトメルカ国産ダケニスルカ或ハ全搬ニスルカニツキ考慮スルコトシテ一兩日ノ余裕ヲ取ル

▲▼156ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月29日(月)

天気 曇リ

今日ハ眠クテタマラズ ツカレガ出タモノト思フ

終日休ムツモリノ處鈴木ガ來 次ギニ長島君ガ国民新聞ノ記事ヲ取りニ來テ又起サレル 話シ中ニ札幌ノ飛行場長辻氏來トノコトニイヨ、起キ出テ工場ニ行キ辻氏千葉ヘ行クトノコトニ同道シテ並木デ晝食ヲナシ分レテ白戸ニ久シ振リデ行ク 三時半歸ル
野口氏五千円ダケ貰ツテ來タトノコト 拡張案ニツキ吉田氏ノ意見ヲ聞ク 今日ノ處減資ガ実施セラレル迄拡張ニツイテハ考ヘガナイトテ見ナカッタトノコト。コイツハ再認識セシムル必要アリ

▲▼157ページ▲▼ 昭和14(1939)年5月30日(火)

天気 晴

定刻出 清平早く來ル様云ツテアッタニカ、ワラズ來ラズ
器材課長松浦氏ト会见ノ準備ヲナシ柏出張ノ手配オス
T.C.肥田木試飛行ヲ行フ

奈良原氏來 明日貳百五十円最(ママ)非作ツテ呉レトノコトデアッタガ長島氏ノ方ノ話アリソレガナケレバ差上ゲルコトヲ約ス。バスデ出カケルト長島來 話シニヨルト松本氏カラ出ルコトハ出ルガ今日明日ト云フワケニハ行カナイラシイカラ最(ママ)非タノムトノコト クラブノ金ハ三百円余リシカナカッタ 練習費入レサセル様云ツテ居ク

松浦氏ニ会フ 相羽氏居タ 同ジ話シデ來テ居タラシイ 後チ松浦氏ヨリ合同問題ニツキ聞カレル。マダ具体的話シハナイコト 自分個人トシテハ大賛成デ昔日ノ自分ナラバ

勿論スグ一所ニナルガ現在デハ資金関係カラ六ツ間敷イコト 尚目下海軍トノ交渉経過 通信省ニ対スル拡張計畫、減資ノコト迄スツカリ話シテ居ク。

○時三十分ニテ柏飛行場へ行ク ゴムニテ三回飛行後ウインチデヤロウトシタガリリーズ工合悪シク中止ス 部隊長ニ此前面ヲ貫ツタ御礼ニ抱一ノ宝來山ヲ今日贈ル

◆▼158ページ◆▼ 昭和14(1939)年5月31日(水)

天気 晴

案外ノ上天氣トナル 五時半起床 定刻出 奈良原氏來 家庭ノ金トシテ今月吉田氏呉レナイノデ五十円渡ス 長島君ノ方ドウシテモ五百円足ラズクラブノ金五百円ニ会社ノ金借ルベク野口氏ト相談シタガ六ツ間敷 野口氏大久保ノ会社ノ金廻シテ呉レル 四日迄ニ返ス約束ヲナス。午後長島氏ヘ渡ス様徳治ニ命ジ上京 福西二十一時ツク。一昨日千葉吉田氏ニヨバレ菅谷氏ト福西ト三人デノ話シデ伊藤側デ千株出ス様ニハカラツテ貰ヒタイトノコトデアツタ由 ソノ前国産ノモノガ吉田氏ニ會ヒ自分ノコトニツキ何ニカ話シヲシタトノコト ドウモ其間モ事情ガハツキリシナイノト柏へ行ク時間ガ迫ルノデ後菅谷氏來ルトノコトデアツタガタ方迄待ツテ貰フコトトシテ柏ニ行ク
ゴム一回終リウインチ初マル處デアツタ 案ズルヨリ産ガヤスクウマク離陸シタ 四十米位デ離脱 北ノ方ノ場外ニ無事着陸 第二回ハスムースニ上ツテ高度ハ低クカッタガウマク行ツタ 今日ハ之レデ終リ 次ギニ六風ノナイ日ニ旋回ヲヤルコトトス
二日ニ井上大将ガ來ルカラ見セテ貰ヒタイトノコトニヤルコトトス (389)頁へ
(389ページへ続く)

◆▼160ページ◆▼ 昭和14(1939)年6月1日(木)

天気 雨

終日在所 野口君清平三人デ会谈 野口氏吉田氏ノ意見ナリトテ機械ガ遊ンデ居テハアト買入レモ出來ナイトノコト 明日シーヤ來タノニ金ナク漸ク出シテ貰フコトニテ今日宮崎貰ヒニ行ク 之レ等モ野口氏知ラヌト云ヒ吉田氏機械買入レノ五万円承知シタ覺エナイト云ツテ居ルトノコト 之レデハ吉田氏モ信用出來ナクナル
国産明日來ルトノコト 菅谷氏ニ合ッテ貰ヒタイコトヲ話シテ居ク 菅谷氏トタ方電話ニテ打合セ明日來テ貰フコトトス
事ム員一人吉田氏ノ照(ママ)介デ來ル

◆▼161ページ◆▼ 昭和14(1939)年6月2日(金)

天気 晴

八時四十分ニテ柏へ行ク 今日ハウインチハヤラナイトノコト 風ナク絶好ノ日和ナノニ
オシカッタガ止ムヲ得ナカッタ 一回ゴムデ飛バシタダケ TC十一時頃到着ス 井上大
将ヨリ宗里ノ其後ノ事ナド聞カレ御話シス 十一時五十分ニ乗ルツモリガ自動車間ニ
合ワズ一時五分ニテ帰場 二時半丁度 国産ノ大工六來ラズ 九十八ノ奥山氏外氏名
來場 中將來ノ仕事ニツキ主トシテ話シテ居ク 四時過ぎ帰ル 菅谷氏モ一所デアッタ
ノハ都合ヨカッタ 菅谷氏急グノデ六時頃上京 東京駅ニテ福西ニ電話ス スグ來ルト
ノコト 間モナク來タガ大坂カラノ電報デ竹島氏四五日不在トノコトニ大坂行ヲ中止
シ丸万デ夕食 昨日ノ野口君ノ話シ吉田氏ガ野口氏ト同ジ意見デハ心細イ モット大
極ニ目ヲソヽイデ貰ヒタイコトヲ菅谷ニ強調シテ居ク

十時帰宅 入浴 野一色ヲカケテ床ニ入ル 今日ノ会食デ大体今度ノ大坂行キハ吉田
氏ガ野口ノ話シヲ取上ゲ金ヲ入レルノニ不安ヲ感ジタコトニ初マリ結局大坂方デモ出サ
セルカラト云フ様ナコトヲ菅谷カラ話シテ其結果伊藤君ダケデハ六ツ間數カラ福西菅
谷モ同道シテキメテ來ルトノコトニナツタラシイ ソシテ之レハ二人ガ骨折ツタコトニシテ
居カナイトアト吉田氏二六(ママ)理ガ云エナイカラ用ハナクテモ最(ママ)非一所ニ行カネ
バナラヌトノ意味デアッタト解サレル

▲▼162ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月3日(土)

天気 曇晴

今日ハ終日自宅デ静養スルコトス 朝佐藤ヲ呼び今後ノ心掛ケヲ話ス
夕方船橋ト下ノモノヲ呼び、タン生祝ヲナス

肥田木文部省型製作ニツキ清平呼びヨセタノデ打合セノ上山崎サンヘヤル

▲▼163ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月4日(日)

天気 晴曇

八時ヨリ家内和子、仁三郎、恵美子ヲ連レテ八柱へ御参リニ行ク 徳治ハ友人ト約束ア
リトテ村山貯水池ニ行ク

今日ハ信太郎ノオモカゲガ思出サレ墓前ヲ去リ兼ネタ 終ツテ十一時ヨリ徒歩ニテ松
戸飛行場見學行ク スデニ広々トナツテ居タ 事ム所ニ立ヨリ模様ヲ聞キ近道ヲ孝(ママ)
ワツテ六實駅ニ出ル 此間二時間半 丁度時間都合悪ルク一時間待ツコトニナルノデ駅
附近デ、オソイ晝食ヲ取り式時半発ニテ船橋へ歸リ清平ニ立寄ル 兄草花ヲ植テ居タ
清平ハ小野サンヘ行ツタ由。帰宅後アトカラ生エタ朝顔ノ植換エヲナス

▲▼164ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月5日(月)

天気 晴

定刻工場出 野口氏來 クラブカラ三百円入り之レニ金工ノ預リ金百円 大坂行仮
出金百円ヲ足シ合計五百円ニシテ野口氏ニ仮ス ヤレ、間ニ合ッタ 奈良原氏來 二
三日内ニ這入ル由 田寺ヲアテニシテ居ルガタヨリナイ 十一時航空局行キ 規(ママ)
面課榊原氏一人。協会カラ文部省型作ッテ呉レトノコト 話ニヨレバマダ作ラナイデ呉
レトノコトデアッタノデ協会ト局ト打合セシテ貰フコトトス。松浦氏ニ會フ 例ノ合同ノ
件局ノ内部デノ方針ハ大分進行シテ居ルトノコト 大体合同ニ傾イテ居ルラシイガ悪イ
様ニハシナイトノコトデアッタ 大ニ考慮ヲ要スル問題トナル。蒲田病院へ高坂氏ト熊谷
君ノ負傷見舞ニ行ク 熊谷氏ハ昨日退院シタトノコトニ更ニ目黒ノ自宅迄行キ四時漸
ク協会ニ歸リ高草木氏ニ局ノ文部省型ニ対スル意向ヲ話ス 五時半ヨリ佐藤氏ヲ中心
ノ坐談会 八時半終ル 八日頃柏ノ飛行場へ行クトノコトデアッタ 清平横須賀行キ
沢井サンニ會フ

▲▼165ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月6日(火)

天気 曇リ晴

終日在所 午後章氏一人來 国産ノ覺書書キ直シ返リ書タイプヲ打ッテ渡ス 明日來
ル時持ッテ來ルコト

宇田川他二名ノ分国産アテノ証書二書キ直ス

拡張ニヨル 人員補充ト學校卒業生申込ミヲ調査ス

二時頃辻本氏來 D1ノ定期終ル Cニ改造一部見テ貰フ 旭航空ノ九帝七型モ飛行
ス 上岡アンリオ内部モ見ル

夜八時過ギ床ニ入ル 兄風呂ニ這入ッテ居ル間ニ眠ル

▲▼166ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月7日(水)

天気 曇小晴

國産ノ岡田氏今日モ來ラズ 午前中人的考慮 午後信太郎ノ命日ニツキ善照寺ノ防
(ママ)サン來テ貰フ 二時帰宅 三時過ギ再ビ工場出 四時司法省ノ和田氏來 鈴木
奥山アマリ安イノデ相談ガアリ同道シテ現品ニツキ相談 アブロ二機 サル二機ヲ平均
六百円ナリト云フコトニナリ一應話シテ見ルコトトス。ツヒデニ宗里ニ寄ル 風呂ニ行ッ
テ不在 静枝サン一人 今日ノ模様ヲ話シ表へ出タラ丁度風呂カラ出タ處デ小時立
話シシテ分レル 児供ニ成ベク早く金ヲ分配シテ居イタ方ガヨイコトヲ注意シテ居ク

▲▼167ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月8日(木)

天気 曇降タリ晴タリ

太田病氣ヲ見舞 モウ起キテ出カケル處デアッタ 共ニ工場出 朝礼 役員会ニ報告スベキコト 航空局、工政課へ行ク下準備等ヲナス内十時過ギル 吉田氏モ來 十一時一寸過ギヨリ会議ヲ開キ五月分決算報告 今年度上半期決算ニ関スル方針等ヲ附議次ギニ田山氏辞任ノ件 横須賀出張職工ノ経費ノ協賛(ママ)ヲ得テ十二時半終リ晝食ス 此間富尾兄弟ヨリ旅費、交際費ニツキ明細ナル質問アリ 傳票迄出サセル 之レニ対シ福西ヨリ余リニ細カイコトヲ持チ出シテ仕事ヲハバンデハイケナイナド注意アリタリ 富尾章氏ニ一週一回位帳簿検査ニ出ル様トノコトデケリツク 福西ノ自動車ニ同乗シテ上京 工政課長、ト片桐事ム官ニ會ヒ合同問題ト工場ノ現状 合同ニ対スル意見等聞カレル 最後ニ合同ハイツデモ考慮出來ルカ製作準備ハ早クシナケレバ間ニ合ワナクナル恐レアリ 當方準備ハ進メテ居ルカラ至急ニ何分ノ内示ヲ得タイ旨希望ヲ述べ課長ヨリ出來ルダケ早くキメルトノ言葉ヲ得テ東日ニ行ク 福知氏ヨリ小野縣人氏ノ話シアリ 一度會ツテ呉レトノコト 約束ス 清水ヨリワカモト製作機ニツキ参考トナルベキコトヲ聞ク。帰途奥山ニヨリアブロノ件想(ママ)談 明後早朝鈴木ト打合せ返事スルトノコトデアッタ

◆◆168ページ◆◆ 昭和14(1939)年6月9日(金)

天気 雨

朝ヨサウ(ママ)ナノデ柏へ行ク 船橋ヨリ奈良原氏ト一所ニナル 柏ニツク頃ヨリ雨トナリ近藤氏ト會フ 福知氏ヨリ何ニモ聞イテ居ナイトノコトデアッタ 益々降り出シタノデ帰ル

午後自宅ニテ静養ス トテモヨク眠タ 自分ニモ不思議ナ位尚眠リ足りナカッタ 兄ト牛肉ヲツヽク 夜モ早く床ニ入ル

◆◆169ページ◆◆ 昭和14(1939)年6月10日(土)

天気 晴

定刻出 朝礼 菅谷氏ヨリ電話アリ 五十円貸シテ呉レトノコトニ承知ス 朝礼後長島ヲ呼び金工部ノ作業作振ヲ命ズ 佐藤宇賀ニモ一寸話シ清平宅ニヨリ右ニツキヨク命ジワカモトグライダーノ件モ片山トノ交渉ヲ命ズ

九時半両国ホテル着 菅谷氏外一名居タキリ 十一時頃漸ク皆揃フ 一人辻トカノ名代來 予定通り菅谷氏取締役ニ自分監査役トナル 三重縣ノ中村氏辞任ス 同氏ハヨサノウナ人デアッタ。更生会社ノ手初メトシテ某マグネット製作所ニ金融ヲシタイガドンナモノカトノコトニ仕事ハヨイガ其会社ヲヤツテ居ル人ガドンナ人ガ調査ヲ引受テ晝食後イソイデ柏ニ行ク

二時過ぎ柏飛行場着 盛二飛行シテ居タ 丁度D1ガ來タ 曳行機ニ兄同乗ス 終ッテ近藤部隊長ノ発意デ野田門松ニ行ク 主賓ニ佐藤先生 倍賓ニ摺沢大佐。組合デ負担スルコトトシテ立替ル。生田、大田、津田出席 東日ヨリ松下清水 六時半ノ電車ニテ一同帰ル 無尾機ニツキ佐藤氏ノ意見ヲ聞ク
南波氏ヨリ再度断リ状來ル 残念ダガダメカ？ 尚大坂相談シテ見様

▲▼170ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月11日(日)

天気 曇雨

終日工場 奥山鈴木アブロ五百円デ皆附ケテ呉レトノコトデ話シナラズ
野口氏他ニ出デテ出社ナシ 宮崎三時ヨリ帰ル 清平午後出社。島來ラズ
九二重心移動ノ計算ノ材料ヲソロエヤラセル
タ方梅山長島ニ養生工ノ教育係ヲ任命ス

▲▼171ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月12日(月)

天気 曇後晴

朝局ニ行キ甲斐榊原氏ニオリンピック型ノ件組合ヘ試作ヲ命ゼラレタキ旨諒解ヲ得 青木サンニ會フ 急グ爲メ早く認可シテ貰ヒタイコトヲグレ、頼ム 氏ノ話シ振リニヨレバ井上ハ問題ニセズ相羽ト内ダガ内ヲ主任ニシテ相羽ヲ合流サセル氣持ヲシク見エタノデ本社獨自デ進メ合同ハ其後ノ問題トスルコトヲ強調シテ居ク
晝帰ル 野口氏本社移轉ノ登記終ル

強制貯金ノ件決定 養生工ノ件清平宇賀ニ帰ル迄ニキメテ居クコトヲ命ズ
タ方野口、吉田氏來 兄ノ地所ヲ見明後日取引トキメル 價式千九百余円也
八時二十分東京駅着 福西、菅谷氏待チクタバヒレテ居タ

▲▼172ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月13日(火)

天気 晴

七時着 朝食後早イノデ天王寺公園ヲ散歩シ十時半帰リ十一時一人竹島ニ行ク 簡単ニ話シスミニ百株借用証ヲ入レ委任状ヲ貰フ 株券ハ出シテ居クトノコトデアッタ
中山氏居ルトノコトニ行キテ本町ノエ広ニテ晝食(福西支拂) 佐渡島ヘ行ク 打合せヲナシ皆デ一所ニ行クコトトス 佐渡島会議中トノコトニ三時頃迄大坂城見物ニ行ク
三時半中山氏ヲ加エ四人デ行ク 交々話シタガ考ヘサセテ呉レトテマトマラズ 四時過ぎ福西ト菅谷先キニ帰リ中山氏ト残ル 中山氏又來客デ帰リ一人残りガンバル 結局吉田氏ガ出セト云フ趣意ガワカラヌコト 同氏ヲ取締役ニシナカッタコト等デグズ、云

ヒ結局今夜考テ貰フコトニシテ六時引取ル。夜福西国へ行き菅谷氏泊ル 夕食ハ新世界ヨリ呼び皆デ会食後菅谷氏ト花月ニ行キ十時過ぎ終リ床ニツク
佐渡島ドウモ困難

▲▼173ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月14日(水)

天気 晴

朝住吉神社へ案内シ十時中山氏事ム所ニ行キ中山氏ノ来店ヲ待ち打合セテ十時半西店ニ行ク マダ來ラズ 十分程シテ來 自分一人ヨバレル マダ考ヘガツカナイトノコトデアッタガ兎ニ角吉田氏ニツイテハ菅谷君ガ一番ヨク知ツテ居ルカラ会ツテ聞イテ貰ヒタイト述べハツ半へ晝食ニ行ク 中山氏モ來 懇談 菅谷氏大ニ論ジ佐渡島心ヨク協力ヲチカヒ現金デ二三万出スガ株デ出スカニツキニ三日考ヘサセテ呉レ 出スコトハ出ストノコトニ、ソレデハ兎ニ角株ヲ伊藤ニ預ケテ居クコトニ話キマリ十八日佐渡島ト津田沼デ会见 其節決定スルコトトス。菅谷氏ニ心齋橋道頓堀千日前ヲ見セ自分再ビ佐渡島ニ行キ八百株預ケテ帰ル

菅谷君新世界デチャチナ宿ヲ取ツテ居タノデ奈良へ行カセル 夜姉トニュース映画ヲ見ル。重ニノコトニツキグチヲ聞ク 重ニ氏物ヲ言ワナイハヨクナイ

▲▼174ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月15日(木)

天気 晴

八時四十分盾津着 山本、小田、松下諸氏協会ノ鶴見少将、府學務課長、文部省関口氏有リ 倉橋君ノ照(ママ)介ニテ挨拶ス。水野ノ自動車ニテ佐藤博氏來場 定刻開會 府主催 府下中等學校教員ノグライダー訓練デアッタ 十日間ノ予定 全国デ初メテデアル由 開會式終テ関口氏ノ訓示中十時辭シテ帰途富田ニ行ク 不在 十一時帰宅 丁度福西氏來タ處間モナク奈良ヨリ菅谷氏帰り、竹島ニ挨拶シ株券受取り戎橋下ニ晝食ニ行キ協議シテ伊勢参宮スルコトトシ帰宅 スグ出カケル 三時發 上六ニテ出發 五時山田着 外宮ヨリタクシーニテ内宮 二見ヨリ古市ニテ菅谷君ノ希望ニテ備前屋(遊女屋ニ泊ル) 室悪ク安静ヲ得ラズ一人約二十円近クツク 馬鹿々々シカッタ 玉ヨシ

▲▼175ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月16日(金)

天気 晴

一先ヅ駅ニ出駅前デ朝食 九時四十分ヨリ徳川氏訪問 約二十分会談 大變元氣デアッタノハ嬉シカッタ 時間ガ間ニ合ッタノデ九時四十分發名古屋行ニテ立ち名古屋城

ヲ見物シ大須觀音様ニ參詣 附近ノ宮房料亭ニテ晝食ス 大變古ビタ落ツイタ家デヨ
カッタ 代モ安(ママ)外安カッタ

三時四十分ツバメニテ帰ル 車中モ尚今後金ノ心配ハ絶対ニサセラレタクナイコトデニ
人ニ話シテ居ク

九時東京駅着 清平角來テ居タ 明朝清平横須賀へ打合せニ行ク由

▲▼176ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月17日(土)

天気 晴

朝航空局へ氣ニナッタノデ行ク 片桐氏ニ會フ マダ何等決定ヲ見ナイトノコト 今日
都合デ津田沼ヲ見ニ行クツモリデ居リタガ行カレナクナッタトノコトデアッタ

生口ニ會ヒニ同道シテ正午帰場 一二ベンツニ同乗サセル スグ決定シテモヨイガ一應主
人へ話シテカラニシタイトノコトデアッタ 明日ヨリノ出張ニツキ旅費不足ノ由 大坂行
旅費残リノ内五十円工場へ返ス

三時ヨリ産業報国会アリ 大蔵省ヨリ貯金係リ來 講演ヲ受ケル 百億貯蓄ニツキ切
言ス

夕方清平宅ニテ横須賀出張者ノ送別会ヲナス 自分ヨリ訓示シテ先キニ帰ル

▲▼177ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月18日(日)

天気 晴

朝七時半菅谷宅 福西へ十時佐渡島來ルコトヲ知ラセル 菅谷両国ホテルニ居ルトノコ
トニ更ニ直接電話ス 吉田氏へモ電話スル マダ御休ミデスカラトノコトニ後刻ヲ期シテ
船橋へ迎へニ行ク 託児所へスベリ台一個寄贈ス ライオン薬局デ待ツ内福西菅谷外一
名ラシイ自動車ガ通ツタノデ工場へ電話シタガ來ナイトノコト 十時丁度駅ニ行ク 佐
渡島一人居リ工場ニ行ク 吉田氏へ電話サセタガ菅谷氏來テ居ナイトノコト 吉田氏
モ居ルノカ居ラナイノカハッキリセズ佐渡島へ氣ノ毒ス 晝頃迄待ツタガ何ンノ通知モナ
ク船橋へ食事ニ出タガスグ帰ルトノコトニ、サソワレテ東京迄行キ海軍館科學博物館、
歌舞伎坐ヲ見物ス へト、ニツカレタ 吉田氏ノ眞意ヲタシカメ得ズ 自分ニモ其點ハッ
キリシナイノデ株渡スコトハクレ、待ツテ貰ヒタイトノコトデアッタ 尚ヨク吉田氏ト分
ツタ上都合デ又大坂へ來テ呉レトノコト 今コンナコトデグズ、シテ居ラレナイノダガ
今日ハ身心共ニクタブレタ 十一時半帰宅 車中白戸小川ニ會フ

▲▼178ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月19日(月)

天気 晴

午前中工場 午後ヨリ上京 飛行館ニテ福知氏照(ママ)介ノ小野氏ニ會フ 久原、鮎川ノ親裁ナリトノコト 三百万位ハ出サセ得、自分ハ半生デ航空事業、デヤリタイトノコトナド話シアリ超小型機ノ製作予算書ナド見セタガズサン極マルモノデアッタ ドウモ信用出來ソウニモナカッタガ廿八日以後又会見スルコトシテ分レル 四時ヨリ協会評議員会ニ出席 終ッテ会食アリ 別段ノコトナシ 今日ハ老人組ノ出席多カッタ。後チ相原、北尾ト新橋駅ニテ二時間位雑談シテ帰途清平宅ニヨル 十一時帰宅 兄明朝九時帰坂ノコト 一昨夜布施トケンカニナリ清平左手ニ大キナ負傷ス 原因ハ待遇ニ対スル不平ノ由

◆◆179ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月20日(水)

天気 晴

Aニ進行不良 内田ニ調査ヲ命ズ 佐藤長島ニモ嚴重申渡ス 山東ニハ購買ニツキ之レ注意ヲ與フ。瓦斯電三式ニツキ一品一葉ノ圖面ニヨリ二枚見積ヲ佐藤、長島ニ命ズ。章氏來 決算ニツキ帳簿検査ス

午後ヨリ稲毛ノ醫者ニ行ク 便通ガ一日数回ニ渡ルコト マンセイノ大腸カタルトノコト色々療方ヲ聞イタガ差當リ薬ダケ貰ッテ帰ル 血脈検査モシテ貰フ。菅谷氏ト会ヒ三時吉田氏宅ニ行ク 四時頃福西來 五時頃ヨリ吉田氏ト会フ 菅谷氏ハ之レニヨリ吉田氏アトイクラデモ出ストノコトデアルガ吉田氏ニ通信省関係話ス 之レハスグノコトデナイノデ考慮スルトノコト。スグ必要ナル海軍問題ニツイテ確言ヲサケヤハリ信用回復ヲ説ク一方五百万千万円ニ最(ママ)非セネバトノコトニテ、ツカミドコロナクヤ、不要ノ内二十時近クナリ福西ノ自動車デ帰ル

◆◆180ページ◆◆ 昭和14(1939)年6月21日(水)

天気 晴

起床 宅ヨリ佐渡島ヘノ手紙ヲ書中菅谷氏ト幕張デ会ヒ内容ヲ見セテ居ク 尚吉田氏出資不確実ナ點ヲ指點シテ居ク 大丈夫トノコト。盛岡ノ工藤二郎君來 長孝君工場へ來ル様進メルコトヲタノム

上京 局ニ行ク 山川氏不在 松浦課長ニ会フ。ホントウノ腹ヲ聞カセテ呉レトノコトニ現状デハ合同シタクナイコト 速カニ決定サレタイコト、場合ニヨッテハ受注ト材料購入位ヲ協デヤッテモヨイ旨述べテ居ク。決(ママ)局相羽ト伊藤ダケデ他ハ問題ニシテ居ナイ様ダ

片桐氏ニモ會ヒ大森ビルニ行ク 福西例ニヨッテ遅ク二時半頃來 グリルニテ国産側ノ希望ヲ聞ク 例ノ利子問題ヲ此際解決シテホシイコト ソレハ實際使用シタ分ダケニ対シテデヨイトノコト ソレナラ吉田氏側モ永續出來ルト思カラ話シテ見ルコトニテ会見ヲ

終ル 外ニ沢井サンへ出入スル高木ニ札ヲシテヤツテ呉レトノ希望アリタリ

八時頃野口氏ヨリ來テ呉レトノコト 電車デ行ク 九時、菅谷吉田居タガ、大サガシシテ十一時頃ソロウ 株券トニカク預ケテ預リ証ヲ取ル 外ニナンノ話シモナク出資ノ件尚不安ナリ 今日ノ航空局ノ話シヲシテ居ク。国産ノコトモ話シ實際使用シタ金ニ対スル分ダケハヤルコトニオシツケテシマウ

▲▼181ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月22日(木)

天気 曇雨

銚子へ行ク前菅谷氏ニ立寄り写真ヲ渡シ海軍仕事ニ対スル出資間違ヒナキヤ念ヲ押ス工場カラ電話アリ 銚子ハ明日トノコト 一日間違エテ居タノデ帰宅
福沢氏來

午後国産トノ帳簿引合せノ爲メ山東上京ス 午後二時ヨリ帰宅 床ニツク
仁三郎昨日カラ四十度ノ発熱アリ 今日モ三十九度乃至三十八分(マ)五分 胃ガ悪イトノコトデアッタガ下シ少シシカ出ズ 夜中尚三十九度アリ

▲▼182ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月23日(金)

天気 曇後晴

定刻出 久シ振リデ君ケ代合唱 八時ノ自動車デ菅谷ニヨリ国産ノ利子問題自分ノ見解ダケ話シテ九時四十五分千葉発ニテ奈良原氏ト同車 銚子中學へ行ク 正午着晝食ノ馳走ニナリ名命式へ列シ終テ松木氏ト聯盟結成ニツキ打合せ廿七日午後二時ヨリ吾妻クラブニテ打合せ会ヲ行フコトニキメル 夕方ノ宴会ニ招カレタガコトワリ駅ニ行ク 時間ガアッタノデ魚市場ト川口ヲ見物シテ四時三十四分発ニテ帰ル 七時二十分帰宅ス

今朝佐渡島ヨリ株券返済分ノ手紙來 夕方帰ルト吉田氏ヨリ委任状持参サレタク明日午前中ニ取引シタシトノコト

▲▼183ページ▲▼ 昭和14(1939)年6月24日(土)

天気 曇少晴

仁三郎熱下ル 安心

五時起床 佐渡島へ昨日來タ速達ノ返事ヲ書キ八時東京駅ヨリ出ス 清平ニモ見セル同道シテ横須賀行キ 沢井氏不在 古藤中佐ニ面會 御札ヲ述べ外ニ三人會フ 正午太田ニ會ヒ出テ下宿へ行ク 鎌倉八幡宮ニ参拝 バカニクタブレ下宿デ二時間程眠ル 夕方皆帰ツテ食事ヲ共ニス

朝ノ出勤ノツライ事 食事ノ悪イコト 仕事ガナクテ困ル言多ク、然シ見學デモ有効
デアルコトニ一致ス 女工ハスベテガヨイラシイ 先ヅ無難デアラシイ

◆▼184ページ◆▼ 昭和14(1939)年6月25日(日)

天気 雨

イヨ、梅雨ラシクナッタ

昨夜佐渡島ヨリ吉田ニ會フ迄渡スナ 尚午前中電話セヨトノ電報デアッタガ今午前中
ハ外出出来ナイノデ電報デコトワリ手紙ヲ書キ六時頃徳治ニ東京駅迄速達デ出サセニ
ヤッタ

日立航空營業部倉庫係十二名井上誠氏ニ引き連レラレ來場 井上氏ト三式ノ覺書キ
調印 維持奨励金ノ願書受取ル 金六折半スルコトス

野口氏ニ吉田氏ノ意向ヲ聞ク 必要ナダケハ出ストノコト 然シアマリ積極的デモナサ
ソウニ感ジラレタ 野口氏千葉ヘ行ク 磯部氏來 奈良原ト鈴木館ヘ久シ振リ晝食ニ行
ク内菅谷氏会ヒタイトノコト 來テ貰フ 吉田氏今日中ニ取引最(マ)非スマセタイト
ノコト 仕方ナク佐渡島ノ手紙電報見セル 委任状ハ菅谷氏ニ預ケルコトス 同氏責
任ヲ持ツテ今夜佐渡島ヘ電話スル由

上京 六時A1ニテ來月ノグライダー競技会ノ打合せ会ニ出ル 八時半帰ル

◆▼185ページ◆▼ 昭和14(1939)年6月26日(月)

天気 曇リ

菅谷君工場ヘ來 株券三万円ニ対シ吉田氏今迄ノ分二万二千五百円ヲ差引七千七百
五十円ノ小切手ヲ持参ス 佐渡島昨日ノ返事來ラズ 菅谷氏引受ケルコトニテ金受取
リ工場ヘ渡ス。

章氏來 利子ノ件工場負担額ヨリ説明ス 章氏ハ一万七千余ヲ引イタ三万二千余円
ガド三使ワレタカ知ラナイトノコトデアッタガ御自分デ国産ノ決算表ヲ作ッテ居ナガ
ラ知ラナイトハナイ筈ダガ、ソウ云ツタモノダロウ

三時過ギヨリ上京 四時半萱場ニツク 小川氏岡本氏木村氏立会模型ノ飛行ヲ見セ
後チ會議 現在ノ改造方法ヲ取キメ後チ東濱園ニテ馳走ニナリ十時立ツ 十一時半
帰宅 セキガ出テコマッタ

兄朝大坂ヨリ來 新世界ノ方大体止メルコトニキメタ由

◆▼186ページ◆▼ 昭和14(1939)年6月27日(火)

天気 曇リ

終日在所　夕方ヨリ奈良原島ヲ連レクラブニ行ク　來ル迄吉田氏ト少時話シス

五時半頃田母神、伊藤、松本ノ準順序デ來　自分ヨリ御手傳ハスルガ自分ガ主体ニナルコトハ誤解ヲ受ケルオソレガアルカラト前提シテ會議ニ入ル　奈良原氏又シヤベリ過ギテ本筋ニ入ラズ枝葉ニノミ走ルノデー言提案シテ今日ノ會議ヲ發起人撰定ト定メ知事ヲ先ヅ説キ然ル上知事ノ照会デ各發起人ヲ定メルコト　アラガシメ人撰ヲナス　終ッテ食事ヲナス　渡辺一英君佛教團體ニ呼ビカケルコトニ対シ組合ノ援助ヲタノマレル

▲▼187ページ▲▼　昭和14(1939)年6月28日(水)

天気　曇リ

佐渡島ヨリ速達來　株券返セトノコト　後チ菅谷氏ニ手紙見セル

株主總會正午ヨリ初メル　決算報告ト田山氏ノ代リニ川口氏監査(ママ)撰任何等異議モ質問モナクスラヽ終ル

TC柏ヨリノ途中船橋駅裏ニ不時着。東日ノC2近藤乗ツテ來　アワラヽヽ轉覆ス午後休ミタイト思ツタガ二時頃フト見ルト佐藤喜三郎氏ノ葬儀ノ通知ガ來テ居タ寢テハ居タガ、マサカコンナニ早く死トハ思ワナカッタ。スグ神田ヘ行ツタガ式後デアッタ香奠ヲ居イテ帰ル

金工部長島ノ無能ニアキレタ　午後三時ヨリ主任會議ヤルトノコトニ清平ニ注意シテ居ク

▲▼188ページ▲▼　昭和14(1939)年6月29日(木)

天気　雨

終日降ル　工場ヲ休ム　終日眠ル　余程ツカレタラシイ

夕方下ノ家ヘシバラク行キ兄ヤ清平ト話ス

▲▼189ページ▲▼　昭和14(1939)年6月30日(金)

天気　曇リ

定刻出　九時頃菅谷氏訪問　不在　電話アリ京成駅前ニテ会フ　佐渡島ノ件相談　菅谷氏ヨリ今日手紙出スコトニ決メル　帰途布施サンニヨル　又血液検査ノ結果宜シカラズ　今度ハ余リ早く出テ來タ様デ近來頭ノ工合ガ悪イノモ二期位ニ感ジラレルノデ注射ヲシテ貰フ。帰宅スルト小野達人氏待ツテ居タ　結局使ツテ呉レニ落入ッタノデ野口氏ト相談ノ上八日過ギニ返事スルトトス

アトカラヽヽヽ用件ガ出來帰宅出來ズ五時漸ク帰ル　注射後安静ニシナカッタノデ気分悪ク床ニツク

◆▼191ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月1日(土)

天気 曇リ

今日ヨリ安全週間 定刻出 一同二訓示ヲナシ菅谷氏訪問 五日支拂ヒニ支障アリ機械ノ代金四五百円一時二出シテ貰フ様話ス 今日柏へ行ッテ不在ノ由 明日カ明後日会见スルコトス。佐渡島へハ今日手紙書ク由 千葉ヨリ航空局へ直行ス 器材課ニ這入ルト入レ違ヒニ会議ノ爲メ課長出テ行ク 後山川氏ニ海軍ノ札ヲ述ベル 栗谷サンニヨク札ヲ云ツタガヨイトノコトデアッタ 青木サンニ會フ 之レモ會議ニ出ル處デアッタ 例ノ件ハ今日自分ノ手ヲハナレテ居ルトノコトデアッタ。スグ帰ル 途中宗里ニ立寄ル 之レカラ鷺沼へ御伺ヒ仕様ト思ッテ居タ處ダトノコト。奥山ニ寄ル 工場へ出タ由 工場へ帰リ二時過ギ帰宅 静養ス 朝顔ノ植替ヲナス

◆▼192ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月2日(日)

天気 晴

今日ハ上天気 今日近頃一度モ腦ガ何ントモナカッタ 今朝又下痢ヲナス 七時起床 午前一時間程吉田氏交渉準備ヲナス 午後一時ヨリ工場ニ行キ榊氏ヲ待ツ二時頃清平來 榊氏四時過ギ來場 工場ヲ案内シ鈴木館ニ行ク 八時半ニテ大坂へ行クトノコトニ七時二十分迄話シ會フ 多少参考トナル 帰リニ坐敷用スダレ十二枚求メテ帰ル

◆▼193ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月3日(月)

天気 晴

夏ラシクナッテ來タ

定刻出 午後ハ無尾改造圖ヲ作ル

宮崎君明後日ノ支拂ニツキ万一ノ場合ヲ思ヒ支拂延期ノ手續キヲシテハトノコトデアツタガ朝菅谷氏ノ電話デハ吉田氏鴨川へ出張 明朝帰ル由ナレドモ今夜電話カケルトノコトデアツタガ宮崎氏余リ心配スルノデ尚自分ヨリ明日会见ヲ申込ミ鴨川岩田屋旅館へ打電ス 夕方終ッテカラ更ニ念ノ爲メ山東ヲ野口氏宅へヤル 清平今日ハ吉原ト協会へ行ク

大坂行グライダー全部發送ス

◆▼194ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月4日(火)

天気 晴

暑い日デアッタ

七時半菅谷君訪問 吉田氏昨夜帰宅今夜又帰ッオ昨夜電話シナカッタノデスグ鴨川へ懸ケル 吉田屋ニ室ハ取ッテアルガ来ラレナイトノコト 計畫書ヲ渡シ説明シテ帰リヲ待ツコトニス 後チ電話アリ 昨夜帰ッテ来テ今日出懸ケ今夜又帰ル予定トノコト 宮崎氏昨夜宅へ行ッタトノコト ドウモ話シガ合ワナイ

兎ニ角クラブヨリ千円入レ内五百円ハ後チニ返シテ貰フコトトシ這入ルヲ調ベ、明日ノ處ダケ間ニ合セル

清平吉原ノ方ハ旅行ニカコツケ延期ス 名古屋へ出張サセルコトトス。午後ヨリ出奈良原サンノ東京事ム所ニ行ク 長島氏来ラズトノコト 電話ハアッタラシイ

東日ニ行ク 福知氏ニ会フ 小野氏ノ件今日ノ處必要ナイガアノ位ノ人ハホシイコトハ述ベテ居ク

▲▼1955ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月5日(水)

天気 曇リ

終日在所 晝前菅谷氏ヨリ吉田氏鴨川ニ在リ明日午前中ニ帰ル由トノ電話アリ 宮崎君来ラズ 終日クラブニ行ッテ居タラシク二度ばかり電話アリタリ

奈良原氏来 中沢氏へ三千円程話シスルトテ上京ス。ツヒニ電話来ラズ

銀行ヨリ支店長ワザ、来 大矢手形割引スル由

▲▼196ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月6日(木)

天気 曇リ

吉田氏会见 イツレ午後ニナルト思ッタノデ奈良原サンニ立寄ル 津田沼へ行ッタトノコト 航空局ニ行キ青木サン千田サン工政課長守屋サンニ會フ マダキマッテ居ナイ由

十一時帰社 菅谷氏ヨリ午後二時半頃会见ノ通知アリ 晝食後散髪ナシ行ク 三時吉田氏宅へ行ク マダニ組バカリ来客アリトノコトニ菅谷氏宅ニテ待ツ 五時半頃菅谷氏ヨリ電話シテ貰フ 明朝会见ニ取極メ帰ル 清平待ッテ居タ待ッテ居タ

▲▼197ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月7日(金)

天気 晴

六時宅ヲ出テ成田山参拝 其マ、菅谷氏宅ニ行 丁度九時半 夕方四時過ぎ迄待ツ 其間宮崎ニクラブへ見ニヤッタリシタガ昨日ノ約束モヘノカッパデ其マ、帰ッテ来ナイ由 困ッタ老人ダ 宮崎ニ工場ノ方針ヲ聞カセル

帰途布施サンニヨリ注射ヲナシ便通其後一向直ラナイコトヲ話ス 短波電流ヲ懸ケルトヨイトノコトデヤル約十分間 帰宅夕食後早く床ニ入ル

会见日ニ吉田ノ不誠実

◆▼1988ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月8日(土)

天気 晴

昨日ノ電氣ガキイタガ今朝宅ヲ出テカラハ一度モ便所ニ行カズニスンダ。工場朝礼ヲスマセ清平ニヨリ横須賀ヘヤル。駅前デ野口氏ニ會フ 時間ガナイノデ山東君カラ工場ノ事情ヲ聞イテ貰フコトス。長島君ニ會フ 奈良原氏共ニ柏ヘ行ク。吉田氏事ム所デ尋ネタガ一向帰ッテ來ナイトノコトデアッタ

青年航空團終了式ニ參列 十二時二十分終ル 車向ヘニヨシテ居イタノデスグ帰ル 奈良原、長島両氏東京ヘ行ク 自分一時六分ニテ千葉菅谷氏ニ行ク 不在 少シ待ツ三時頃帰ル。ヤハリ行違不明トノコト 間モナク福西、岡田両氏來 浦和ニターレット工場ガアルノデ明後日見ニ行カレナイカトノコト 例ノ植村子爵ノ話シノ由 又福西ノ持込ミダ

◆▼199ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月9日(日)

天気 晴

終日在所 野口氏清平ト昇給賞與ニツキ協議 尚野口氏ニ方針計畫等ヲ話ス 十時頃吉田氏ヨリ野口氏ニ電話アリ 之レカラ北條ニ行ク由 菅谷君ニ電話シタガ不在トノコト 今日ハ菅谷君長房町ノ方ヘ行ッテ居ル筈ダ。宮崎君晝前親戚ノ人ラシイ人ヲ連レテ來テ見學ノ後チ帰ル 宮崎ヨリ吉田氏昨夜帰ッタトシタラ話シアッタ筈ダガ何ニモ云ワナイ處ヲ見ルトアト出サナイ方針デハナイカト思ワレルガ自分ハ野口氏ニアク辻大坂ノ株ヲ出シタコトヲ減資ノコトハ今後吉田氏ガ引受ケヤッタ貰エルモノト菅谷君ノ語ヲ信ジテウタガワナイト主張シテ居ク

夕方野口千葉ヘ行ク 自分布施サンヘ電氣ヲカケニ行ク
青年航空團員二三名來 福西ヨリ電話ニテ明日ノ工場見ニ行クハ午後ノ四時ニナッタ由

(吉田ノ不誠意 出資セズ)

◆▼200ページ◆▼ 昭和14(1939)年7月10日(月)

天気 曇リ

定刻工場出 久シ振リデラジオ体操ヲヤル 氣持チヨクナル

野口清平ト工場事務ニツキ協議

午後二時半ヨリ菅谷氏同道上京 上野駅ニ清平ト會ヒ共ニ三越地階へ丁度四時ニツク
国産ノ連中皆來テ居タニハウンザリシタ 先方ノ人來ラズ 一時間余待チボケヲ喰ツテ
解散ス 帰途清平宅ニ立寄ル

▲▼201ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月11日(火)

天気 曇後雨

定刻出 野口宮崎清平ニ今後ノ方針ヲ述べ協力ヲ頼ダ 宮崎ヲ營業次長タラシメント
シタガ辭シテ受ケズ 考慮スルコトヲ申合セテ今日ノ會ヲ終ル

奈良原氏立田知事ヲ徳永氏ト報(ママ)問 千葉グライダー聯盟會長タルコトノ承認
ヲ得タル由 發起人會ヲ來月ニシテ呉レトノコトデアッタ由 先ヅ其前發起人センコウ
會ヲ開カネバナラナイ

夕方醫者ニ行ク 今日午後吉田氏ト會見予定アリ菅谷氏ニ電話シタガ又今來客アリ
トノコト ドウモ吉田氏僕ニ會フコトヲサケテ居ルトシカ思エナイノデ宮崎ニ金渡ス様菅
谷ニ話シサセル

▲▼202ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月12日(水)

天気 晴

朝一番デ菅谷ニ行ク 昨日會見ノ模様ヲ聞ク 結局自分ノ予算ヲ見テ會フトノコトデ
アツタ由 昨日ハ宮崎君賞與ノ千円ダケ話シタノデ今日十時ニ渡ストノコト 宮崎月給
辭待(ママ)ノ意志吉田氏ニモ話シタ由 ソレハ今日ノ事情デ賞與ヲ出スコトハ自分達ノ
責任上ナシ得ナイコトナノデ辭待(ママ)スルトノコト 之レハ浅イ考ヘデ尚主張スルナラバ
所長タル自分トシテノ立場上捨テテ居ケナイ 午後ヨリ洲崎飛行場へ受檢中ニツキ挨
拶ニ行ク 西沢新航空官ニ會フ アト一人立川カラ帰レバ終ルトノコトデアッタ 飯沼
君ニ會フ カストル十カン分ケテ貰フコトニキメル。帝国鉄道協會デ相羽君ニ會フ 結局
局ノ空氣ハ自分ノ聞ク處ト大差ナイノデ協同□□ヲ取ルコトノ申合セダケナシ其旨明
後日十時局へ出頭 二人カラ口頭デ申入レルコトス
兄今夜大坂へ帰ル 今度初メテ夕食ヲ共ニス

▲▼203ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月13日(木)

天気 晴

ラジオ体操ノ時カラ左腹ガ少シ痛ミ午前中ツヽク
夕方電気ヲカケニ行ク

終日在所 御盆ノ手當ニツキ主任級ニ異見アリ本日渡スニ至ラズ
吉田氏会談ニツキ 六月分決算ニモトツギ支出ノ驗(マ)トウヲナス 犠牲費ノ外ハ経
費二千七百余円デ大体良好ノ成績デアル コレヲ工場内ノ作業ガ進展スレバソレデヨ
イノデ之レニツキ総務ヲ利用スルコトシヨウ

◆◆204ページ◆◆ 昭和14(1939)年7月14日(金)

天気 晴

暑い日デアッタ

八時二十分ニテ上京 東京駅デ明晩ノ三等寢台券ヲ求メ局ニ行ク 丁度十時 相羽マ
ダ來ラズ 柳原サンニ会フ 甲斐サンハ明晩立ツ由 今日試作ノ書類貰フ 二三十分デ
相羽來 二人デ監理部長、規畫課長、乗員課長工政課長、二會ヒ一度晝食ニ出ル 佐
田航空官、小野氏、御原サントニユークランドデ会食。後山川航空官 器材課長、青
木航空官ノ順序ニテ協力シテヤル旨口頭ニテ願出ル 乗員課長ハ大ニヤツテ呉レトノコ
ト 工政課長ハ立場上事業法ニヨル旨話シアリ 山川航空官ハ技術的ニマスプロダクシヨ
ンニツキ注意アリタリ 三時半菅谷宅ニ行
野口、岩崎ノ俸給辭退問題、吉田氏會見問題同ジクナラバ大坂へ連レテ來ルコト之レハ
菅谷モ大賛成デアッタ
夜峯島氏來 借金ノ受判ヲタノマレタガコトワル

◆◆205ページ◆◆ 昭和14(1939)年7月15日(土)

天気 晴

朝顔ヲソツテ九時工場出 宮崎野口清平ヲ集メ自分ノ抱負タル今迄ハ消極的整理時
代デ大ニ実ガ上ガツテ居ルガ今後積極的ニ実利ヲ上ゲル爲メ第一ニ予算制度ヲ確立シ
タイ旨ヲ述べ之レニ協力ヲ求メル 宮崎大分感ジタラシク清平モ乗氣デアッタ 野口氏
ハ實際問題トシテ出來ルカシラトノ不安アルラシカッタガ実行シテ出來ナイコトハナイ
今日ノ産業報国会ヲ休ミ三時ヨリ早仕舞ニサセル。盆ノ手當昨日支給シタル由 右ニ
ツキ月給者ノ高給者ハ辭待(マ)シ之レヲ一同ニ付加ヘタル由 大出來デアッタ 夜九時
五十五分ニテ出發ス

(予算制度ヲ命ズ)

◆◆206ページ◆◆ 昭和14(1939)年7月16日(日)

天気 晴

九時八分梅田着 十時四十分生駒山上ニツク。メヅラシク磯部、高左右、外二田中不二雄追來テ居タ 山上ヨリ十一機飛行 全機無事盾津ニツク 午後六時全機出發後生駒ホテルデ組員ノ会合ヲナシ直チニ總會トス 福前生田、日本小型吉原水野、梅津、アカシヤ岡村ト自分ノ五名 組合拂込ミノ件理事二名トスル件ヲ決定ス 明日吉原君帰京ニツキ明夕方披露ヲ兼ねテ会食スルコト 其他局其他ニ対スル希望ヲ述べルマトメ成立ス。午後六時門野ニ行キ大毎ノ招待 九時帰ル。津田沼ニテ伊藤三田浜デ低空ヲナシ民家ヲ破損シタル由 損害千九百円デマトマリタル由

▲▼207ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月17日(月)

天気 晴

五時起床 木下ヨリ一九〇〇円キメテヨイコト其他指令ヲ發ス。八時楯津着。パラシュート調査打電ス ツヒニ返事ナシ タ方東日ヘ電話シテ聞合セル 十四日タシカニ發送セリトノコト

今日ハモヤアリ上昇風ナク最高十五分 肥田木一機ノミ不時着ヲナス
夜新大坂ホテルニテ組立主催ノ晩サン会ヲナス 朝日ダケ來ラズ 外全部出席 盛会后チ佐藤先生ノドイツ、イタリーニテトラレタ九ミリ半ノ映写アリ 約一時間 非常ニ有益デアッタ

水野アカシヤ申込書受取ル アカシヤ小切手ニテ貳百五十円入り

▲▼208ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月18日(火)

天気 晴

五時半起床 今日ハ少シ遅レテ九時楯津着 今朝。パラシュート到着シタル由。行きニ今里ノ先キデ万年筆ヲ求メル 作ッテ居ル處デ大變アカッタ 十四金。ペンヲツケテ二円五十錢 シャープ。ペンシル一本六十錢デアッタ

今日モ二時半終ル 甲斐歸リ佐田サン來 大黒君一時間七分余飛ブ 四十分以上三機アリタリ。早く帰宅 今日カラ防空演習デ夜ハ早く床ニツク 重二來 十時頃ニナル四時頃菅谷氏ヘイツクルカ吉田氏如何ト打電ス

▲▼209ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月19日(水)

天気 晴

五時半起床 朝食後南氏來 ステンレスニツキ話シヲ聞ク
十時楯津着 今日ハ飛行ハ十一時過ギヨリ初マル 榊原サンモ來テ居ラズ一番淋シイ日

デアッタ 兄モ行ク タ方帰宅 入浴後、新世界三人ト高島屋食堂ニ行き支那料理デ会食 ヨカッタ

菅谷氏昨タノ電報ニ返事ナク又打電ス コラレルヤ否ヤ返待ツ

▲▼210ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月20日(木)

天気 晴

五時半起床 姉夫妻行クトノコトニ同行ス 十一時着 練習飛行中デアッタ

榊原、山崎、堀中将加治木氏來テ居タ 梅津、生田、アカシヤ來テ居タノデ正午ヨリ会議 理事長自分ニ決定 リリースノ件榊原山崎、佐藤氏等ノ意見モ聞キゲ式ニ決定ス

徳島ヨリ電話アリ 廿五日ニ最(ママ)非必要トノコトニ調ベテ返事ヲ約シ二時帰宅 ス
グ急報デ津田沼へ申込ンダガ四時半過ギテカ、ラズ中止シテ明朝津田沼ヨリ懸ケル様ス

夜奈良原氏ト道頓堀散歩後新千(ママ)世界へ行き白浜カラ來タおテルサンヲ加ヘ重ニ二見合ノコト將來ノコトナド相談ス 十時半帰り十一時就寢

▲▼211ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月21日(金)

天気 晴

今日ハ朝六時カラヤルトノコトデ奈良原氏六時半頃出テ行ク 五時半久次郎ヨリ電話アリ 今日荷造リ明日出ス由 徳島へハ昨日日出シタコトニ返電シタ由 釘ハ協会カラ手ニ入レタ由

堺ノ井上へ電話シ一三ベンツ右下翼一枚譲リ得 朝鮮ノ森氏待ツタガ來ラズ 九時ヨリタクシーニテ大坂航空工業學校ニ倉橋君ヲ訪問 學校卒業者ヲ依頼シ楯津ニ行ク。徳島ノ体育主事來テ居テ色々話シ三十日名命(ママ)式ニシタイトノコトデアッタ ニ二時頃ヨリタ立雲アリ大ニ嬉(ママ)ビ出發サセル 結局好記録ハナカッタ 清水ノ深草着三十三キロ六ガ一等ラシカッタ 松下機ダケマダ知ラセガナカッタ

夜七時ヨリ井上外津田沼出身者ノ招待アリ 東山北京料理ニテ珍ラシク亀井五郎君ニモ會フ 九時過ギ終ル 合同問題ニツキ話シ合フ 自分ヨリハ、實際メイワクデアッタコトヲ率直ニ話ス

十時ヨリ新世界ニ行キ重ニ二ト明日以後ノコト打合セ。明日ノ見合ノコトモ取キメ十一時帰宅 床ニツク

▲▼212ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月22日(土)

天気 晴

六時起床 七時半朝鮮ノ森氏來 コレカラ満州ノ方へ行ッテ九月頃カラ九州ヘグライダー賣込ミニ行クトノコトデアッタ 八時三十分宅ヲ出奈良原氏閉会式へ 自分九時発上六デ出發 中川乗替 十二時七分名古屋着 スグ御原氏ニ電話スル 不在ニ時頃帰ルトノコト 地下ノ食堂ニ行キ考慮ノ上兎ニ角木幡ヶ原ノ状況ヲ見ル爲タクシーヲヤトフ 丁度御原氏來テ居ルトノコト。ナゴヤグライダー製作所ヲ見學後御原氏ニ會フ 今夜大坂へ行ク由 名古屋ノ状況ヲ聞キ大坂ニモ友人ガ機關學校ヲヤルノニグライダーヲ十台バカリ居ル由 之レモ依頼ス。永坂君ノ宅ニモヨル ボスノ金十五円呉レル 三時三十五分ノ臨時ツバメニ乗ル

六時静岡着 青島宅ニ行ク 新潟ヘ枝野氏ト同行 明日帰ル由 小型ヲヤトヒニ保園ニ入ル 丁度八時。夕食中根岸君來 十一時迄話シ會フ

▲▼213ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月23日(日)

天気 晴後曇リ

六時起床 ヨイ氣持デアッタ マダ大分眠カッタガ床ヲ上ゲラレタノデ起キテシマウ 八時過勘定ヲ拂テ根岸ニ行ク 水上機ノ方迄散歩シ十時半帰リ自動車ヲタノミ十二時二十一分清水発ノ準急行ニテ帰ル 五時前帰宅 清平ヨリ承(ママ)細聞ク 仕事ノナイコトヲ非常ニアセッテ居タ 金モアト三百円位シカナイトノコト 八時ノ終バスデ帰ル

十六日ノ事故ニツイテ聞ク 聞ク程ニシヤクニサワルコトノミデアッタ

▲▼214ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月24日(月)

天気 曇リ小雨

菅谷不在 二時頃帰ルトノコトデアッタガ、ツヒニ帰ラナカッタ 福西ハ姉ガ死ンダノデ 今日奈良ヘ行クトノコトデアッタ

野口氏來 組合ノ事務ヤッテ貰フコトス 宮崎昨日三時頃帰ッタ由 今日モ出ズ腹ヲコワシタ由。カーバイト十カン何處カラカ手ニ入レテ來タ由 大ニヨカッタ 白戸ヨリ 押金具三千本注文アリ アト一万本準備タノムトノコト 午後昇給率ヲ定メル

野口君金ノコト一向吉田氏ニ話シタ模様ナシ

斎藤機械ミーリングト直結 センバンノ金一万三千余円ノ手形ニ対シ八千円ノ小切手受取リアリ 五日迄持ッテ居テ呉レトノコト 之レハ斎藤デアロウ 明日ハドウデモ吉田氏ニ會ヒ決定サセネバナラナイ

宮崎ソロ、ナマケル。吉田ニ対野口モ又誠意ナシ

▲▼215ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月25日(火)

天気 晴

一番菅谷氏ニ行ク 十八日ノ役員会デ工場方針ニツキ論議アリタル由 吉田氏会见見込シダガ居ルノカ居ナイノカ例ニヨッテハツキリセズ 自分ニ会フコトヲサケテ居ルラシイ。明日臨時役員会ヲ開クコトトス。野口氏ニクラブヘ電話サセタラ居ル由 明日ノ役員会ハ用事ガアツテ出ラレナイトノコトニタ方吉田氏ヘ行ク様ニ話ス 宮崎今日モ来ラス

タ方醫者ニ行ク

吉田氏会见ヲサケル

▲▼216ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月26日(水)

天気 晴

防空演習第三日デ今日カラ本格ノ演練ニナル

役員会十時丁度 富尾兄弟野口氏来 ヤ、オクレテ岡田氏奈良原氏早ク来 菅谷氏オソクナルトノコトデアッタガツヒニ来ラス 晝食後話シヲ初メ自分ヨリ大坂出張ノ経過通信省ノ経過、財政状態ノ経過報告ヲナシ一言モナカッタ 此前ハ大分非(ママ)観シタラシカッタ 福西晝前来 結局野口氏カブトヲヌギ吉田氏ノ連絡(ママ)係リヲ誰レカ作ツテ呉レトノコトニ菅谷川口両氏ヲ押スコトニナリ四時ヨリ福西氏ト菅谷氏宅ニ行ク五時ツク 丁度今東京カラ帰ツテ来タ處ダトノコト 宮崎来合セル 何ニカ菅谷君ト話シ合ツテ帰ル

明後日ノ支拂ニツキ吉田氏出サヌラシク僕ニ会フコトヲサケテ居ルラシイノデ菅谷氏ニ明日最(ママ)非会スル様タノム 尚金ニツキ菅谷氏ノ話シデハ貴族院へ出ル人ニ一万円出サセグライダーニ寄附サセルコトニナツテ居ルノデ今日今カラ会フトノコトニ少シ安心シテ帰ル

根岸カラ今夜一三ノ件デ電話シテ呉レトノコトデアッタガカ、ラズ清平ニタノム
大坂ノ井上東京ニ来 明日相羽多田サン等ト正午工業クラブデ会ヒタイトノコトデア
ツタ

▲▼217ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月27日(木)

天気 晴

五時十分空襲警報二起出工場二行ク タレモ一人モ居ラズ宿直モ居ナイカッタ。六時菅谷ニ電話スル 十時迄ニ電話スルトノコトニ待ツ 井上ニ電話スル 今夜朝霞へ行き帰坂スルトノコトニ清平ヲヤル

野口氏來ラズ宮崎氏モ來ラズ 正午ヨリ菅谷ニ行き二時頃帰り会談 工場全然無方針ヲ強調ス。ソシナコトハナイ 方針ニヨリ進ンデ居ルガ金ガ廻ラナイコトヲ述ベル 結局明日自分トシテ七千円ダケ出スコトニシテ來タトノコトニ一安心ハシタガ氣ハ輕クナラナカッタ 帰場四時半 終業後帰宅

ツヤ子昨日來 今夜帰ル

朝弘法様ノ灸ヲスエル 永イ間ノ家内ノ望ヲ達ス 出火六ツデアッタ。何ンダカキ、ソウナ氣ガシタ

野口宮崎來ラズ

▲▼218ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月28日(金)

天気 晴

昨日菅谷氏ノ言ヲ信用シテ居タガ十時半野口氏來 昨夜宮崎ヨリ電話アリダメダトノコトデ今朝野田へ行き兄ノ金ヲ式千円融通シテ來タトノコト 現金千式百円ヨリ外ニ積立金ヲ降シテ職工ノ方ノ支拂ダケスマセルコトニシタガ夕方間ニ合ワズ明日ニ支拂ヲ延バス。菅谷君ニ電話シタガ不在 四時頃行ツテ見タガ居ラズ置キ手紙シテ帰ルサイパンヨリ二名來 飛行機ニ乗セテヤル

昨日菅谷ノ話シハウソ 吉田金出サズ

▲▼219ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月29日(土)

天気 晴

七時前宅ヲ出八時過ぎ福西着 昨日迄ノ事情ヲ話ス 自分トシテハ通信省問題ニ進ム旨述ベテ居ク。クラブノ名ニテ自分裏書キシテ千円借リル。福西氏ハ別ニ意見述ベズ タゞ国産ガ余計ナコトヲ云ツテイケナイトカ話シテ居タ 結論トシテ差シ當リ十万円乃至十五万円ハ吉田氏ニ出サセル外ナイコト 又大坂行きノ時ノ約束カラシテソウアルベキコトデアッタ

航空局ニ行き青木サン工政課長、片桐サンニ會フ 工政課デハ書類ヲ急イデ居タノデ月曜カ火曜ニハ出スコトトシテ話ス 甲斐サンニ會ヒアカシヤノマイゼノ件話ス 榊原サント相談シテ居クトノコトデアッタ。器材課長ニ會フ根岸ノ一三式修理ノコトヲ話ス大ニヤッタ方ガヨイトノコトデアッタ 山川氏ヨリ海軍航空本部へ行ッタラ伊藤ノ方ヲ大ニ

ヤラセルツモリトノコトデアッタカラシカリヤツテ呉レトノコトデアッタ。嬉シイタヨリデアッタ 帰宅 川口氏午後居ルトノコト 二時頃ヨリ行ク 国産ノソモ、初ヨリヨク今日迄カラ話シ吉田氏出スベキモノハ出ス様菅谷氏ト相談 尽力ヲタノム。約三時間話ス 野口氏午前中吉田氏ト会见 明後日野口氏責任ヲ以テ支拂ヒスルトノコト ソレデハマダ金ノ話シハツカヌラシイ

▲▼220ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月30日(日)

天気 晴

五時過ぎ起床 六時過ぎヨリ徳次仁三郎ヲ連レテ成田山ニ参拝 腹ガヘッタト云フノデ親子井ヲタベサセテ九時帰ル スグ工場出 今日ハ野口氏吉田氏ノ案件デ出ナイトノコト

終日工場 清平出。暑イ日デアッタ 満州國ヨリC二B二式台ヅ、注文アリ 今日ハワザト菅谷氏連絡ヲシナカッタ

午前九時川口氏ト菅谷氏何ニカ外ノコトデ会见ノ予定ノ由
工場支拂予算書ヲ作ル

▲▼221ページ▲▼ 昭和14(1939)年7月31日(月)

天気 晴

朝菅谷君ニ行ク 丁度居合セル 吉田氏ヨリ必要ナ金ヲ出サセルコトニツキ協議ス 一両日中ニ川口氏ト二人デ会フ由 外ニ技術者ヲ世話スルト云フ人ガアツテ一日カニ日ニ工場ヲ見ニ行クトノコトデアッタ 飛行機ノ方ヲ見ニ行クトノコトノ技術者モ知ツテ居ルトノコト 知ツテハ居ルダロウガ之レハ何ントモナルモノデハナイ

久シ振リデ宮崎君出勤 二階デシバラク方針ニツキ話シ支出予算ヲツクルコトヲ命ズ。野口氏自分醫者ニ行ク迄(五時)ツヒニ來ラズ 金ガ出來ナイデ困ツテ居ルモノト思ワレタガ幸ヒ斎藤機械カラ手金ヲ貳千円貰ツテ來タノデ大キニタスカル 六時頃野口氏七千余円吉田氏カラ受取ツテ來タ由後チ聞ク

今日ノ注射ハセヌ先キカラ氣持ガ悪カッタ アトカナリクサカッタ
仁三郎講習ニ恵美子大坂ヘヤルコトス

宮崎君久シ振リ出社

▲▼223ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月1日(火)

天気 晴

定刻出 八時十分ニテ千葉行 菅谷ニ寄ル 昨日野口君金持ッテ來タコトヲ話シ小規模拡張ダケハ最(ママ)非出サセルコトヲ依頼ス 今日アタリ会エルダロウトノコトデアッタ

九時四十五分ニテ東京ヨリ來タ人達ト同乗ス 笹川十二時着 船ガ工合悪ク二時頃砂丘着 後晝食 中上次郎氏磯部氏、山崎氏、福知氏デアッタ 四時半向エノ自動車デ出發 七時五分笹川發ニテ九時半帰宅

◆◆224ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月2日(水)

天気 曇雨

九時半工場出 野口氏出社シテ居タ 小用ヲ終ル

奈良原氏來 廿八日以來腹ヲコワシテ寢テ居タトノコトデアッタ クラブカラ百円ダケ渡シテ居ク

朝仁三郎ト恵美子ノ出發デイロ、注意ス 大坂ノ姉來サセル爲メニ金五十円手紙ニ入レテヤル

晝過ギ磯部サン來 三時頃奈良原サント三人自宅へ案内シビール二本デ歓談 五時過ギ歸ル

◆◆225ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月3日(木)

天気 晴雨

イクラ寢テモ眠ク八時近ク迄眠ル 九時出勤 タ方迄非常ニ頭ノ工合ガヨカッタ。大坂以來寢不足デアッタラシイ。工場へ行クトスグ野口君ト工場内ノ改革ニツキ協議 皆カラ出タ意見ト野口氏ノ案ニツキ見ル 晝過ギ迄カゝル

近藤大佐三時五十分柏發ニテ出發ノ由 二時半出テ行ク 丁度間ニ合フ 五時船橋ニ歸リ大矢氏ノ處へ過日墜落當時ノ札ニ行キ、清平宅ニ寄ル 丁度帰ッタ處ダトノコト 一時間程話シテ歸ル 恵美子ヨリ何シニ云ツテ來ナイガ大丈夫ダロウ

◆◆226ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月4日(金)

天気 晴雨

颱風ノ余波アリ天気定マラズ 朝菅谷ニ行ク 小規模擴張ノ資金ダケ最(ママ)非出サセルコトノ話シニ行ッタガ菅谷君ハ僕ノヤリ方ニツキ全然無能力者ナルカノ如キ言辭ニテシバラク引退セヨトノコトデアッタ。之レデハ通信省案モ海軍関係モ進メ様ナシ 僅少ナル資本デスグ利益ヲ上ゲナケレバナラナイト云フ主張ハ平時ノ場合ナラヨイガ今日ソナコトヲシテ居タノデハ時機ヲ失スル恐レアルコトモ注意シテ居ク 菅谷君ハ二三ヶ月デ

出來ルトノコトデアッタガ野口君宮崎君デハ六ヶ敷カロウ

今日ノ上京ヲ中止シ清平ヲ工政課ト東日ノ世界一週ノ会ニ出席サセル

菅谷ノ態度一変 伊藤攻撃ヲ初メル

▲▼227ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月5日(土)

天気 颱風

定刻出 伊東安雄ニ立替タ第一回分ハ後チニ相談スルトシテ二回目三回目ノ分ヲ作ル様宇賀ニ手紙出サセル

上京 局ニ行ク 工政課長ニ会フ 仕事ヲ出ストノコトデアッタ 其方法ハ前以テ通知クレルカ現物が出來テカラ注文ガ來ルノカ聞イテ見ル 前以テ通知スルトノコトデアッタ尚相羽君トノ提携ハドンナ工合カト聞カラレ自分ノ考ヘ前ニ話シタ様ニ受注ト材料ノ購入ヲヤルコト 然シ局ノ意見次第デ合同モスレバ單獨デモヤルト云ツテ居ク

三越ニテ晝食後設計事ム所ニ行ク 殆ンド全員デヤツテ居タ 一週間程休暇ヲ取ツテヤツテ貰ツテ居ルトノコトデアッタ 一三改造ノコト其他ヲ打合セテ四時半東日ニ行キ六時半迄山崎君待ツ 吉田ガ試写ヲ見セテ呉レテ一寸見エル暇ニ山崎君來 帰ッタト思ツテスグ帰ッタラシイ ツヒニ會エズ

美津濃今日開会トノコト ソレデハ間ニ合ワナイ

颱風來 大シタコトハナカッタ 帰リニ工場ニ寄ツテ見ル 雨漏リ例ニヨツテハゲシカッタガ何ントモナカッタ 山東君宿直

▲▼228ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月6日(日)

天気 晴風

ユツクリ起床 十時ヨリ醫者ニ行ク 帰リニ今朝北島氏ヨリ貰ッタ手紙ニ職長ノ履歷書ガアッタノデ電話シテ会见方ヲ申込ム 北島氏連絡シテ呉レルトノコトデアッタ。山東昨日カラマダ居タ 日直布施 宮崎來テ居タ カーバイトノ件ノ爲メトアッタ

正午帰宅 清平待ツテ居タ 今朝手紙ノコトヲ知ラズニ北島サンヘ電話シタトノコトデアッタ 四時過ぎ帰ル

夜柏ヨリ角帰ル 仁三郎元氣デ慰問袋ヲ送ツテ呉レトノコトデアッタ由 笑ワセル

▲▼229ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月7日(月)

天気 晴

五時起床 六時半ヨリ京成電車ニテ清平宅ニ行キ同連シテ八時十分前海軍監督官ニ

行ク 何ニカ講話ガアツテ出テ來ラレタ栗谷サンニ一番ニ會フ 非常ニ好意アル話シ振リ
デ種々指導ヲ受ケ、航空本部ヘ行ク 目指ス人不在 協会ニ立寄り山崎氏ニ電話ス
金ハ送ルコトトシ圖面ハ送ツテ呉レルコト 柏ノ講習会ハ十三日ナラ行クトノコトニ丁度
田母神サンガ來テ居タノデ其旨話シテ返事ヲ待ツコトトス。十一時帰場 大矢約手不
渡リノ由 奥山ヘ電話シタ方山東ニヨラセルコトトス マダ五日ノ支拂ガホトンド出來テ
居ナイ

明日会議ヲ開クコトトス

▲▼230ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月8日(火)

天気 晴

今日ノ会議ハ菅谷氏ノ例ノ話シガ出ルモノト予想シテアラカジメ準備ス 十二時漸ク
全員揃フ 吉田氏一人不参加。野口氏ヨリ一應ノ報告後菅谷氏ヨリ社長一時第一線
ヨリ病氣静養ヲ名トシテシリゾキ野口氏ニ一任スルコトトノ動議アリ 岡田ヨリ更ニ吉
田氏社長ニ就任案ヲ提出 之レニ対シ大体全役員ノ賛成アリ 一人野口氏ハ立場上一
應反対ス 福西ノ体度アイマイ。スベテハ吉田氏ニ相談決定ノコトトナル 最後ニ自分ヨ
リ野口氏ヨリ工場改革案ヲ述べサセ自分ヨリ十五万円出タ時カラノ状況ヲ説明シ今
日決提ヲシテ居ラナイ旨強調ス。菅谷川口氏ハヨク感ジタ風デアッタ 三時半終ル

社長引退ノ動議提出

▲▼231ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月9日(水)

天気 晴

定刻出 注射ノキ、メデ今日モ半日頭ガ変ダッタ

定刻出社 朝礼後菅谷三行ク 八時半着 八時ニ吉田氏ト會見ニ行ツタトノコトニ其
マ、川崎ノ日新工業ニ行ク 今日ハ出社サレズ自宅ニ居ラレルトノコトニ自宅三行ク 丁
度十二時半 二時迄話ス 職工ノ使ヒ方ニツキ色々有益ナ話ヲ聞ク 島田君ノ事ハ人
物ハ知ラナイガ引受ケルトノコトデアッタ 職長トシテノ心得ヲ話シテ貰フコトヲタノン
デ帰ル 四時十五分工場着 川口氏照(マ)介ノ或工場主來テ居タ 間モナク川口氏
モ來 六時迄雑談 工場モ見セル 機械ハセンバンダケデモ三十台ハ揃エナケレバトノコト
デアッタ

野口氏昨夜吉田氏會見 金六出ナイトノコト。又貴院撰擧ノ爲メ二十日程飛ビ廻ルノ
デ毎日五ガロンヅ、ガソリンガ入ルガ何ントカナラヌカトノコトデアッタ

▲▼232ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月10日(木)

天気 曇

朝大雨後曇リ 久次郎昨日検査ヲ受ケ第一乙種デ入營スルコトナッタ由 夜オコロ
デ御祝ヲシテヤル 角、清平モ呼ブ

野口氏ノ意見モアリ自分モ感ジテ居タノデ岡田ヲ呼ビ島田入社ニツキ諒解サセル 結
局仕事ヲ覺エルト云フコトガ本人モ希望スル處ラシカッタノデヨカッタと思フ。島田へ明
日來ル様速達ヲ出ス 後チ木工ノ連中ヨリ収入増加ニツキ希望ノ申出アリ 佐藤ヲ通
ジ今月一杯待ツ様話シサセル 今月一杯待ツガ仕事ガ増セバヨイガ増サナカッタ時ニハ
ドウ云フ風ニシテ呉レルカヲ十五日中ニ聞カセテ貰ヒタイトノコトデアッタ 野口午後
千葉縣庁ト裁判所へ行

▲▼233ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月11日(金)

天気 曇後晴

C五本日柏へ行ク B六送ル 賣渡シテ代金ハ貸シテ居クコト 島ニヨク話シテ居ク
金工岡田昨日新職長ニ対シ協力スル旨チカヒナガラ今日ハ止メサセテ呉レトノ申出ア
リ 聞ケバ役付ナラ居ルガ平デハイヤダトノコトデアッタ 役付ハサセル予定デアッタノ
デ其旨話シ佐藤ト交渉サセル。安元モ呼ビ同人カラモ話シサセル 晝頃野口氏來 職
長問題ト仕事ノ件。昨日木工ヨリノ話シヲナシテ打合せ自分ハ福西カラ電話ガアッタ
ノデ行ク 丁度ニ時少シ前 話シハ国産デ此マ、行ケバ減資ハ必至ナノデ十五日前ニ異
議ノ申立ヲシタイニツキ相談シテ諒解ヲ得タイトノコトデアッタガ自分ノ立場上事前ニ
ソノ相談ニハ應ジガタイ旨ヲ述べ会见ヲコトワル 尚昨日菅谷氏ト会见シタル由

社長問題ハ吉田氏不承諾。其他ノ問題ハ四五日考慮サセテ呉レトノコトデアッタ由 ソ
レニツキ吉田氏ノ諒解ガアレバ福西名義ニテ異議申立ヲナスコトモ差支ナシト福西一流
ノ手ヲ話シタ處菅谷承知 其旨野口氏ト共ニ吉田氏ニ話シスルトノコトデアッタ由 三
十分間デ会见ヲ終リ分レテ浅草へ行キ久シ振リニ活動ヲ見觀音様ニ參詣シテ帰ル 清
平ニヨル 島田來ナカッタ由 八時過ギ迄佐藤待テ居タトノコト 夜業シナイ由 マダゴ
タツイテ居ルラシイ

▲▼234ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月12日(土)

天気 曇後晴

奥山電話シタガ今日ツヒニ返事ナシ 野口シキリニ云フ 今日京都へ千九百円送金ノ日
ナノデ大分先ニシテ居タ 午後岡田氏ヨリ電話ガアッタ由

徳治今朝東日ヨリ電話デ十一時カラ谷津デ吉田ノ壮行会ガアルカラ最(ママ)非奈良
原サント云ツテ呉レトノコトニ奈良原サンへ知ラセニヤル 野口氏十時頃來 スグ協議
之レヨリ先キ佐藤宇賀ヨリ金工部ノ報告アリ 島田ヲ工務課員トシテ事実課長ノ仕

事ヲサセトノコト 岡田ニ現状デ役付ニスルコト ソレデ今日モ皆出勤シテ居ルトノコトニ
ヨカロウ 野口ニ話シ役付ノ発表早クスルコトヲ協義(マ)ス 之レハ宮崎ノ帰ル迄待チタ
イトノコトデ意ニ任ス 木工ノ方來月カラ二時間作業延長サセルト云フヨリソレニ相當
スル仕事ヲ與ヘルコトデ早ク発表スルコトヲ申合ス
十一時谷津ニ行ク 十四日ノ間違ヒトノコト

奈良原氏ニ福西ノ報告ヲシ清平ノ宅ニ行キ福西ニ電話シ吉田氏盆ノ内ダケ花ノ井ニ居
ルコトヲ知ラセル 川口氏ヲ訪問シ自分ノ立場ヲ聞ク 吉田氏考慮中トノコトデ急イ
デ貰フコト 現状デハ誰レニモ金ガナクテ出來ナイコト 自分ハムシロ仕事ダケヤリタイ
コト 練習機ヲ作リタイコト希望ヲノベテ居ク 今日菅谷ニ会フ由

▲▼235ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月13日(日)

天気 晴

三時頃雨が降ッテ居タガ出カケル 四時半宅ヲ出ル 朝霞ヘ行ク 川原、薮崎ト一所ニ
ナル 船橋迄同行 旅費少シ少ソウナノデ十円渡シテ居ク
六時十分東京發 天気ヨクナル 九時十分仙石練習場着 協会ノ木村君ガ居タ。十
時半知事來 プライマリーノ練習トセコンダリーノ飛行ヲ見テスグ帰ル 自分モバスヲ
待ツ爲メ十二時四十分迄居ル 晝食ニフリ包ノニギリメシ二個ヲ喰フ 朝メシヲ喰ッテ
居ナイノデウマカッタ 五時一寸前帰宅ス 間モナクタ立アリ 丁度ヨカッタ

▲▼236ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月14日(月)

天気 晴

午後ヨリ東風トナリ冷シ

九時過ギ飛行館ニテ大藤ニ会ヒ同道シテ永渕總務ニ会フ スグ人事課長ニ電話シテ呉
レタノデ行ク 書記トシテ採用方依頼 引上ゲル 十一時谷津遊園ニ入り下川八百川
両君列席 千葉県知事其他ノ壮行会アリ 奈良原、田母神氏ト晝食後帰場
根岸君來テ居タ 一三式ノ件デ來テ呉レタトノコトデ見積書ヲ渡シ三田浜デ清平ト
夕食ヲ共ニス

島田君來 給料ノコト 地位ノコトキメテ十七日ヨリ來テ貰フコトトス

▲▼237ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月15日(火)

天気 晴

朝奥山ヘ行ク 昨日出タマ、帰ラヌトノコト 其マ、千葉ヘ菅谷君訪問ス 十三日カラ妻
君ト温泉ヘ行ッテ今日アタリ帰ルトノコト 中々シヤレテルワイ

帰りニ布施サンニヨリ注射ス 北風ヒヤヒヤト今日ハ大変氣持ガヨカッタノデ工場ニ帰ッ
テ色々計畫シテ居タガ工場ニ這入ルト間モナク氣分悪クナリツヒニ帰宅シテ安静ニス
野口、清平大正製作所へ納品ニ行ッタ由

木工部ノ件野口氏ヨリ話シサセル 正午太田ト佐藤來タガ野口ニ聞カセルコトトス

吉田ノ眞意ヲツカム必要アリ昨日宮崎花ノ井へ呼バレテ行ッタトノコトデ今日ハ來テ居
ルカト思ッタガ來ラズ 野口ニモ会エズ明後日ニ延期ス

◆◆238ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月16日(水)

天気 晴

柏講習会ノ閉会式ニ出ル筈ノ處午前中安静ニシタ方ガヨサソウナノデ中止シテ飛行機
デ行クモノニ事傳テヤル 晝前起床 晝食後上京 京成電車故障ノ爲メ五十分程オク
レテ二時半福西ニ行ク 菅谷氏ノ處へ行ッテ居ルトノコト 電話デ聞合セテ第三商事ノ
事ム所ト云フノエ行ッテ見ル 小川町ノチャチナビルノ一室デアッタ 富尾留雄氏今來
ルトノコトデ待ッタガ來ラズ 大坂ノ方ノ話シト云フノヲタシカメテ吉田氏ニ話シシナケ
レバナラナイトノコト 自分ヨリ機械ノ支拂代金ノ件ヲ持チ出シ誰レガヤルニシテモ機
械代迄自辨ハ出來ナイト主張シテ早クキメルコトヲ強ク依頼ス

鳥飼氏ニタノマレタ件デ池田君ヲ訪問シ百五十円受取ッテ飛行館ニ行ク 航空神社前
デ祈願祭ガ初マッテ居タ 終ッテ壮行宴ヲ五階デヤル 丁度今日羽田着ノ獨逸機ノ乗
員二名モ來

終ッテ井上、相羽ト会见 井上ノ提案ニテ三社合同ノ件 各百万円ヅゝトシテノ案ニテ
多田氏ヲ社長ニオスコトノ提案アリテ大体意見ノ一致ヲ見次週井上上京迄ヨク考慮ス
ルコト

井上下分レテ相羽ヨリ今月分ハコノマ、行ッタ方ガヨイカラ來週來テモマダ会社内ノ諒
解ガツカナイ理由デ延期シヨウトノコトデアッタ

◆◆239ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月17日(木)

天気 晴

朝散髪後九時出社 島田ニ仕事ノ事注意ス

奈良原氏來 野口君出 今月分予算ヲ作ルコトヲ命ジ吉田氏ト交渉材料トス 正午
頃吉田氏ノ弟梅津氏並ニ天寶堂ノ主人公ノ二人來

一時半帰宅 仕度シテ千葉工業ノ後援会理事会ニ出席ス 學校落成式ノ件、敷地拡
張ノ件ナド 五時終テ食事ハコトワリ帰りニ醫者ニヨリ帰宅 今日ハキミ子ノ岩田帶ノ
着帯式ノ日デ船橋カラ鳥ヲ買ッテ持ッテ來テ皆デ喰フ 恵美子今朝帰ル 叔母ツヒニ
來ラズ

▲▼240ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月18日(金)

天気 晴後夕立

定刻出 九時半縣教育会館ニ行ク 五月二十二日ノ青少年ニ給リタル詔語謄本ヲ拝受 十一時帰場 倉庫内ニ納メル

野口夕立(ママ)宮崎ニ電話アリ 今日明日用件ノ爲メ出社シナイトノコト 宮崎ニ先般花ノ井へ行ツタ時工場ニ関シ話シナカッタカヲ聞ク 何ニモナカッタガ今月ハ金ハ足ラナイト云ワナイダロウナト云ツテ居タカラ今月ハ金ハ出ナイト思ワネバナナイトノコトデアッタ

明朝菅谷ニ會ツテ今後ノ方針ヲ定メネバナライ

▲▼241ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月19日(土)

天気 曇リ雨

二番ニテ菅谷ニ行ク 丁度吉田サンへ行ツテ居ルトノコトニ電話デ話シ午後電話ヲカケテ貰フコトトシテ帰場 奈良原先生ト飯田スデニ來テ居タ 共ニ吉田君ノ無事成功祈願ノ爲メ成田山ニ参拝 一時帰場ス 大坂ノ中山氏來テ居ルトノコトニ時半ヨリ上京 四時半第一ホテルニテ會フ 大坂デノ札ヲ述ベ一時間程話ス 産金会社カラ二十万円借り出シノ運動ニ來タトノコトデアリ人ダノミハダメダトクレ、注意サレタ

▲▼242ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月20日(日)

天気 雨

一番ニテ菅谷へ行ク 丁度人力デ出掛ケル處デアッタ 一寸話シ會議ヲ廿二日開クコトトス 其前吉田氏ノ方キメルモノハキメテ貰ヒタイト依頼シテ居ク

午前中工場 野口氏來 午後帰宅 静養ス
雨ハゲシ

▲▼243ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月21日(月)

天気 曇リ

昨夜大雨アリ

八時工場出 野口、宮崎、山東休ミ。自分上京 十時押上着 工業校長北村氏ト市川ノ某氏ト二人ダケシカ來ラズ十一時迄待ツ 常務並ニ事業課長ニ會ツタガ京成デハスデニ今日行クコトヲ知ツテ居テ斷ル方法迄キメテ居タノデ何ンニモナラナカッタ 十二

時終ル

局ニ行ク 新館へ移轉シテ大分広クナツテ居タ 柳原サンニ會ヒマイゼノコト聞ク マダト
ノコト 東洋倉庫ノ件話シ組合ノ報告書トリリス圖面渡ス 乗員課長器材課長ニ會
フ。飛行協會ニ行キ井上サンニ會フ。岡田勇氏ト地下デ會見 三十円渡シグライダー
賣込ミノ件頼ム 東日ニヨリ吉田清氏ニ會ヒ帰ル

今日ハ朝便通ヨカッタ 数モ少ナク二回ヨリ行カナカッタ 昨夜カラ醫者ノ藥ヲヤメ大
師サンニオソワツタ藥ニス

▲▼244ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月22日(火)

天気 晴

役員会昨日吉田宅へ菅谷福西、岡田、富尾兄ガ集タ結果菅谷ヨリ社長吉田氏ニ依頼
スルコトニシタガ今朝電話デコトワリガアッタ 社長ハ現状ノマ、デシバラク第一線ヨリ引
クコト 清平モ同様トノコト 之レニハ意外ニ驚イタガ聞イテ居ク 十一時全部集マル
吉田一人欠席 會議減資延期問題等ニツキ福西ノ話ヨリ後チ社長問題ニナリ結局吉
田氏ヲ社長ニ最(ママ)非ナツテ貫フコトニ全会一致 先ヅ自分辞表ヲ出スコトス 辞表
ニ六吉田氏ヲ社長ニ頂ク爲メト明記ス 菅谷ノ社長隱退説ニ対シ川口氏ハ社長ハアク迄
工場ト生命ヲ共ニスベシトノ意見アリ 正論ト思フ 結局吉田氏ノ交渉ハ川口菅谷両
氏行クコトナル

相羽氏中山迄來タトテ立寄り工場見テ帰ル

▲▼245ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月23日(水)

天気 晴

今日一日静養ノ予定 昨日ノ注射ハ少シモ氣持チ悪クナラナイ 腹工合ガヨイ爲カモ
知レナイ

福西カラ電話ガアッタトノコトニ九時頃カラ出懸ケル前ニ野口君ニ吉田氏ニ一度自分
ヲ會ワセル様手紙ヲ書イテ徳治ニ持参サセル。出カケニバスカラ降リル野口君ニ會フ一
寸話シテ居ク。十一時半頃ヨリ十二時半迄福西ト會談 今度ノ原因ハ吉田力金ヲ出
サナイ爲メ菅谷ノ立場上ノ苦肉策ナルコト。之レニ岡田ガウマク取り入リツ、アル事。
技術部ノ予想ハ大体秋田ニアルコト 昨日ノ結果吉田ト會ツタカドウカ不明ナレドモ、
アト出金ダメ 社長ニモナラナイダロウト意見一致ス 然ル上ハ第二段ノ策ヲ要スルニア
ラズヤト 之レニツキ福西モ一ツ例ノ伊太利ノ製作權者ノロアリトノコト 自分ハ萱場へ
交渉シテ見ル考ヘヲ起ス 福西ニハ話サズ 夕方清平ト相談 決定ス

▲▼246ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月24日(木)

天気 曇り後晴

夜雨降ル 朝晴レ次第二ヨクナル
野口今日ツヒニ來ラズ 宮崎午後來場 千葉ノ無盡会社デ金ヲ借ル予定トノ話シヲ清平ニシテ居タ由夜清平ヨリ聞ク

一時半ヨリ上京 萱場氏ト会見 島九月ヨリヤルコト 無尾ノ試験ハ今月中ニ終了引渡シヲナスコト 其レニ対スル承(ママ)細打合セヲナシ更ニアト発動機付無尾ヲ來年三月迄ニ完成シタイトノコトデアッタ 設計製作ヲ引受ケテ呉レルカトノコトニ設計ハソチラデヤツテ貰ヒタイ事 製作ダケ引受ケルコトス 模型ト工場内ノ一部ヲ見テ帰ル 清平宅ニヨル 研究所ノ佐野君來テ居タ

▲▼247ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月25日(金)

天気 晴

朝七時半川口氏訪問 吉田氏会見ノ模様ヲ聞ク 吉田氏予想通り社長受ケズ 理由ハ伊藤ヲ助ケル爲メニ自分ガ推撰(ママ)シテ居イテ、之レヲ廃スルコトハ自分自身ヲ廃スルコトト同様デ出來ナイトノコトデアッタ由 理由ハ実ニ立派ナモノデアルトノコト 同感デアッタ 至急報告会ヲ開イテ呉レトノコトニ菅谷氏ト相談ノ上通知出スコト。外ニ三万円ノ株券提出前後ノ模様ヲヨク話シテ居ク。醫者ニヨリ帰場 野口氏電話アリ 昨日上京 今日千葉ニ來テ居ル 後チ出社スルトノコトデアッタガ來ラズ 菅谷ヨリ電話アリ 野口カ宮崎ニ來テ呉レトノコトニ宮崎夕方行ク

吉田社長引受ケズ

▲▼248ページ▲▼ 昭和14(1939)年8月26日(土)

天気 晴

五時起床 六時五分前徳治仁三郎ト羽田ニ行ク 七時蒲田着 大変ナ人デアッタ 送迎バスデ会場ニ行ク 徳治仁三郎帰リノ金ヲ渡シテ居ク 同伴席ト別々ナノデ別レレ定刻ヨリ廿分程遅レル 出発式終ッテ九時十五分ニツボン号現ワル 写真ヲ写シテアルノデ時間間ギワ出サナカッタノカモ知レナイノト一ツハ何ニカ故障ガアッタラシイ 清水君ガ加治木氏ノ自動車ニ同乗サセテ呉レタノデ出発點ニ行クコトガ出來吉田トモ顔ヲ合セタ 右側ニ中尾氏 左側ニ吉田居タ 出発ヲ心行ク迄見送ルコトガ出タノデ此ノ行ノ無事帰還ヲハッキリ確信出來タ。

小野少将ニ會ヒ組合補助金ノ件兎ニ角願書ヲ出シテ呉レトノコトデアッタ

木下君ニ會フ 仕事ハナカッタ。乗池君ニ會フ 新シク注文ガ來タラシイトノコトニ行クコトニス

午後一時福西ニヨリ川口氏会見ノ報告ヲナシ菅谷君ノ立場ノ困難ヲ來シテ居ルコトヲ
予想シ福西ニ其カンワ方ヲ依頼ス

四時清平ニ寄ル 間モナク清平モ帰ル 海軍大變都合ガヨカッタ由。工場ト電話ス

◆◆249ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月27日(日)

天気 晴

定刻出 七時四十分頃野口氏ヨリ電話アリ 今日又休ム由 吉田氏午前中会ッテ呉
レルトノコトニ九時出テ行ク 二階ニ上ゲラレ十一時半迄待ツ 下デニ三人話シ声シテ
居タガ例ノ雑談ラシカッタ。川辺君來テ居ルノデ少シハシヤクニモサワッタノデ帰ルコト
トス 玄關デ一寸挨拶ダケス 御用スミ次第電話カケテ貰フコトヲ頼ンデ醫者ニヨッテ
帰ル ツヒニ電話カヽラズ

佐野氏試験機終ッテ明日帰ルトノコトニ夕方自宅デ佐藤、宇賀、島田(山東不参加
宮崎同)ト会食ス ニッポン出發ノ報デ一時頃迄眠レナカッタ

◆◆250ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月28日(月)

天気 晴

五時起床 朝ノニュースデ四時半ノームニ向ヒ無事快翔中トノコトニ安心ス アト二時
間位ダ 六時半出 七時二十四分奥山ト一所ニナリ船橋發霞ヶ浦海軍々需部ニ行ク
斎藤氏オクレ十時半ヨリ下見 約三十分ニテ終ル 徳治モ來 帰リノバスナク困ツタ處ヘ
丁度競馬ヘ行ツタ帰リノタクシーガ通り合セ土浦ニ出駅前ニテ晝食後明日入札ノ予算
ヲ作り〇時十二分發ニテ帰ル 船橋ヨリ福西ニ電話ス 昨日福西宅デアッタ由 一度
会議前ニ二人デ會フコトトシ連絡ヲ福西ツケルコト ナルベク明日。工場ヘ電話ス 野口
君ニ支拂ノ状態ヲ聞キ外ニ用事ナイトノコトニ奥山ト電話デ大矢手形ノコトタノミ散
髪シテ帰宅 丁度四時半

◆◆251ページ◆◆ 昭和14(1939)年8月29日(火)

天気 晴

定刻出 奈良原氏スデニ來社 八時山縣ノ墓地ニクラブ員一同ト参拝ス
無尾試験ヲ行フ ゴムノ場合ハヨク行ツタノデ晝食後飛行機曳行ニ写ル 二回ヤツタガ
無尾ノ爲メ曳行ノスラストセンターガ下ニアルノデ、アップトナリストール気味デ離ダッ
シタノデ二回目ニ三番バルクヘット破損 中止ス。スラストヲ上ニ上ゲルコトトシテ改造ニ
着手ス

野口君ト懇談 清平ノ件吉田氏中々強行 野口宮崎二人ソロッテ話シタソウダガカン

ワ出来ナカッタトノコト 出資問題ハ梅津氏カラモ聞イテ貰ッタソウダガダメ 見込ナキ由 機械ノ金ナド話シハ聞イタガ出ストハ云ワナイト云ツテ居ル由 会社方針ニツイテハ何ニモ云ワズ現状デヤツテ行カネバダメダト云フダケノ由。清平ニツイテハ考ヘテ居ル由ナレドモ方針ハ話サナイ由

福西宅ニ菅谷君行ッテ居ルトノコトニ四時半行ク 久シ振リニ会フ 声ガカレテ居タ 清平ヲ止メサセルコトハ人新(ママ)ヲ一新スル爲メデ他意ナシトノコト 自分ヨリ何ニガ重大ナル過失カ何ニカアッタカト聞イタガ、ソレハ絶対ニナイトノコト 安心ハシタガ生活問題ニツキ菅谷カラ福西ニ国産ノ諒解ヲ得テ何ントカシタイトノ話デアッタ由 ソレハ不可能ト思フ 菅谷氏例ニヨリ清平止メルコトニヨリ人新(ママ)ヲ一新シ総務中心主義ニスレバ金ハ出ルトノコト 之レハ又信ジ得ラレナイコトデアルガ清平ノコトニツイテハ自分ハサケル 菅谷ト二人玉川デタ食 五十円貸ス

◆▼252ページ◆▼ 昭和14(1939)年8月30日(水)

天気 晴

七時半カラ福西ニ行ク 九時過ぎ着 一日会議ニツキ打合せ 菅谷君ノ動議ニツキ協議 福西ハ兎ニ角反対意見デハアルガ之レモ大勢ニヨツテハアヤシイ 自分カラハ清平ノコトダカラ云エナイカラ福西カラ話シテ貰フコトトシテ帰ル 一時工場出 丁度班長ノ任命ヲ終ツタ處デアッタ 宮崎清平立会ノ上野口氏ヨリ任命ス 終ッテ工務係ノ任命ナス

清平ト菅谷ノ話シラシテ居ル處ヘ野口君來 丁度ヨイノデ一日ノ会議ニツキ話ス。野口宮崎カラ清平ノコト吉田氏ニ話シヨホドツコンデ話シラシタ様ニ一昨日聞イタガソウデナク話シラ仕様ト思ツタガ出来ナカッタトノコトデアッタ。ナンダ。清平明日横須賀行止メ様カト云ツテ居タガ行ツタ方ガヨイト進メテ居ク

タ方醫者ニ行ク 二十五円アッタ 今村ハアト一ヶ月位静養ヲ要スル由

◆▼253ページ◆▼ 昭和14(1939)年8月31日(木)

天気 晴

朝少シ気分悪カッタノデ工場ヲ休ンデ安静ニス 清平ノ将来ニツキ考慮 福西ニハ吹込ンデアルガ來ルカ來ナイカ一寸ウタガワレタノデ奈良原氏ニ來テ貰ヒ同様ノ意見ヲ述べテ居ク 要スル二人ハ今大切ナ時デアリ且ツ根本方針ガ定マラナイデ人ノ問題ダケ先キニスルコトハ不合理ト云フコトニ意見ノ一致ヲ見ル

午後菅谷ヨリ來テ呉レトノ電話アリ四時頃行ク 清平ノ問題役員会ニ懸ケズ處理シテホシイ 吉田氏ヨリ三百円手當トシテ出シタトテ持ッテ居タ ソレハアツケテ居ク 例ノ一本調子デ清平ノ代リ位ダレデモスルトノコトデ問題ニナラズ明朝本人ニ話シスルコト

ニシテ帰ル 夜福西ニ電話スル ハタシテ明日來ラレナイトノコトデアッタ 清平横須賀
行キ 帰リニ沢井サント日本飛行機カラ一所デアッタ由

夜佐藤來 今日宮崎ヨリ工賃ト日数ガ合ワナイコトニツキ大声デシカラレタト泣イテ、
ウツタエテ居タノデナダメテ返ス

三溝君プライマリーニテ墜落死亡ノ通知アリ

◆254ページ◆ 九月

注文取ル事第一主義

通信省、海軍

◆255ページ◆ 昭和14(1939)年9月1日(金)

天気 晴

今日ノ役員会前ノ清平問題解決ノ件清平ノ父來ル迄延期ス決心シタ處安(ママ)外早
ク今朝來タガ話シスル時間ガナイノデ理由ハノバシ八日ノ役員会デ決定スルコトス(ママ)
十時青年學校生徒ニ奈良原氏ヨリ青年學徒ニ給リタル勅詔(ママ)奉讀後一場ノ訓示
アリ 終ッテ階上ニ行ク 国産ヨリ章氏不参 留雄氏中々來ラズ 十一時半開会 川
口氏ヨリ吉田氏会见ノ報告アリ 社長伊藤トスルコト、減資ハ阿克迄実行スルコト、方
針ハ急ガズ漸進主義ヲ取ル事、現状黒字化ヲ第一主義トスルコト等デ次ギニ宮崎ヲ社
長兼任ノ製造部長就任ノ発表アリ 之レニ対シ自分ノ時前ニ交渉ナカッタコトニツキ將
來ヲイマシメ釘ヲサシテ居ク 何人モ一言モナク野口自分ノ過チトシテ陳謝ス

一時半ヨリ上京 局ニ行ク 坂本氏ヨリ今日技術部ノ手ヲ經ナクテモ、ヤレルカラ直接
スグニモ出セルトノコトニ課長ニ会フ ブラジルノコト迄話シ好結果デアッタ ソレハ、挨
拶ス 青木サン會議デ会エナカッタガ乗員課長室デ工政課長、器材課長青木氏等デ
修理注文ノ研究中デアッタ

八時帰宅 兄トハ三日ユツクリ相談スルコトトス

◆256ページ◆ 昭和14(1939)年9月2日(土)

天気 曇晴

朝電気ヲカケニ行ク 八時半会社出 今日アタリ宮崎定刻出テ居ルカト思ツタガ十時
前來社

菅谷君ヨリ清平ノ件電話アリ 安心サレタシト返事シテ居ク 豊田君宮崎ニ電話アリ
千葉ヘ行クトノコトデ來ルカ來ナイカ分ラナイノデ今日職工ヲ一人デモ減ラサイ(ママ)

コト並ニ清平ノ事 モット進ンデ今後ノ経営方針ニツキ野口宮崎ノ意見ヲ聞キ自分ノ考ヘヲ話ソウト思ツタガ月曜日ニ延期スルコトヲ宮崎ニ云ツテ居ク 野口タ方來 銀行ヘ行ツテ來タトノコト清平ヨリ聞ク 機械担保ハ不調 工場財團設置ハ手續キ上不便 吉田氏ノ保証デ信用貸ナラトノコトデアッタ由。佐藤今日モ出社セズ 宇賀ニ事傳デヤル

◆▼257ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月3日(日)

天気 晴

今日ハ家族ノ総動員デ庭ノ掃除ヲナス

十時頃兄來 共ニ布施サンニ行キ兄ノ血脈検査ヲシテ貰フ 兄ヨクフラヽトタオレソウニナルソウダ

三時頃清平來 兄ト三人デ吉田問題ニツキ協議 清平ハ自分秘書トスルコト 給料出ナケレバ私設秘書トスルコトニキメル 宮崎ニハヤラセテ見ルガ技術者ヲ一人デモ減ジナイ事トスルコト 昨日話スツモリガ野口來ラズ 明日話スコトス
タ方小供等船橋ヘ食事ニ行ク

◆▼258ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月4日(月)

天気 曇少雨

八時工場出 奈良原氏來 塩野ト云フ神戸ノ金持チカラ千円小切手貰ツタトノコトニ組合ノ文ト交換 千円ニシテ野口君ヨリ渡ス 九八吉田ノ依頼デ三万円迄手形デ出スコトトナリ吉田ノ諒解ヲ宮崎今夜取りニ行クコトナル

正午後チ宮崎野口ニ工場員ヲ一名モ犠牲者ヲ出サナイコト 清平ノ問題ハ吉田サンノ云フ通りニスルカラト云フコトヲ過己ノ歴史カラ話シクレヽニ云ツテ居ク 宮崎ハ一二名犠牲ヲ出スツモリデ居タトノコトデアッタガヨク分リマシタト諒解ス
清平午後出社

野口宮崎ニ社員職工ヘラサナイコト

◆▼259ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月5日(火)

天気 曇リ

清平同道局ニ行ク 工政課長修理相羽君ト半々ニ出ストノコトデアッタ 相羽ト會フ必要生ズ 加古氏ノ話シデハ大阪ニ二機 米子ニ一機アル由。青木氏會エズ十一時予備航空團ニ行ク 松原大佐不在 挨拶シテ帰ル 工場ヨリスグ帰ル様電話カケタル由 清平協會ト尚午後帰ルトノコトニ松原サン訪問スルコトニシテ自分タクシーデ洲崎ニ廻ル

佐田サンニ挨拶ス 試験ハアト場合(ママ)ダケデ終ル由。協会ノ堀中将井上小野少将、福知氏奈良原氏ナド來テ居タ R三八型ヲ見ル 櫓ニハツケラレナイノデ支柱ニツケル様ニ佐田サント打合セ帰宅 菅谷氏カラ來テ呉レトノコト 二時過ぎ行ク 川口氏ト會ヒタイトノコト 杉ノ家ニテ三人會 一昨日二人吉田氏ニ呼バレ清平ノコトニツキ社長ニ難色アルハ吉田ノ眞意ヲヨク知ラナイカダト思カラツタエテ貰ヒタイトテ左ノ話シアリ

吉田ハアク迄伊藤ヲ援助 立派ナモノニスル意志ニテ基礎ガ固マル迄吉田ノ方針ニ我マシテ貰ヒタイコト 清平ノ問題ハ社長問題ヲ吉田ガ取上ゲナカッタコトニツキ国産側ニ対シ一時(約半歳位)清平ニ第一線カラ引イテ居テ貰ヒタイトノコトデアッタ
三九一頁

(391ページへ続く)

◆▼260ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月6日(水)

天気 晴

朝兄ト清平川口氏訪問 十一時頃工場へ帰テ來タ 川口氏ニハ一切ノ事情家庭ノコトカラ佐渡島ノコト等迄話シタ由 清平トシテハ休暇ニシテ貰ヒタイ旨述べタ由 然ルニ午後船橋ヨリ電話アリ 清平教育召集ノ爲メ九日午前五時半出頭セヨトノコト 期間四日間 戎神社デ行フ由 之レヲコノマヽ召集トナルカモ知レヌトノ立前ニテ話シヲシテ居ク 之レデ工場員ニ対スル不安ヲノゾクコトガ出來タコトハ嬉(ママ)バシイ 今年中ハ航研ノ講ヲ受ケサセルコトニ兄清平トモ決定ス 川口氏ハマツ六ヶ月位デ復職シ得ルトノコトデアッタ由 過日菅谷君ハ二三ヶ月トノコト イヅレニシテモ永クナイコトト見テ居ク 兄ハソレニ対シ不安ヲ持ツテ居ル様デアッタ

萱場氏來 無尾飛行機曳航出來ズ ゴムニテ数回行フ 決(ママ)果昇降舵少シ大キクスルコトナル。夕方船三乗リタイトノコト三田浜ニ案内ス。ソレカラ六時頃川口氏ニ合フベク千葉政友本部ニ行ク 吉田、菅谷二人共居ラズ明日ノコトニシテ帰ル。

福西ノ夫人マダ待ツテ居ラレタ 電話ノコトト、キンノ嫁入ノコト カオルガ男ヲツクツテ困ツテ居ルトノコトデアッタ

今日ハ非常ニツカレタ

◆▼261ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月7日(木)

天気 晴

朝川口氏ニ電話スル 差支アリアトカラ行クトノコトデアッタ 辞表ハ持ツテ行ツテ呉レトノコト 菅谷氏カラモ話シアリ船橋ニ行ク 清平スグ書イタノデ持ツテ菅谷氏宅ニ行ク 共ニ吉田氏ニ行クツモリノ處待ツテ居テ呉レトノコトニ約一時間待ツ 吉田氏嬉(マ

マシデ居タトノコト 辞表ハ明日川口氏ハ自分ニ渡ス 明日八十時迄ハ自宅ニ居ル由ス
グ行ツテ差支ナイトノコトデアッタ 粗品トシテ吉田氏ノ名デ清平ニ三百円出シ召集
トナレバ餞別代ニ(マ)取ツテ居イテ貰ヒタイトノコトデ兎三角預ルコトトス

上京一時ノ約束十二時半行ク 相羽二時十五分來 局ノ修理ノ件君ノ方ハ修理ハヤ
ラナイトノコトデアッタガドウカト聞クト予想通りヤハリ値ガヨケレバヤルトノコト ソレ
ナラ工政課長ニ其旨返事シテ呉レト頼ンデ帰ル。大藪ノ件ニツキ永田課長ニ會ツテ頼ン
デ居ク

三時半清平宅ニ歸リ夕食後六時半ヨリ帰ル 清平ニ五十円旅費ト今夜ノ寢台券買ッ
テヤル。徳治ト仁三郎見送りニヤル

◆◆262ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月8日(金)

天気 晴

風ナク暑イロデアッタ

川口氏ニ電話シ九時京成駅ニ行ク 時刻少シ遅レタノデ居ラレナカッタノデ行ク 間モ
ナク川口氏來 四五十分待タサレル 吉田氏ニ會フ 先搬來御心配ヲカケタ札ヲ述ベル
川口氏ヨリモ円満解決ノ報告シタノミデ自動車デ送ラレ会社ニ出ル。各役員スデニ來
社 野口氏ヨリ銀行ダメニナッタトノ報告アリ。ソレヲ知ラナカッタノデ、先刻歸リニ吉
田氏ニ銀行へ担保ノ件話シタラ昨日ダメニナッタ銀行カラコトワラレタトノコトヲ云ッ
テ居タ。野口モ宮崎吉田ヘヤハリ、キンミツナ連絡ガ取レテ居ル
会社報告及川口氏ヨリ清平ノ問題報告 自分ヨリ減資問題ニツキ提案 來月八日迄
保留トナル

通信省問題ニツキ国産主トシテ留雄氏カラ確実ナモノナラ役員会ニ上旨シテ貰ヒタイ
トノコトデアッタガ、今日トシナケレバダメダトハネテ居ク

四時半終ツテ全員ニ宮崎ノ製造部長就任 野口ノ營業ヲ行フコト 命令ハ総務ヨリスベ
テヲ發令シテ直接社長ニ來ナイコトヲ申渡ス 宮崎野口ヨリ就任ノ挨拶アリ
兄ト夕食ヲ共ニス

◆◆263ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月9日(土)

天気 晴タ立

定刻工場出 八時半ヨリ上京 局二午前中ヲ費ヒヤス 青木氏ハスグハ出ナイ様ナコト
ヲ云ツテ居タ 理由ハ人的關係ヤ検査、手續キ等ニツイテデアッタ

工政課長不在 坂本氏會フ。器材課長ニ榊原サンノ報告ヲ一所ニ聞ク 當リ 格納庫
ノ天井ヨリ落シタ時ニ多少ノ欠カンヲ生シタラシイトノコトデアッタ。切レタノハヤハリ上
ノ線デアッタ由。美津濃ノ梅津君ニ會フ。井上長ニモ會フ 多田サン來ルトノコトニ會

フツモリデ待ツ内帰ッタラシカッタ 午後東日ニヨリ、洲崎ニ行ク 飯沼二会ヒ同氏ノ模様ヲ聞ク 當方ノコトハ自動車ノ中デアッタノデ云ワナカッタ 其内ユックリ會フコトトス D1ノ同乗飛行会ヲ見ル 今日ハ風強ク二回ニテヤメル
三越ニヨリ小鳥ト盆栽ヲ見テ帰ル
夕方兄ト醫者ニ行ク 採血ヲシテ貰フ

◆◆264ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月10日(日)

天気 晴夕立

八時出 十時十分多田サン宅ニツク。井上居リ約五六分デ相羽來 多田氏桜井氏ヨリ三人共同セシメレバ仕事出ストノコトデアッタ由 多田氏ハソレニ対シ多田氏ハ桜井氏個人ノ意見デハイケナイカラ長官監理部長三人ノ意見ヲマテ貰ヒタイト云ツテ居イタ由 之レニヨリ近日再ビ桜井氏ニ会フニツキ、ソレ迄ニ諸君ノ意見ヲ聞キタイトノコトニ誰レモ異議ナク讃(マ)成 新会社創立案ニツキ考慮スルコト 井上十五日頃上京ノ由 相羽ト後チ駅ニテ個人経営ヲ續ケラレルダケ續ケルコト 其上買収ニ應ズルモヨシトノコトデアッタ

三時半船橋着 兄ニ話シニュースヲ聞イテ帰ル

川口氏昨日交渉ノ件十一時銀行ヨリ返事アル由

◆◆265ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月11日(月)

天気 晴

定刻出 終日在所 八時半野口出 十時前宮崎出 野口君斎藤ノ手形氣ニシテ居タ宮崎吉田ニ行ツタ由 氣(マ)嫌ガ悪カッタト云フダケデ物ニナラズ。菅谷へ午後電話シタガ不在 九八本日返事アル筈 不明

白戸ヨリ小川來 注文アリ 之レガ鉄板六百円ばかり買エズ

今日二人ノ今後ノ意見ヲ徹シテ見ルツモリデアッタガ二人共現在デ頭ガ一杯ラシイ。ドウスルツモリカ知ラ 何ントカ導イテ行カネバナルマイガ吉田ガ現在ノ様デハドウニモナルマイ

夜局試作ノプライマリー製作ニツキ構想ヲコラス

◆◆266ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月12日(火)

天気 曇晴

二番デ菅谷氏訪問 不在 一寸待ツ 九八ノ方今日小島氏ヲ中心ニ会见スルコトニナツテ居ルトノコトニ引返ス。醫者ニヨリ注射ヲ受ケル バスデ宮崎ト同乗ス 丁度十時新

出発ニ際シダラシノナイ出勤振りデアル。此點野口ノ方ガムシロ張切ツテ居ル様ダ。九
八ダメノ場合吉田ノ見込ヲ二人ニ聞ク。トデモダメダロウトノコトデアッタ。今大分外
ノ事ニ金ヲ出シテ居ルラシク想(ママ)當無理ナ仕事モシテ居ルラシイ話シデアッタ。野口
親類ニ葬式ガアルニテ十一時半帰ル。自分二三人クタブレタト思ツタラヤハリ注射後氣
分ガ悪クナツテ來タノデ帰宅。奈良原サンニプライマリー見テ貰フ。後チ少シ眠リプラ
イマリー計畫

夕方根岸來 一時間程デ帰ル

夜九時各主任ト宇賀來。改革後ドウモ面白ク働ケナイカラ止メタイトノコト。予期シ
タコトデハアルガ、イロ、計畫ヲ述べ止メテ居ク。考ヘ直スコトニシテ一同帰ル。十一時

◆267ページ◆昭和14(1939)年9月13日(水)

天気 晴

定刻出 川口氏ニ電話スル。銀行今日モ行クガ六ツ間敷イトノコトデアッタ。菅谷ニ電
話スル。野口、宮崎ヲ十時ニ菅谷宅迄寄コシテ呉レトノコトデアッタ。九時野口來。二
階ニ呼ビ右ヲ話シ職工(機械工)入レルノニ金ヲ貸シテヤルコト。職權ヲ改メタニツイテ
新方針ヲ一同ニ早ク話シテ安心ヲサセルコトヲ云ツテ居ク。宮崎ニ話シテアルトノ菅谷
ノ話シデアッタガ十時頃來タノデ、スグ二人三千葉ヘヤル。兵器廠ノ見積リ提出。受注
確實ナリトノコトニ宇賀カラ野口君ニ知ラサセル。金策ノ上ニ役立ツモノト思テ。奈良
原氏來場。讀賣昨日寄ツテ來タ由。Cニキダトノコト

夜宇賀一人來。更ニ川口氏ニ行ツテ見タイコト、宮崎ガ社長辭任ノコトヲ重役カラ強
要サレタコト、或ハ弍万円九八カラ金融。コレデ黒字化スルコトナドツマラスコトヲ話シテ
居タ。社長問題ニツイテ一同ハ全辭職ヲナシ社長ノ今日ノ俸給位皆デ働イテヤシナウ
トマデ申合セタノダトノコト。心持ハ感謝スルガ其心持ガアルナラ今一度社長ニ全員デ
マセロセト云フテ居ク

◆268ページ◆昭和14(1939)年9月14日(木)

天気 晴

八時ヨリ羽田ニ直行。氣分ハヨカッタ。東日ニ計器ヲ持參。朝日ニ寄り明日検査受ケラ
レルコトヲ話シ検査ヲ依頼シ日立工場ニ有坂氏訪問。仕事ノ事ヲ御願ヒス。考慮シテ居
ルトノコトニ時々木村氏ヲ訪問セシメルコトノ諒解ヲ得。小栗來。ヤハリ板金仕事ヲヤ
ラセテ貰ヒタイトカノコトデアッタ。一所ニ出テ帰途ニツク。自分ハ新橋下車晝食後協
会ニ行キ井上氏ニ會ヒ縣庁取マトメカ協会発注力ニツキ意見ノ交換ヲナス。井上氏自
身發注說デアッタ。尚会ノ爲メ航空局ニ迫ツタガ甲斐サンモ榊原サンモ居ラズ。乗員課
ト器材課ニ顔ヲ出シ寺田サンニモ會ヒ高度機其他ニツキ依頼シテ帰ル

船橋ヨリ電話スル 野口今日身体悪イトテ來ラヌ由 宮崎ハキテ居タガ昨日ノ結果不明 不安ノマヽ帰ル

◆▼269ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月15日(金)

天気 晴

在所 定刻出 Cニ改造今日検査ト云フニ昨夜十二時迄夜業シタ筈ニマダヤルコトガ沢山残ツテ居ル上ニ補助翼ガ非常ニ重イ コノマヽデハ到底交換出來ソウモナイノデ操縦桿ヲ從來ノ通りニ直サセ漸ク間ニ合フ

九時辻本氏來 朝日ヨリ池田君來 一時ヨリ飛行 ゴムニテ一回 肥田木千米突ヨリ五十分 九米余ノ風アリ崖バイ飛行二十八分。最后ニ池田君種々高等飛行ヲ行ヒ成績予期以上

奈良原氏來 昨日重役級ニヨク話シタ由

十時頃吉田橋本辨ゴスト云フノヲ連レテ來 三時頃迄居タ 海面埋立ニツキ何ニカ考ヘテ居ルラシイ

朝鮮へハ野口同行スル由 野口四時頃銀行へ行ク

◆▼270ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月16日(土)

天気 晴

朝川口氏へ行ク 過日吉田ニマダ会ツテ居ナイ由 今日會フトノコト 自分ハ兎ニ角野口宮崎ガヤリニクイダロウカラ最(ママ)非吉田氏ヲ説イテ貰フコトヲ依頼ス 川口氏ハアク迄社長ノ責任ヲ云々シテ居タ 尚吉田氏ガ三百万円迄ヤル様ナ口振りデアルトノコトデアツタガ自分ハソレ迄ハ期待シテ居ナイガ、ソレニ達スル迄二三十万円ハ必ず出スコトヲ信ジテ計画ヲ進メテ來タコトヲツヨク話シテ居ク 現在ニハ再ビ計画ハ白紙ニカエサナケレバナラナイコトモ告ゲ居ク 九時出社 野口終日銀行交渉ニ終ル。宮崎十時半出 川口氏ニトラックノ件タノム爲メクラブへ帰ル 行違ヒニ菅谷君來 吉田氏ヲ説キ六ヶ月間据居キデ三万円出スコトニシテ來タトノコト ソレニツキ野口宮崎ニウマク話サセル様來タトノコト 二人共クラブニ居ナイ由。後チ野口ヨリ電話アリ 右話シテ居ク 明後日ヨリ兵器局ノ引取りトラック字賀引受ケル

◆▼271ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月17日(日)

天気 晴

終日在宅 徳ニ青木ト多摩川滑空デイスプレーヲ見ニ行ク 午後プライマリー改造ニカヽッタガヨイ案ガ出ナカッタ

晝頃兄來 牛後清平同行今朝帰ッテ來タ由
夕方來 明日研究所へ行クコト

夕食ヲ初メル頃太田ト布施皆ノ代表トシテ來 將來ニ対スル不安ナドニツキ申出アリ
社員規定ハ早速ツクラセルコトヲ約ス 他ハ皆ガ此際一致協力 マヅ会社ヲヨクスルコト
ニ邁進スル様切望シ尚御互ニ強ク生キルコト 会社ヲヨクスルコト コノニツヲ特ニ希望シ
テ諒承 帰ル

夜山口君來 突然デアッタ 昨年來ノ話シヲ聞ク。フオカーヲ空輸シテ帰ルノダトノコ
ト 泊ル

◆▼272ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月18日(月)

天気 晴

今日吉田九八銀行へ行ク筈 宮崎朝呼バレ銀行へ行クガ出來ナケレバソレ迄ダカラト
ワザ、話シガアッタ由 野口君モ昨日吉田氏ヨリ同様ノコトモ申渡サレタル由 之レデ
ハ初メカラ作ルツモリニ行クノデハナイラシイ 菅谷ニ電話シタガ不在。吉田氏ハ晝頃銀
行へ行ッタトノコト 万止ムヲ得ズ結果ヲ待ツ

夕方菅谷來 吉田氏ト会ッテ來タ 銀行へハマダ行ッテ居ナイ 明日行ク由 ソレニツキ
野口、宮崎ニ六ヶ月後ニ返済スル様ヨク話シテ居ク必要アリトテ其打合せニ來タ由。吉
田氏ノ腹ヲ話シ明日ハ菅谷君ニ銀行へ同道スル様依頼ス

◆▼273ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月19日(火)

天気 曇リ

朝奥山、鈴木自宅へ來 奥山ニ日立ノ仕事ノコトタノム 鈴木年一ハイデ止メルカモ知レ
ヌトノコト 其後ノ問題ニツキ相談ス

午前中組合定款ノ變更事項書キ出シ正午醫者ニ行ク 腹ハドウシテモ手術ヲ要ルトノ
コト

午後割合ニ氣持チヨカッタノデプライマリー改造ヲ書ク 三時頃清平ト兄自宅へ行ク
トノコトニ三時半帰宅シテ待ツ。辞表ヲ返シテ貰フコト 三ヶ月後腹(ママ)活ノコト等デ
アッタガ、万事三ヶ月待ッテ見ルコトトス 竹中來 夕食ヲ共ニス
食後一時間位デ又腹痛ヲ起ス

◆▼274ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月20日(水)

天気 雨

菅谷ニ行ク 昨日銀行ハ行カナカタ由 吉田氏ハ行ッタロウトノコト 野口朝鮮行キハ

トメテ貰フコトヲ云ツテ居ク

福西ニ行ク 不在 航空局ニ行キ器材課長乗員課長ニ修理器体ダケデモ送ツテ貰フコトヲ依頼シテ居ク グライダー器材今日限リトノコトニ工場へ電話シ宮崎ニ命ズ 野口千葉ノ九八へ行ツテ居ル由 井上長ニ會フ 一所ニ平塚見学ニ行ク 誰レモ居ラズ 若林君ニ案内シテ貰ツテ工場ヲ見ル 患者輸送機ガ四五台出來ツ、アッタ。大変ヨイト思ツタ 千島ヨリハルカニヨイ 二時五十分ニテ帰ル 往復車中井上ト合同問題ニツキ話シ合フ 安藤モ百万円位出ス人ヲ照(ママ)介スルトノコトデアッタ

▲▼275ページ▲▼ 昭和14(1939)年9月21日(木)

天気 晴

今日ハ暑クナッタ 定刻出

午後上京 器材課長ニ會ヒ立川飛行機へ當方カラ挨拶シタ方ガヨイカ伺ヒラ立テルヨカロウトノコトデアッタ C六試験場へ送ルコトハ知ラナカッタ 調ベルトノコトデアッタ。飯沼井上ニ會フ 井上ヨリ東京航空機器ノ話シヲ聞ク 一三万円バカリ余リガアリ重役ハ素人バカリダカラ或ハ出來ルカモ知レストノコト 工藤ハ佛国ニ上陸出來ズ帰ツテ來ル由 飯沼ト東日ニ行キ合同ノ話シヲナス 廿五日過ギ津田沼へ來ル由 帰リニ清平ニヨル

▲▼276ページ▲▼ 昭和14(1939)年9月22日(金)

天気 曇リ雨

颱風近ツク 降ツタリヤンダリ

今日奈良原氏千葉へ詔語ヲ貰ヒニ行ツテ貰フ

午後野口氏ト柏ニ行ク 青木、佐田、柳原各氏ニ會フ 福前生田、松下、小田揃ツテ指導シテ居タ 機材モゲ式一型ヲ使ツテ居タ 五時迄約二時間居ル。清平宅ニヨリ夕食ヲ兄ヤ清平ト共ニス

今朝野口氏ヨリ昨日ノ九八銀行ノ報告ヲ聞ク 満州及兵器廠ヲ担保ニ貳万円約手九十円一銭七分デ發行 吉田裏書キ外二五千元迄出ル由

▲▼277ページ▲▼ 昭和14(1939)年9月23日(土)

天気 雨

颱風ハ無事太平洋ヲ通過ス

終日在所 午後野口宮崎二人ヲ呼ンデ金融ニ対スル勞ヲ謝シ今後ノ方針ヲ聞ク 野口ヨリ經過ノ話シアリ 兵器廠問題ハ目下ノ工程ガ出來上ツテ順序ヲ定マルコト 整備十

年式着手シタイトノコトクラブヨリノ注文トスルコトニ決定ス グライダーハ目下出来タモノヲ賣ルコトニツトメ兵器廠ノ合間ニアトハ造ルコトトス 菅谷ニ金工部ノ件誰レニモ成案ナキガ如シ 日本車輛ノ話シシテ居ク

野口氏ヨリ仕事トシテハ當社ハヤハリ飛行機ヲ主体トスルコトニツキ航空局デモ修理ヲ貰ヘル様ニトノコトデアッタ。之レハ大ニ我意ヲ得タルモノデアッタ 航空局ノ経過ヲ話シテ居ク 試作ニツイテハクラブへ寄附ノ型式ヲ取ルコトニ努力中 設計ハ十月一杯カハルト云フテ居ク

大蔵ヨリ電話アリ 十年式ヲ呉レルカラB二一台貰ヒタイトノコト

◆▼278ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月24日(日)

天気 晴後雨

朝奥山氏訪問 大矢廿八日ニ何ニカ取引ガ終ルノデ今月ハ片付ラレルトノコトデアッタ 職人親方マダ寢テ居ルノデ仕事ワカラヌ由

工場出 十一時帰宅 徳治仁三郎ヲ連レテ墓参ニ行ク イツモト反対ニ船橋ヨリ一時二十分発ノ柏行キデ六實ヘ行キソレカラ歩ク予定ニス 自動車故障ヨリ鎌ヶ谷ニテ下車飛行場迄丁度一時間カハル 同事ム所デ道ヲ聞キ飛行場ヲ縦断シテ大体予定ノコースヲ墓地ニ出ル 之レガ又丁度一時間 然シ大分栗ノ木ヲヌイタリ道草ヲ喰ツタ。七時ノバスニテ帰宅。家内ハ船橋ヘ行キ泊ル 節子御産ノ爲メ

◆▼279ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月25日(月)

天気 晴

定刻過ぎ出 九時ノバスニテ上京 野口丁度表デ会フ 局ニ行キゴム紐ノ件 柳原氏頭カタク融通キカズ 更ニ満州ヘ交渉ヲ要スルコトナル 大蔵ニ会フ バリオメーター清水ヘ事傳ル

日立大森工場ニ行キ乗池君ト會ヒ同氏ノ照(ママ)介デ細屋課長並ニ五味係長ニ会フ 五味氏非常ニ好意ヲ以テ話シテ呉レタ。工務課ノ人ニ會フコトヲ忘レテ帰途思ヒ出ス。二時大蔵ト会见 十年式トBニ交換ノ件取キメル 之レニ希望ノ九二発動機付ケテ貰フコト 補助金貰フコトニテキマル。清平宅ニヨル 今検査官ヘ寄ツタ由

◆▼280ページ◆▼ 昭和14(1939)年9月26日(火)

天気 晴

野口午後來 二時間程デ千葉ヘ行ク 宮崎十時頃來

夕方千葉クラブヘ野口君ニ電話シ合同問題ニツキ吉田氏ノ意見ヲ聞イテ貰フコトヲ依

頼ス

正午醫者へ行ク

清平宅午後二時十分男子出生 八百目アツタ由 大分苦シダトノコト 目出度々、

▲▼281ページ▲▼ 昭和14(1939)年9月27日(水)

天気 晴

徳治ヲ協会へ送金方ニツキ使ニヤル 今朝振替デ送ッタトノコトデアッタ

十時ヨリ千葉行キ 千葉県報国産業会聯盟結成式ニ参列 十二時終リ白戸ニ寄り木材買入レニツキ協力ヲタノンデ帰ル

奈良原氏來テ居ラレC五補助金ノ件タノム 大毎十年式トB二交換ノ件モ話ス

兄明日帰ルトノコトニ船橋へ行キ夕食ヲ共ニス 児供初メテ見ル 仲々ヨイ児ダ

角夫妻久次郎ト月ヲ見ナガラ電車デ帰ル 少シボンヤリシテ居タ

▲▼282ページ▲▼ 昭和14(1939)年9月28日(木)

天気 曇後晴

定刻出 終日在所 奈良原氏來 午後上京セラル 八時頃TC清水來 夕方残業デ荷造リ終ル

本日宮崎マイゼノ願書ニ捺印ヲコバミ野口ノ希望ハ役員会ニカケタイトノコト。ソレデハ本所ノ使命ヲ如何ニスルカガ先決問題トナル 專賣ヲ進メル外アルマイトC2ノテスト飛行ヲ見ル 右ニツキ宮崎置手紙シテ帰ラントスルノデ呼止メマイゼノ使命ヲ話シ役員会ニハスデニ報告済ナルコトヲ告ゲル 明日野口ト相談シテ來ルトノコト。兵器廠ノ仕事デ手一杯ニ考ヘテ外ノコトガ出來ナイ様デハ何シモナラナイ

清平ノ給料自分ノ内ヨリ作ル 安岡ノ方十円ダケ渡し明後日迄三家賃其他ノ必要ダケヤルコトトス

兄九時ニテ帰坂ス 三百円借りル

▲▼283ページ▲▼ 昭和14(1939)年9月29日(金)

天気 雨後晴

八時ヨリ清平宅ニ行キ同道シテ先ヅ福西ニ行キ千円明日持参出來ナケレバ三日ニナル旨諒解ヲ得。吉田氏カラ今度ハ金出ナカッタコト 銀行カラ会社へ 但シ吉田氏裏書デ二万円ダケ出タコトヲ話ス。之レガナクナッタ時將來ノ問題ニツキ福西氏ノ考慮ヲウナガシテ居ク。徳沖時間ノ都合デ監督官へ行ク 誰レモ居ラズ名刺ヲ居イテ横須賀ニ行ク 田中技師ニ会フ 芳シカラヌ話シバカリデアッタ 廠長部長皆不在 総務会計ニ立

寄り横浜ニ出沢井サンニ会フ 丁度四時半 四五十分話シテ帰ル 横浜デ支那料理ノ
夕食ヲ取ル 九時帰ル 福島縣ノ橋本善喜來テ居タ。千葉縣デ協会ノ金今日取レタ
由

◆◆284ページ◆◆ 昭和14(1939)年9月30日(土)

天気 晴

早朝菅谷氏ヨリ電話アリ 工場へ來ルトノコト 定刻出 九時頃宮崎ト一所ニ來 又何
ニカ新提案カト思ツタガ、ソウデナク金ヲ二百円貸シテ貰ヒタイトノコト 福西へ返ス文
ノ内ヨリ貳百五十円融通ス 午後福西へ行き取アエズ全部ヲ見セ新タニ五百円ヲ借り
受ケ帰途奈良原サンへ五十円居イテ來ル。艶子ノ主人艶子ト一所ニ來テ居タ 艶子ノ
縁談デアッタ 万事本人本位ノコトニマカセル
クラブノ立替金ヲ計算スルト七百円アッタノデ内百円カニ二百円返スコト アト振替ノコ
トニ工場へ交渉シタガマトマラズ全部入金トシ福西ヨリ借リル

◆◆285ページ◆◆ 十月

逋信省 海軍方面努力ノコト

◆◆286ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月1日(日)

天気 晴

近來ナイ上天気 人出ハ多カッタ

五時半起床 恵美子ヲ連レテ成田山参拝 帰リニ川口氏へ寄ツタガ不在 帰宅朝食
十時半ヨリ清平へ行き十二時船橋発 三越デ檳柏ヲ求メ多田サン訪問 丁度二時ツ
ク 先客アリ 先日迄瓦斯電デ組立エヲシテ居タ人トノコト 内部ノ様子ヲ聞ク 二
時間半懇談 逋信省問題マダキマラヌ由 一週間以内ニ否ヤ聞クコトニナッテ居ルトノ
コト 井上問題モマダキマラヌ由 海軍問題結果沢井、落合栗谷各氏ニ相談シタガヨイ
トノコト 又自分カラモ話シデ居クトノコトデアッタ マトマッタ部品製作ガ有効ナルコ
トヲ聞ク 同感デアッタ

秋風や肌さわやかに、もずの声

◆◆287ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月2日(月)

天気 晴

今日モ心ヨイ秋晴 定刻出 終日会社

作業工程再檢サセル 讀賣ニ台共間ニ合セルコトナル

自分ハプライマリー改造ト一三型機ノ作業ヲ見指導ス 金工部仕事ナクナッタトコト 島田北島サンエヤル 亜細亜飯沼明日ニモ來ル様電話ス

岡田照(ママ)介デ仕事持ッテ來ルト云フ男午後來 宮崎会见 夕食ニ船橋へ連レテ行ク。結局ブローカーラシイ。仕事ニ來ルカモ知レヌガ御馳走スルコトハナカッタ

▲▼288ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月3日(火)

天気 晴

野口君終日來場 今月ノ收支ニツキ宮崎ニヨリ説明サセ材料購入ニツキ打合せヲシテ居カセル カゼインナク青木ニ取りニヤル 日立ノ仕事ニ対スルカッターナク山東買ヒニ行ク ダラシノナイコトダ

▲▼289ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月4日(水)

天気 曇リ

八時ヨリ上京 局ニ行キ器材課長ニ會フ 榊原氏ト会谈 マイゼ圖面ホシヤク遅レルナラ其マ、貰ッテモヨイト申出ル 焼クノハ協会デヤカセル由。試作ハアカシヤモヤルコトニナッタ由 五社全部トキマル

修理ノ検査ノ件ナルベク局ノ検査デスマシテ貰フコトニ依頼ス 陸軍ノ検査ヲ受ケルコトニナルト其爲メニ又延ビタリ中止ニナルオソレガアル爲メ

クリ、ノ修理タノシデ見ル 立川デヤラセルコトニナッテ居ルトノコト 万一立川デヤラナイ場合ハ最(ママ)非タノシデ居ク。日本航空坂東ヲ尋ネル 仕事アリソウナ話シデ早ク戸川君ニ會ッテ呉レルコトニ明日清平ヲヤルコトトス。東日ニヨリ三時東京駅へ吉田氏朝鮮行ヲ見送りニ行ク 誰レモ見當ラナカッタ

▲▼290ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月5日(木)

天気 曇リ

七時十分工場出 奈良原氏見エズ午後來 ヨッテ夕方終業後援護ノ詔語奉讀式ヲ行フ

午後辻本外一名來 一三監功(ママ)、十年式B二、C五検査終ル

夜母ノ三十三年ニナル命日ニ當ルノデ丁度大阪ノツル姉ガ來テ居タノデ下ノキミ夫妻モ参加シ観音ノ御詠歌ヲ上ゲル 思出話シニフケル

◆▼291ページ◆▼ 昭和14(1939)年10月6日(金)

天気 晴

定刻工場出 散髪後上京 局ニ行ク 一三監(ママ)攻ノ標式ヲ貰フ 加古氏ノ話シデハ航本器材部へ修理書類出シタ由 器材課長ヨリ立川デナク東京飛行機デ今ハ直接ヤッテ居ルトノコトデアッタ

榊原サンニ會フ マイゼ圖面直接協会カラ貰ッテ呉レトノコトデアッタ。工政課へ出ス組合定款間ニ合ワズ原稿ヲ持参 工政課デ打ッテ呉レルトノコトデアッタ 協会ニ行ク 加治木氏ト話シ合フ 結局協会ハ局ガ協会ニ相談ナクマイゼ試作ヲ命ジタコトニ反感ヲ持ッテ居ルコトガ明ラカトナッタ

久シ振リデ国産ニヨル 留雄氏ト岡田氏居タ。之レ以上吉田氏カラ金ガ出ナイコトニツイテノ十言今後ハ岡田カラ話ストノコトデアッタ ソレハ營業製作全部ガ吉田氏ノ手デヤッテ居ルノダカラトノコトデアッタ。アタラズサワラズニ話シテ居ク

工藤君ニヨリ徳治ノ写真修業ニツキ意見ヲ聞ク 六時清平ニヨリ八時帰ル

◆▼292ページ◆▼ 昭和14(1939)年10月7日(土)

天気 晴

モヤ深ク練習初メタガ止サセル。

宮崎八時前ニ來場 珍ラシイ事デアッタ 大分仕事ニ熱ガ出テ來タラシイ 十時ヨリ日立ニ乗池ヲ訪問 羽田へ行ッタトノコトニ羽田へ行ク 今大森へ帰ッタトノコト 赤野君ニ會ヒ調べテ貰フ 部品細屋ノ方へ廻ッテ居ルトノコト 大森ニ行キ乗池ニ會フ之レヨリ先キ島田細屋へ行ッテスデニ帰ッタ由 仕事ハ板金ノ方ノ此ト答ヤッタモノデアッタ 月曜日迄ニ見積リシテ呉レトノコトデアッタ。工務ノ西村、營業ノ中村君ニ會フ 細屋ニ手島、五味、三宅、八幡ニ會フ 四時出テ清平ニヨリ帰宅ス 日立ノ方ハヨクワカッタ 仕事ハトレル

◆▼293ページ◆▼ 昭和14(1939)年10月8日(日)

天気 曇晴

八時工場出 宮崎來テ居タ 十時頃要件ヲ済マセ帰宅 船橋市ヲ見ニ行クツモリヲヤメル

鈴木伊四郎十二時迄居テ雑談 結局ハ將來使ッテ貰ヒタイ意味デアッタ

午後日當ノヨイ方へ移植床ヲツクル

後チ仁三郎ノ自轉車塗装ヲナス

夜清平來 工場へ行ッテ來タ由 明日監督官へ一所二行クコトトス
角上京 萱場ノ模型用材伊勢庄デ購入 三十円位デ上ツタノデ予定ヨリ二十円安ク
ツク 今日ノ見積リ高スギル様ナノデ再檢ヲ命ズ

◆▼294ページ◆▼ 昭和14(1939)年10月9日(月)

天氣 曇リ

六時半出 清平ニヨリ同道シテ八時十分海軍監督官ニ行ク 林監督官ニ第一二面会
日立日本飛行機下受ノ願書ヲ認メテ貰フ 栗屋、保倉両氏ニモ諒解ヲ得 工場へ直接
出セトノコトデアッタ スグ帰宅 肥田木來 明日試験場へ行クコト打合セヲナシ清平
同道サセルコトトス 昭和熱處理カラ技師長常務取締ノ小林氏來 実ニ熱心ナノニ驚
ク 我レ、ニモ之レダケノ熱心サガナケレバダメダ
兵器廠カラ圖面ヲ取りニコイトノコトデアッタノガ四日前ノガマダ取りニ行カナイトノコ
ト 今日行ツタ

奈良原氏來 明日木更津ニ同道スルコトトス

◆▼295ページ◆▼ 昭和14(1939)年10月10日(火)

天氣 曇リ

朝風呂ヲ立テテ呉レタノデ入浴 八時過ギ工場出 九時半ヨリ出カケ福西へ進呈スベ
キ軸ノ表装ヲ依頼ス 菅谷ニ立寄ル 一所ニ木更津へ行ク 學校へ同行シテヤレバヨカッ
タガ用事ガアルトノコトニ会場へ來ル様云ツテ居イタガツヒニ來ナカッタ 四時マッタク終
了(セコンダリー命名式) 後チ佐久間ニテ夕食ノ馳走ニナル。奈良原氏ヨリ市川東練
兵場ニテグライダー訓練大會開催ノ件松木氏ニ話シ松木氏ヨリ皆ハカル 全部讚(マ
ご成ス 九時帰宅

大坂福前ヨリ貳百五十円組合ノ金送ツテ來タ

◆▼296ページ◆▼ 昭和14(1939)年10月11日(水)

天氣 曇少晴

定刻出 宮崎今日ハ早く出デ居タ

日立ノ見積リ不備ノ點アリ提出ヲ見合セ下命 額ダケ持参ス 羽田ニ有坂部長ニ會ヒ
本社へ行クトノコトニ同道シテ本社ニ行ク 車中仕事ノコト 銑接工檢定ノコトヲ話ス
檢定ハ直接受ケル様ニシタラトノコトデアッタ 余リ好意ハ感ジラレナカッタ。本社ニテ
西村、乗池、滝沢、氏ニ會フ 願書ハ細屋へ出スモノトノコトニ手島氏ニ會フ。今日ヨリ機
体ノ発注係八幡氏ハ羽田ニ勤務スルコトニナツタ由 石渡監督官ニ會フコトヲ滝沢氏ヨ

リ教ヘラレ航空局ニ行ク 工政課長ヨリ組合ニツキ質問アリ 結局局トシテハ普通組合ガナク社團法人ノ様ナモノニシタラドウカ 局協会トシテ援助スル上ハ大愛好都合トノコトデアッタノデ其レガ局協会ノ御意見ナレバ具体的ニ命令シテ貰ヒタイ 自分等ニ於テモ研究スルコトトス

修理ノ方合同問題トヒツカ、リニナツテ居ルトノコトニ器材課長ニ任 桜井部長帰任ヲ(十九日)待ツテ早速キメテ貰フコトトス。佐藤進少将立松大佐ニ挨拶ス

▲▼297ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月12日(木)

天気 雨

終日降ル 颱風ハ今夜房総沖通過

十一時半一同揃ヒ役員会 仕事ニ対スル希望多クアリタルノミデ予期シタクラブノ問題モ出ナカッタ

三時半ヨリ醫者ニ行ク

▲▼298ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月13日(金)

天気 晴

久シ振リノ快晴 十時ヨリ羽田ノ日立へ見積書持参 係八幡君不在 木村氏会議中 見積書ヲ預ケ丁度乗池君居タノデ會フ 石渡監督官ニ話シテ呉レタソウダ。明日午後行クコトニ打合セテ飛行協会ニヨル 縄野マダ來ナイトノコトデ金受取ル。大日本航空 永田人事課長訪問 大蔵ト島田ノコト話ス 東日ニ電話ス 福知氏來テ居タ Bニ發送ノコト 歡迎飛行ノコト 迫間ト奈良原氏行ッタ由 アトカラ返事スルトノコト

四時清平宅ニヨリ明日日立へ清平行ク様ニシ四時半電車デ谷津ヲ乗り越シ津田沼下車 仁三郎ト一所ニナリ帰ル 今日晝食ニザルソバニ杯タベタ 近來初メテデアッタガ少々満腹シタガ何ントモナカッタ

▲▼299ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月14日(土)

天気 晴

終日在所 日立羽田ヨリ圖面返送サレタシト云ツテ來タ 是デコノマニシテハ全然今迄ノ努力ガ無駄ニナル恐レガアル

奈良原田母神両氏來 十一月中旬市川東練兵場デ行フベキ千葉県グライダー訓練大會ノ予算計畫ヲ作製ス

宮崎ヨリ小切手出シ過ギ銀行不足ニナツテ月曜日百円乃至百五十円ナイト不渡リヲ出スカモ知レヌトノコト 出シ過ギルナド不注意デアル旨ヲ指適(ママ)シテ居ク 右ト廿

八日ノ支拂ニツキ運動スル爲メトテ二時半頃帰ル 廿八日ノ支拂ヒニツイテハ二千五百円注入金予定アルノミトノコト 自分モ努力シテ居ルガ充分ナル見込ナイ旨述べテ努力ヲ要請ス

平塚ハヤハリベニヤ板ノ件デアッタ

▲▼300ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月15日(日)

天気 晴後曇リ

六時起床 盆栽ノ手入レ小鳥ノ手入レヲナス

正午ヨリ工場ヘ行ク 丁度根岸君來 同道シテ三田浜ニテ清平モ呼ビ晝食 文部省関口君ニ組合ヲ認識セシメル様会談ノ機會ヲ作ルコトヲ依頼ス 関口局長ト相談 善處仕様トノコトデアッタ 三時終ッテ再ビ工場ニ來 一二式ノ打合せヲナス 五時帰宅

▲▼301ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月16日(月)

天気 雨

颱風近ヅク

飯沼ニ行ク 自宅ニ來テ呉レトテ自動車ヲ廻シテ呉レタノデ行ク 中々立派ノ屋敷デアッタ 洋間バカリナノデ日本間ヲ作ルノダトテ建築材料ガ這入ッテ居タ 庭モ手入レ中デアッタ 晝食ノ馳走ニナリ成べく至急工場ヘ來ルコトニ話シヲキメ東日ニ立寄り四時帰ル

十年式久々田海岸ニエンコ 翼ヲ降シテ持ち帰ル

▲▼302ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月17日(火)

天気 雨

五時半宇賀來 今皆出サセタトノコト 雨カナリ降ッテ居タ

七時出 八時丁度大和田小學校着 十分程前ニ皆ツイタ由 十二時半終了後晝食 審査査エツ官ノ希望アリ一時半終了 帰宅 終始雨ノ中デアッタ

清平ニヨリ日立安藏サンニ會フコトヲタノミ無尾模型ノ計算書ヲ貰ヒ帰場 丁度島ト肥田木來テ居タノデ肥田木ニ明日中ニ圖面ヲ作ルコトヲ依頼ス 島ニハ勤務振ニツキ注意ヲ與ヘル

▲▼303ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月18日(水)

天気 快晴

十時航空局行 工政課長器材課長ニ合同問題ト切ハナシ修理出スコトヲ特ニ依頼ス
明日桜井部長帰局ノ上相談ニ資スル爲メ特ニ話シテ居ク 飛行協会ニ行ク 小野閣下
今日阿蘇ヨリ帰ツタ由 マイゼ圖面ニ関スル件 局トノイキサツヲ水ニナガシテ新ラタナ
立場カラ善處ヲ乞フ

東日ニヨル 福知氏ニ旭ト平塚合同問題聞ク マダ何等具体化ハナイガ坂東ト篠塚ヲ
会见サセタコトハ事実ダトノコトデアッタ

朝日ニ挨拶ニヨリ三越デ盆栽ヲ見テ帰ル 清平ニヨリ島田ニ速達ヲ出サセル

▲▼304ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月19日(木)

天気 曇リ晴

定刻出 宮崎來テ居タ

航空局九時半着 青木航空官新乗員課長ニ會ヒ挨拶ト修理ノ件依頼 工政課長ニ
村上君ニパイプノ件依頼 平塚、日本パイプ等電話シテ呉レテ結局十二時迄カ、ツタガ
後刻電話デシラセテ呉レルコトニナル

二時帰場 川辺ヨリ速達アリ。先方ヨリ來ルカラ直取引ヲシナイ様トノコト 委細承
知ノ返電ヲシテ居ク。宮崎ヨリ野口氏帰リ遅レル由

夕方廿八日ノ支拂ヒニツキ聞ク 二三千円ノ收入予算ヲ立テテ居ルガ其他ノ見込ミナ
イラシクニ二三千円モ入金不確定ノモノ大分アル

菅谷君ニ話シスル様進メテ居ク

▲▼305ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月20日(金)

天気 快晴

定刻出 川辺君ト電話デ打合セ 明朝來ルコト

福西ヨリ電話アリ 午後工場へ行クトノコトニ羽田へ行クノデ行キニ寄ルコトトス 話シハ
増島ニ工場機械ノ方ヲ一切ヤツテ貰フコト。ソレハ社長ヲ助ケル意味ニ於テ又清平ヲ其
方ニ任せ一日モ早く帰レル様ニシタイトノコトデ誠ニ結構ナ話シデ、ソレト清平ヲ呼ブ
午後工場見ニ行クトノコトニ羽田行中止シ恵美子一人ヤル 一時ニテ福西清平増島ト
四人デ工場へ行ク 増島ハ目下八王子ニ工場ヲ作りツゝアルノデ其方ノ手續キガ済ミ
次第考慮シテ協力スルトノコトデ一ヶ月位余裕ガアル由 再ビ上京 東日へ 四時半
船橋ニ立寄リスグ帰ル 恵美子ト船橋デ一所ニナル

▲▼306ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月21日(土)

天気 晴

宮崎廿八日ノ支拂予定入金貳千六百円トシテイタガ大矢分ヲ入レテ居タ 之レハアテニナラナイ 他ニ金融ノ道ハ何ニモナイ由 白戸ヲ手形デ貰ッテ融通スル方法 萱場無尾入金ノ方法等モアルガイツレモ確定的ノモノデハナイ

萱場ヨリ竹田大佐來 無尾ノ謝禮トシテ金百円貰フ 受書ヲ出シ内三十円社友会ヘ入レサセル

正午ヨリニッポン完成祝賀会飛行協会東京市協同主催ニ行ク 式終テ乗員全部ニ会フ 吉田ハ少シ太ッタ様デアッタ タ方帰ル

▲▼307ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月22日(日)

天気 曇リ

終日在所 午前プライマリー設計

午後江口氏ニタノマレタ借家サガシニ駅附近ヘ行ク 大坂ノ姉ツル家内和子同伴野道ヲ歩ク 十六坪ノ新シイ家マダアルト思ッタノニスデニ全部貸シ切りニナッテ居テガツカリシタ

四時帰宅 クタブレタ ニ三日來ドウモ少シ工合ガ悪イ様ダ 腹ノ方ハムシロイノダ ガツカレルト後頭部ガ変ダ

佐野ヨリ小供來 二十円ダケ渡ス

▲▼308ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月23日(月)

天気 曇リ晴

ツカレヲ休メル爲メ工場ヲ休ム

晝迄床ニツク 午後自轉車ノ塗リヲヤル 少シノ間デアッタガ頭ガツカレル 又一時間程床ニツク

徳治平塚ヘパイプ取りニ行ク

無尾試飛行 操縦性ヨクナッタトノコト 飛行機曳航デ離陸シナカッタトノコト リリース位置ノ爲メト思ワレルノデ明日ヤリ直スコトス

江口君ノ家駅附近デ今建築中ノモノ三軒アルトノコトニタノンデ聞イテ貰フ 處ガスデニ約束ズミトノコト

▲▼309ページ▲▼ 昭和14(1939)年10月24日(火)

天気 曇小晴

定刻出 松木氏來 航空局ト東日ヘ挨拶ニ行キタイ 奈良原氏ト約束ガシテアルトノコト 調べルト電話ハアッタガ行違ヒト分リ十時過ギ迄待ッタガ見エズ。無尾試験ノ島モ

來ラズ 止ムナク山形行ハ木下ダケニシ島ノ兄ノコスコトス。山東ニ宮崎君來タラ廿八日ノ支拂ヒニツキ相談シタリ待ツテ居タコトヲ事傳上京 局ニ佐田少佐ト会見 松木氏照(ママ)介 種々注意ヲ受ケ東日ニ行キ福知清水両氏ニ會ヒ打合セヲ済マセル 丁度二時 東日会館デ晝食後分レテ再ビ局ニ行キ村上氏ニ其ノ話シ聞カレルマヽニス 午前ノ時松浦氏ニ聞ク マダ桜井氏多忙ノ爲メ会議セヌ由。ドウモアヤシクナツテ來タ模様 桜井部長、工政課長ニ會フベク待ツタガ会エズ帰ル 清平ニ立寄り明後日ノ打合セシテ帰ル

◆◆310ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月25日(水)

天気 雨

定刻出 多田少将ト連絡 午後三時会见ノ約ヲナス

菅谷氏電話ス 昨日來場シタ由 宮崎君カラ何ニカ話シアッタカト聞イタガ何モナイトノコト 宮崎ヲ待ツ間幕張ヘ軸ヲ取りニ行ク 桐ノ函間ニハ合ズ軸ダケ受取り十円拂テ帰ル バスデ宮崎ト一所ニナル 帰場後廿八日ニ対シ案ヲ聞ク 何ニモナイトノコトデ白戸ト萱場ヲアテニシテドチラモ自分ニ話シテ貰ヒタイコト 然シ之レハ當ニナラナイカラ万一ノ用意ヲ考慮スル様話ス 白戸ハ明朝会ツテ見ルコトニ電話ス

正午ヨリ上京 福西氏ニ會ヒ廿八日ノ支拂ニツキ協議 万一ノ場合ノ打合セヲナシ三時交詢社ニ多田氏ニ會ヒ桜井サンニ會テ合同ト修理ハ別ニ考ヘテ貰フコトヲ依頼ス 二時三十五分分レ、ツヒテ二局ニ行キ工政課長村上氏ト会談 組合ノ方法將來ニツキ意見ヲ聞ク 器材課長ニモ會フ 五時局ヲ出テ清平宅ニヨリ七時三十二分ノバスデ帰ル

◆◆311ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月26日(木)

天気 雨

終日降ル 定刻出 夜中カラ下痢ス 昨日ハ何ニモ心當リガナイガ不思議デアッタ 左ノ腹ガ痛ム 今日ハカイロヲ入レテ出ル

白戸ニ行キ手形ヲ書カセルベク骨折ツタガ無駄 五百円現金受取り月末材木屋千円アリ十四日トノコトニテ引上ゲ菅谷ニヨル 菅谷君カラモ電話申込シデアッタトノコトデ結局金目的ナク宮崎ヨリ四五日前話シガアッタトノコト ツヒニ福西ヲ頼ム決心ヲナシ返済ノコトニツキ菅谷君ニ諒解サセ保証ヲ求メ承認ヲ得テ十一時帰場 宮崎マダ來ラズ 山本ニ話シテ居ク。大坂ノ南氏來 一寸会ツテ十一時三十五分ノバスニ乗ル 宮崎其バスデ來ル

飛行館ニテ集合 蔵前会館ニ行キ組合總會ヲ開ク 吉原君ト宮原氏同行シテ居タ 生田氏、美津濃ハ中島君 アカシヤハ山本君出席 組合ハ社團法人ハアトニ變更シテモヨイカラ拙速主義デ工業組合デヤルコトニ決定 定款モキマル マイゼノ件ハ協会ニ対シ中止

説勝ヲベル。吉原氏ヨリ値上問題出タガ研究スルコトニシテ保留ス。
日比谷トウ、寄リ夕食後帰ル 八時帰宅

◆◆312ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月27日(金)

天気 晴

久シ振リノ快晴 福西へ連絡ノ爲メ船橋ヨリ電話スル 昨日出タマ帰ラナイトノコトデ
心配ニナル 午後二時頃行クコトヲ話シテ居ク
無尾十二時頃試飛行 萱場社長、武田氏來 一三三テ曳航 百米ノ高度ヲ得タガ山
ノ方デ離脱シ畑ニ着陸ス 試験ノ方法尚今後ニ残ル爲メ金ノコトハ云エナカタ 曳航機
ホシイトノコトニ試作機一万円デ作ルコトヲ申入レル 考慮スルトノコトデアッタ
一時半出 二時半福西着 帰ツテ居タ 決極(ママ)小川氏カラ借り出スコトニキマリ利
子ハ表面三錢トシアトハ自分ガ何ントカ方法スルコトス。小川氏不在 五時頃兎三角
行クコトニス 途中空撃ニ會ヒ一時間オクレル 先方デ又一時間程待チ話シマトマリ帰
リニ又二三回止メラレ十一時半船橋着 清平宅ニヨリ帰ル 工場ヲ見ル 宮崎今日一
日ツヒニ來ナカタ由

◆◆313ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月28日(土)

天気 晴

大坂ノツル姉午後一時ニテ帰ル

朝徳次ヲ連レテ上京 先ヅ局ニ行キ甲斐榊原氏ニ會ヒ五社決議ノマイゼ辞退ノ件ヲ
話ス 甲斐氏ハ嬉(ママ)ンデ居タガ榊原氏ハ昨日協会ニテ佐藤氏等ト会談 圖面ハ其マ、
希望者ニ分配スルコトニナツタカラ予定通り進メテ貰ヒタイトノコトデアッタ。組合ノ件
ニツキ工政課長、村上両氏ニ報告ス 局トシテ商工省へ話シテ見テヤルトノコトデ登記ハ
其上ノコトニシタラトノコトデアッタ。南波サンヲ待ツタガ十一時半迄來ラズ 村上氏ニ
事傳ヲナシテ徳次ト福西ニ行ク 少時待ツ 四十五円(二錢デ三十日分)利子ヲ差引
四千九百五十五円受取り徳次ニ持ツテ帰ラセ自分ハ文展ヲ見テ夕方清平ニヨリ明日
千葉へ行ク約束ヲシテ帰ツタガ南波サンカラ午前十時迄學士会館三居ルトノコト 清水
カラ佐藤氏ト晝食ヲ共ニスル 金ガアルトノコトニ行クコトス

◆◆314ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月29日(日)

天気 晴

今日ハ又大夫(ママ)ツカレタガ七時起床 八時出タガ空撃デ船橋駅ヘツイタノガ四十
五分 九時半學士会館着 十一時迄南波氏ト会談 組合ノ件 会社ノ件懇談 今日

午後松浦氏ニ會フトノコトニ修理ノコトヲ話シテ居クトノコトデアッタ。十一時半時代社着 佐藤氏ト會フ 一時宇喜代茶屋ニ行キ、佐藤氏ノ外渡辺一英、松下、松岡、平松、鷲見、清水利根川、ト自分九人五時迄会談。マイゼノ件モ札ヲ述ベル 松下文部省囑托(ママ)ニナツタ由 十二日指導ノ件依頼ス 終ッテ銀座ニ出渡辺君シキリニ用アリ氣デアッタノデ月末金ノコトカト心配シタガソナコトデハナク当会社ノ社長本位デナクナツタトノコトダガト聞カレタ 誰レニ聞イタカト尋ネタガ云ワナカッタ。大体話シタガ航空局海軍ノ事情ヲ話シテ居ク 大ニ声援スルトノコトデアッタ。井上長一ノ方キマルニツキ渡辺助言ヲシタノニ帰ルコト一言ノ挨拶モナカッタトノコトデ怒ッテ居タ七時迄会談 八時半工場ニ行ク 空撃中デアッタノデ佐藤、村山、太田等奨(ママ)ギヲ指シテ居タシ長屋ハ一軒カン、電気ガツイテ居タ 不真面目ニ驚ク

◆◆315ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月30日(月)

天気 晴

八時工場出 九時過ギ宮崎來 明日約千円入ルトノコト ソレニ役員ノ給料モ含ム由 山東今日集金ニ上京中 青木仙モ出カケル 後チ聞ケバ他ノ青木買物ニ行ツタ由 イツモ外出者多過ギル様デアル 十一時ヨリ醫者ニ行ク 先週行ケナカッタノデ十一日目ニナル由 午後自宅ニテ安静ニス 奈良原氏來 明日來ル由 クラブモ入金ナク朴其他見ニヤッタガ居ラズ。木下スグ帰ル様打電ス 二日ニ帰ルトノ返電アリ 更ニ島ヘ早ク帰ル様打電ス

◆◆316ページ◆◆ 昭和14(1939)年10月31日(火)

天気 晴

静養ト思慮ノ爲メ終日在宅

宮崎來 九八デ千円借リルトノコト 野口ノ約手ニヶ月分ヲ持参ス 役員俸給ト千葉ラジオ支拂ニ當テル爲メ

菅谷君來 先月用立タ式百五十円持参 大ニ助カル

島田ヲ呼ビ注意ヲ與ヘ意見ヲ聞ク

午後江口君ノ家サガシニ海神ヨリ八幡ニ行キ八幡ニテ一軒新シイ家見ツケル 明日迄借リテ居ク

八幡境内デ植木市ヲ見巳ノサンカラ佛手柑一鉢ヲ求メル 七円トノコト 帰リニ清平ニヨル 海軍ノ方清平ニヤル様話シ自分局ヲ全力ソ、グコトス

◆◆318ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月1日(水)

天気 晴

定刻出 興亜奉公日ニツキ朝礼ト共ニ訓示 八時半ヨリ上京 福西へ軸ノ箱ヲ届ケ先日ノ礼ヲ述べ局ニ行ク 局長ニ會ヒ工場ノ現状ヲ述べ修理ヲ早く出シテ貰フコトヲ依頼ス 工政課長、村上両氏ニ會ヒ組合登記ニツキ意見ヲ聞ク 局トシテハ商工省ノ意向ヲタシカメタ上方針ヲ示シタイカラ、ソレ迄延期シテ居テ呉レトノコトニ課トシテ組合員へ通知スルコトトス。榊原氏ニ會フ マイゼノ外ノモノノ製作ニツキ聞ク ヤハリ、マイゼヲ基楚(ママ)トシタモノヲ作ツテ呉レトノコトデアッタ。埋立地ヲ飛行場ニシテ貰フ件ニツキ航務課長、局長ニ話シタガダメラシイ 大臣直接ノ話シヲヨシト考ヘ尾崎君ニ話ス 早速建設課長ニ照(ママ)介シテ呉レ同課長ヨリ内務省へ照(ママ)介状ヲ貰フ 東日ニ立寄り福西、清水君ト晝食ヲ共ニス TCノ件話シ出千五百円位デキメテ貰フ様タノム

◆◆319ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月2日(木)

天気 曇

七時四十分工場出 久シ振リデ終日在所
プライマリー設計
佐野春來 二十円渡ス
奈良原氏來場 佐藤先生ヨリ記念品ヲ貰フ ワッサークツペノ御土産 夕方久次郎ニ事傳清平ニ贈ル
家内朝カラ婦人会ノ連中ト浅草デ一日遊ブ 面白カッタラシイ

◆◆320ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月3日(金)

天気 快晴

奈良原氏來宅 八時宅ヲ出成田山へ吉田ニツポン世界一週ノ成功御礼詣リニ行ク 十時半清平宅ニ歸リ、協会提出ノカタログノ打合せヲナシ、奈良原氏ヨリ塗料ニツキ説明ヲ行フ ライスカレーノ晝食ヲ馳走ニナツテ歸ル
夜清平夫妻初メテ児供ヲ連レテ來 角夫妻ヲ呼ビ昨日貰ッタ松茸デ牛肉ノスキ焼ヲナス。一時間程シタラ又下腹ガ痛ミ出ス
今日ハヨイ明治節日和デアッタ

◆◆321ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月4日(土)

天気 曇後雨

朝内務省土木局技術課長訪問 不在 東京土木出張所長ニ會フ 初メデ簡単デ船橋出張所ニ山本技師ガ居ルカラヨク相談サレタラトノコトデアッタ 時間ガ早カタノデ飛行館ニ大數ノ件デ立寄ッタガ皆留都(ママ) 局ニ行キ坂本氏ニ會フ 伊部君此間ノ家ニキメタ由 清平宅ニヨル タイプ打ッテ居タ
二時前帰宅 辻本氏來場 検査C二、B二讀賣ノ分終ル 讀賣ヨリ又六七人モ來 清水君モ來 松木氏遅レ四時頃ヨリ十二日ノ打合せ会ヲナス 五時半散会 六時帰宅 大口艶子來テ居タ

▲▼322ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月5日(日)

天気 快晴

終日在宅 正午醫師ニ行ク途中工場ニ寄ル 主任一人モ居ラズ
徳次讀賣機写真ヲ取ラセ完成報告書ヲ作ラセル 午後松崎ノ貳百五十円市川ヘ持参セシム

午前盆栽三四鉢植替ヲナス

朝練習アリ

午後島安博來 無尾試験ノ打合せヲナス 十四、十五、十六飛行機曳航ニテヤルコトニ決定ス

▲▼323ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月5日(日)

天気 曇小雨

定刻出 徳治試験場ヘヤル 青木カタログノ件ニテ設計事務所ヘ行ク

八時半頃宮崎來 今日ノ支拂ニツキ協議 九八ヨリ二千円借受ケルコトトス 宮崎行クアトダメラシイトノコトデアッタ 之レヨリ今日ノ支拂ヒ予定ヲ立テル

奈良原氏來場 清水君ヨリ高工B二一台注文ストノコト 引受ケタガ、工務デ出來ナイコトニ決定 コトワルコトナル 残念ナ話ダ

定子船橋ヘ帰ッタトノ電話アリ 家内ニスグ連レニヤル 請地ノ停留所前 菊水トカ云フカフェーニ居タ由

▲▼324ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月7日(火)

天気 晴

八時工場出 宮崎休 山東鷺津階上ニヒソム

グライダーニ機多摩川ニ送り十一時半川辺君來ラズ上京 奈良原氏ニヨリ二十円持

参 同道シテ局ニ行ク 新乗員課長出張中ニテ奈良原氏会ワズ 自分青木氏ト会議
修理ノ件相談サレテハ困ルトノコトデアッタ 尚出スニシテハ君ト方ト航空局トニ契約ガ
出来ネバ乗員課トシテ出セナイトノコト 之レハ少シ、変ナ話シダガ兎ニ角工政課長ニ
聞ク 実ハ乗員養生ノ器材ニツイテハ具体的ニマダ決定シテ居ラナイノデ、キメ兼ネ居
ルトノコトニ尚工場ノ実状ヲ話シ急イデ貰フコトヲ依頼ス。組合登記ノ件航空機工業
組合トシテノ考ヘモアルラシキ話シアリシモ確カナラズ 登記延期ノ理由ニツキ局ノ方針
ヲ指示セラレタキ旨希望シテ帰ル。榊原氏ニ文部省型急イデ貰フコトヲ依頼ス

◆◆325ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月8日(水)

天気 晴

八時工場出 収支ノ調査ヲ行フ 來客多ク皆出來ズ 殊ニ木工部受負仕事ニ対シ値上
要求アリタル由ニテ本日ハ作業ヲナシ居ラズニ三名ノミ 之レガ対策ニツキ、主任級ヲ
集メ、責任者角ト宮崎ヲ呼びビヤリ対策ヲ立テサセル 宮崎直接会见 夜一部ノ者ヲ
千葉へ御馳走ニヨム由 退所申出タル四名ハ三ヶ月間勤務スルコトニナリタル由
川辺佐見細川氏來。朝日船橋支局員野口節君來 津田沼ヲ中心トシタル記事ヲ書ク
由

讀賣多摩川初グライダー飛行ヲ行フ

◆◆326ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月9日(木)

天気 曇少晴

定刻出 出勤者少ナシ 木工マダ出ズ宇賀ヲ呼びビヤル 明日カラ出ルコトニナッテ居ル
由 此ノ兵器廠ノ仕事ダケ終ッタ止メル由 組合ノ判必要アリ宮崎ニ電話スル 一
時頃漸ク來 上京遅レドコヘモ行ケズ船橋ニテ兄ニ會フ 今夜十時二十分ニテ北海道へ
鉾山ノ用件ニテ行ク由

組合ノ名デ協会ヘマイゼ圖面下付願ヒヲ提出ス 小野サンニ渡ス。四時協会ニ行ク。中
尾君小原君ノ講演ヲ聞キ映画ヲ見八時終ル。奈良原、青木、徳治宮崎ト食事シ自分
ハ福西ニ行キ昨日カタノ経過ヲ報告シ職工ヲ依頼ス

十時二十分上野ニ兄ヲ見送ル 年老ヒテ長途ノ旅行ハ大変ダガ自分ヨリハ元気ダ。十
一時半帰ル

キン今朝帰ッテ來タ由 退職手當ヤ何ニヤカヤ百二十円貯金シタ由

◆◆327ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月10日(金)

天気 雨後晴

定刻出 今朝マダゴタ、シテ居タガ晝頃漸ク解決 全部作業ニツク 一台七十五円デ
キメタ由 内二三人常雇ノモノアル由 村山、高橋等 宮崎來。菅谷君來 木工部解
決シタコトダケ話ス。野口氏遊資ニナラ先キニ帰シテ貰ヒタイコトヲ述ベテ居ク 宮崎、
野口ハ帰ツテモ金ハ出來ナイトノコトデアッタガ金ダケノ問題デナイ スベテノ仕事ノ上
ニ早ク帰ツテ貰ワネバナラナイト云フテ居ク。晝食後上京 局ニ行ク 工政課長ニ會ヒ
組合認可申請ヲ商工省へ出スコトノ諒解ツク。技術部長監理部長ニ會フ 大變遅延シ
タガ君達ノコトハ悪イ様ニハシナ 一ヶ月モ待タサナイ 週ガ変レバスグ會議ヲ開イテキ
メルカラトノコトデ大ニ朗カニナル 尚職工異同ニツキ他工場ト特別ニ考慮ヲ依頼シテ
居ク

福西ニ行ク 大工何人デモ間ニ合フコトニナル 勇ンデ帰ル 清平ニヨリ帰宅後角、佐藤
ヲ呼び想(マ)談ス 明朝早ク大工ノ頭(マ)方來ル爲メ

◆◆328ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月11日(土)

天気 晴

定刻前出社 福西ノ木工代表來ヲ待ツ 八時過ぎ來 角、宇賀ニ合セ後チ宮崎來合ワ
セ交渉サセル

奈良原氏來 午前中プライマリー設計

根岸三式來場ス 清水TC多摩川ヨリ帰ル

午後上京 清水同道ス 車中將來ニツキ話シアリ 引取ラレタイ希望。晝食後福西へ電
話シタガ菅谷マダ來ラズ 東日ニ行キ福地氏ト會フ 三越ヲ経テ四時頃福西ニ行ク

不在 菅谷カラ今電話ガアッタカラ來ルダロウトノコトニシバラク待ッタガ來ラズ 五時
頃出テ帰ル

定子江ノ島附近へ奉公ニ出ス

◆◆329ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月12日(日)

天気 晴

八時工場出 松下、清水、利根川君來場。練習ノ爲メ遅レ十二時頃利根川君C五曳
航機引返シテ清水君TC曳航 空ニ松下氏同乗 鴻ノ台ニ行ク 風ナク絶好ノグライ
ダー日和 仁三郎同道一時一寸前鴻台ニツク 協会堀、小野両閣下來場 渡辺一英
君一家族來。四時頃終ル 東日ノ自動車ラジエター漏水ハゲシク明日ノ引取り清水自
動車へ頼ムコトトス 各機野外繋留シテ六時頃島村ニ行ク 自分等縣ノ御馳走ニナリク
ラブ員ト徳治別ニランチヲ取ラセル 市川橋手前デ東日トラック、ストッパ 廻間外二
三人ヲ残シ工場迄曳 自動車ヲ見付ケサセル 九時頃帰ッタ由。清平宅ニ立寄ル
臼渕氏ノ方イクラデモ出資者アル由 三百万以上千万円デモトノコトニ計画ヲ進メル

コトニ取キメル

▲▼330ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月13日(月)

天気 晴

朝工場出 十時迄居リ布施サンニ行キ十一時ヨリ自宅ニテ静養 十時頃宮崎ヨリ今日
出社遅レルトノ電話アリシモツヒニ來ラズ
植木屋今日デ三日 スツカリ出來上リ表ナド大変明ルクナッタ 夜早ク床ニツク

▲▼331ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月14日(火)

天気 雨

朝定刻出 菅谷氏訪問 スデニ出タアト スグ帰ル 無尾試飛行準備ナル 小川、木村、
内田氏來 武田氏來 晝食後飛行準備中雨シゲクナリ中止ス 自動車ニテ送ル 谷津
追同乗 福西ニ行ク 矢走氏ニ照(マ)介サレル 今朝深町氏ニ会ツタ話シ 一億円迄
出シ得ル人アリ クニノ宮様ニ縁故アル人トノ話シヲ聞ク
クラブ借入ノ五万円返金ス 帰途清平ニヨル 兄明朝着ノ由

▲▼332ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月15日(水)

天気 晴

定刻出 朝札ニ火ニアタツテ出テ來ナイモノ多数アリ 調査ヲ命ズ
九時前宮崎來 山東昨日ヨリ熱アリ休ミ 醫者ニカ、ラナイ由
プライマリー設計圖面作製終リ三面圖製作ヲ命ズ
野口氏出社 十一時頃來タラシク正午ヨリ銀行ニ立寄り上京ノ由 上京ハ吉田氏ノ用
件

兄北海道ノ帰リニ立寄ル 夕食後清平ト帰ル 無尾試験一三ニテ曳航 速力不足トテ
六十米ニテ離脱 百八十度旋回 幕張沖ニ着陸 明日十年式デ行フコトトス
小原氏來 パラシュート落下試験ト特許品ノ試作見積ヲ頼マレル 奈良原氏來
福西ヨリ電話アリ 明日三百万円ノ計畫書ホシイトノコト 明朝行クコトトス 菅谷氏
ト電話シテ連絡 明日午後三時福西ヘ行クコトヲ約ス

▲▼333ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月16日(木)

天気 晴

定刻出 クラブ、工場共指令シテ九時ヨリ上京 清平宅ニヨル 兄マダ寢テ居タ。局ニ

直行 坂本氏航空官ニナツタ由 祝詞ヲ述ベル 一三奨励金ノ件諒解ヲ得 一ヶ年變更登録申請ヲ出ス 十時半福西二行キ拡張計画書ヲヲ(ママ)作製。十一時半出テ高島屋ノニッポン展覽会ヲ見飛行館ニ行ク 誰レモ居ラズ 輸送会社ニ寄ル 人事課長不在ノ由 ドウモ居ルラシイガ変ナノデ井上君ニ會ヒ永田氏ノ返事ヲ聞イテ知ラセテ貰フ様タノム。夕方福西二行ク 四時過ぎ菅谷來 工場根本問題トシテクラブノ則ニスルカ合同スルカニツキ吾人ノ誠意云云ヲナシタノデ反バクス 結局奈良原氏ト相談ノ上役員会前ニ今一度会合スルコトトシ丸万ニテ夕食ヲ共ニシ八時別レル

▲▼334ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月17日(金)

天気 晴

野口宮崎二兵器廠ニ対スル金融ノ件 外二三注意事項ヲ書キ残シ上京 東京会館ニ井上長一ノ輸送事業引退ノ披露宴ニ参加 約三十名バカリノ人々デアッタ 終ッテ飛行館ニ行キ犠牲者慰靈祭ニ参列後小野サンニマイゼ圖面ノ件ヲ依頼シテ東日ニヨリ清水君ニ會フ 野武士会ニ参列 八時過ぎ一足先キニ辭シ柳橋鶴ノ家ニ萱場氏一行ガ待ッテ居タノデ行ク 今日二十米ヨリ無尾滑空 小旋回モ自由ニ出來テ皆嬉(ママ)ンデ居タ 今日ハ式回ヤッタ由 アトノハ五百米ニテ放シタ由。清平ト共ニ帰ル

▲▼335ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月18日(土)

天気 曇リ

七時京成電話(ママ)ニテ東武浅草駅ニ行ク 九時半発電車ニテ中島飛行機見学 二時半ノ電車ニテ帰ル 清平宅ニテ兄ト會フ 今夜九時半ニテ帰坂スル由 安岡一週忌 クラブヨリ十円 奈良原先生ト自分デ五円送ル 夜七時ヨリ自宅ニテ法要

▲▼336ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月19日(日)

天気 雨後晴

七時起床 朝食後工場ヘノートト履歴書ヲ取りニ行ク 日直マダ來ラズ 帰宅 間モナク奈良原氏來場 十一時半込徳治モ加ヘクラブノ方針ニツキ協議 責(ママ)権責(ママ)務一切ヲ引ツキ社長、奈良原兩人ノ交際費ヲ支出出來ルナラ合同スルコト 然ラザレバアト六ヶ月延期スルコトニ方針ヲ定メ明後日福西ヘ行クコトニキメル

午後清平宅ヘ行キ航空局提出ノ履歴書ヲ書クコトヲタノミ萱場明後日行クコトニ取りキメル

時計屋デ時計ヲ受取リジヤガ芋ヲ買ワセ花銀ノ植木屋デ此間買ツタ佛手柑ノ盆栽ヲ

受取り三時帰宅。角宇賀晝頃來 兵器廠材料ト仕事ニツキ協議ス 宇賀ハ職工足留メ策トシテ今ノ仕事ヲ二月頃迄引延バスコトヲシキリニ云ツテ居タ

◆◆337ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月20日(月)

天気 曇リ

定刻一寸過ぎ工場出 久次郎今日カラ出ル

九時半野口氏來 正午過ぎ迄約三時間ニ渡リ会談 最後ニ今月來月多額ノ金ヲ要スルガ如何ニ切ル拔ケルカラ持チ出シタガ明確ナル返事ヲ得ラレナカッタ オソラク此マ、一時シノギニ押シテ行クモノト見ラレル。支拂ヒニツイテモマダ調ベテ居ラナイラシイ一時半ヨリ工業學校ノ評議員会ニ出席 校地拡張四千三百坪ヲ二万円デ購入 金ハ教育会ヨリ年五分ナラ十ヶ年賦借入レノコト 借入レニツキ三名ノ代表者ノ判ヲ貰フコト等ヲ決定シ後チ校舍及敷地ヲ見學 井泉庵デ休息 五時半工場ニ歸リ清平ト電話デ話ス 明日萱場ヘヤルコト 徳治ニ履歴書ヲ書カセル 夜十一時過ぎ帰宅ス

◆◆338ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月21日(火)

天気 晴

定刻出 金庫空イテ居タノデ組合ノ判モ間ニ合ヒ現金五十円持ッテ上京 奈良原氏宅ニヨリ同道 局ニ行ク 町田乗員課長ニ會エズ工政課長ニ會フ 奈良原氏自分ノ履歴書ヲ提出 後チ工政課長ニ修理ノ件聞ク 大分六ッ間敷ク局自カラヤルコトナリソウダトノコト 尚新規拡張ニツイテモ認可ハ中々デ現ニ東京飛行機其他有力ノモノデサエ認可シテ居ナイトノコトデアッタ。加古氏ニ聞クト修理機体ハ東京飛行機へ送ッテアルトノコト ヤッテ呉レナイデ困ル由 マイゼ申請書提出 組合員ノ承認書工政課へ預ケル 一時出テ晝食後二時前福西ヘ行ク 三時半迄待ツタガ菅谷ツヒニ來ラズ。大工月末ヨリ來ルコト 五千円多少延期ノコトヲ依頼ス クラブハ今一期現状維持ニスルコトニキメ役員会ニ持チ出スコト 菅谷ニ事前諒解セシムベキヤニツキ福西必要ナシトノコトデアッタ

東日ニヨリ清水ニ會フ 讀賣時沢君ト夕食ヲ○ヤニテナシ結局百五十円値引ニ決定スヨッテ同氏ニハ謝礼セズ 尚アトノコトヲ依頼シ居ク 歸リニ清平宅ニヨル 萱場廿四五日頃受取ル由 白渕ノ件福西ニ若干打明ケル方ヨカロウト相談ノ末白渕カラ今度ハ返事ガアルコトニナッテ居ルノデ其結果ニスルコトニキメル。

本日岡格ノ助氏ニ有楽町駅前デ會フ 山田道行氏本部第三課長ニナッテ居ルトノコトヲ聞ク 久シ振リデアッタ

◆◆339ページ◆◆ 昭和14(1939)年11月22日(水)

天気 雨

終日雨 定刻出

野口君來 昨日ノ萱場ノ報告ヲナシ其金ヲ五千円ノ内入ニシテ貰ヒタイコトヲ述ベル
讀賣八月末トナルノデ、然ルニ昨夜吉田ヘ行ツタガ話シモ出來ズ帰ツタ由デ何等金ニ対
スル成案ガナイラシイ。仕事ニツイテモソウナノデ皆ヲ集メ協議ニウツル 結局B二ノ
新造ガ出來ナイコトニナルノデ研究ヲ命ズ 中山氏明日立寄ルトノコトデアッタ 二時
半頃臼渕氏ヨル会ヒタイトノ電話アリ三時ノバスデ上京ス 同時ニ野口モ上京シタガバ
スニ行カレタ時自分ヨリ先キニ徒歩デ行ツタラシイ。船橋デ乗車スルト吉田ノ奥サンガ
居タ アトデ氣ガツイタラ吉田モ宮崎モ居タ コンデ居タノデ変ナ風ナノデ挨拶ハシナ
カッタ 宮崎ハ今朝野口發ノ手紙デハ病氣デ休ムトノ通知ガ來テ居タノダ 両国多ク
テコソ、降リタラシイ。臼渕氏ト丸ビル九階デ会见 タ食ヲ共ニシ今度ノ件デ初メテ
会フ 会談要項ヲ別ニ記録ス ドウモ浅野ニナルラシイ

▲▼340ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月23日(木)

天気 晴後曇

散髪シテ工場出 クラブ一三ベンツ手入レノ件手配ス

奈良原氏來場 塩原氏ノ方五万円出資決定シタトノコト ツイテハ防浪セロファンノ製
造函ノ見積リ角ニ命ズ 大坂ノ中山氏來 現状ヲ話シ工場見成田山ヘ行クノデ自動車
ヲ辞退サレタノデ停留所迄送ル 帰り宅ニヨリ晝食シテ工場出 布施醫院ニ行ク 注
射アト八月一回位少シノ間ヤルダケデヨイトノコトデアッタ 清平來 帰宅後昨日臼渕
トノ会见模様ヲ話シ今後ノ対策ニツキ協議 兎ニ角現役員ト円満ナル交渉ヲ續ケルコ
ト 万一ノ場合來月金融スルトスレバ二三万ノ少額デナク十萬廿萬マトメテサセルコト
臼渕ノ方アラカジメ打診シテ居クコトトス

野口引(ママ)過ギ來場 讀賣間ニ合ワナイ爲メ萱場ノ金返金ノ方ヘ廻スコト諒解ス

▲▼341ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月24日(金)

天気 雨後曇

朝礼 金庫ガシマライノデ直シ記号ヲ替エ徳治ニ渡シ野口君ニ渡ス様ニ云ツテ居ク
九時ヨリ上京 奈良原氏同道局ニ行ク 村上氏証明モウ少シ待ツテ呉レトノコト 技師
部長ニ會フ 大變急(ママ)ガシソウデ立ツタマ、話ス 工政課長ノ話シ同様な杜ヲ維持ス
ルダケノ修理機数ガナイノデ六ッ間敷トノコト ソレニツキ他ニ方法ヲ考慮中トノコト
デアッタ 立松大佐佐藤少将ニモ會フ 佐藤氏此問題ニツキ局デ直營ノ希望ダガソレ
ガ実現迄ニハ数年ヲ要スルカラ急グ場合ハ現役ノ会社ヲ買収ノ他アルマイトノコトデアッ
タ。町田乗員課長ニ會フ 工場ノ現状特ニ技術者ニツキ質問アリ 尚海軍ノ方ハ大ニヤ

レ、出來ルダケ多ク行クコトダトノコトデアッタ。コゝデ奈良原氏ニ別レ東日ニヨリ清水ト食事ヲ共ニス Bニ延期ヲタノム。協会ニ行ク 堀閣下ガ會ヒタイトノコトニ會見 今君ノ方ドウシテ居ルカトノコトニ海軍ト局關係ヲクワシク話ス ソレハ困ルダロウ 今日ヨンダノハ亜細亜ヲ引取ツタラ大分部品ガアルカラ君ノ方ヘヤロウカト思ツタノダトノコトデアッタ。後渡辺一英ニ會ヒ今日ノ會見ヲ話シ五時半縣君ノ結婚披露ニ行ク 朝日ノ河内、中野君ト同席デアッタ 八時半終ル 桜井部長、四王天中将モ見エタ
奈良原氏ツヒニ來ラズ 帰途清平ニヨル 萱場ノ金貳千五百円受取ル

▲▼342ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月25日(土)

天気 晴

早朝福西ヨリ電話アリ コチラヨリ懸ケテ行クコトトス 十時出カケタ處ヘ野口來 貳千五百円返スコト 讀賣ノ金其代リ借リルコトノ諒解ヲ得テ貰ヒタイトノコトニテ出カケル

山東本日ヨリ出社 鷺津モ出ル 三田安田銀行ニ直行 貳千五百円現金ニテ受取り福西ニ行ク 貳千円支拂ヒ今月分利子殘貳百五十円ト十二月分三千円ニ対スル百五十円計三百五十五円支拂フ 誠ニ馬鹿々々シイ支出ダガ止ムヲ得ナイ 三千円ノ手形ヲ渡シテ帰ル 四時二十分帰宅 満州ヘ行ツテ居タ高橋美次君來テ居タ 夕食ニ鳥飼氏モ呼び共ニシ高橋君風ヲ引イテ居タノデ早ク床ニ入レル

▲▼343ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月26日(日)

天気 晴

定刻出社 菅谷氏ニ電話シタガ不在 プライマリー改造圖作ル 十時野口氏來 昨日ノ報告ヲナス 廿八日ノ役員會ハ廿九日ニ延期サセル 第三商事ノ株主總會ト無尾ノ立川行モアルノデ廿九日トス 廿八日ノ支拂ヒニツイテハ吉田氏ニ宮崎ヨリ話シテ居ラシイトノコト ソレニ対シテハ入金ノ予定ノモノヲ取り次第入レルコトニスル外アルマイト思テ自分ノ心付キノモノ書イテ渡ス 役員會議案作ルコトヲ命ズ 十一時奈良原氏ト帰宅 高橋君ト晝食ヲ共ニシ二時頃帰ル 奈良原氏二十円渡シ青木二三円ヤル

▲▼344ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月27日(月)

天気 晴

一番バスヲ七時五分カラ待ツタガ二番モ來ズ三番デ千葉菅谷ニ行ク 丁度モウ出タアトデアッタ 九時半帰場 野口來 佐藤角太田ヲ呼びニ階デ佐藤ヨリ鍛造屋ノ報告ヲ聞ク 十二月中カハルトノコトニ止ムナク福西ノ大工コトワルコトニ決定 電話ス 妻

君ダケデアッタ 廿九日役員会ニ坐敷ヲ借りタイコトモ話ス 承知シタトノコトデアッタ。午後宮崎來 吉田氏ノ一万円ノ小切手持参 野口ト自分名義ニテ二月末日迄ノ信用証ヲ入レル 利子二銭。徳治三鷹ヘクラブノ金受取リトツヒデニ工場ノ見積リノ件デ話シニヤル ヤハリ設計見積込シテ呉レトノコト 金ハ全額貰ツテ來タ 夕方東京高工學生B二片翼持参注文 ■書ヲ出ス

島安広來 無尾曳航ヲ止メ自動車デ送ルコトニキメル

大坂ノ兄ニ、百円送金ス 夜電報アリ受取ツタ 明後八時半立ツ由

▲▼345ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月28日(火)

天気 晴

一番バスデ清平宅ニ行キ一時間程打合せシテ九時半第三商事事ム所ニツク 菅谷ト事務員一人居リ間モナク大坂ノ株主一人來 アトハ新役員トナル海保氏遠山氏ト同行者三名 予定ノ筋書通り十一時前二議案ノ審議ヲ終ス 海保氏ハ奈良原サン時代ニ関係シタコトノアル人デ後藤ヤ白戸、住吉、斎藤ナドノコトヲヨク知ツテ居タ 晝食ノ予定ラシカッタガ分レテ福西ニ行キ大工コトワツタ件札ヲノベ明日役員会ニ坐敷ヲ借りルコトヲ頼ミ小切手取替テ貰フ 銀行ニテ現金ニシ、スグ立川ニ行ク 技研ニツク頃丁度無尾ガ飛ンデ居タ。萱場氏木村氏ト岡田少将第一部長ニ會フ 今迄題問(ママ)ニシテシタガ予定ヲ出セバ、スグ注文ヲ出ストノコトデアッタ 木村氏ヨリ予定ニツキ帰りニ話シアリタリ

▲▼346ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月29日(水)

天気 晴

清平白渕ヘ早ク行クトテ自動車迎ヘニヨコス 行ツタラ出タアトデアッタ 大坂ノ兄來テ居タ 共ニ上京 兄ダケ白渕ヘ行ツテ貰フ 自十時十分福西宅ニツク 岡田氏來テ居タ 十二時頃皆ソロウ 福西二時頃漸ク帰ル 会議方ノ如ク例ニヨリテ金工部問題トナリ 五時半頃漸ク終ル オカゲデ盆栽展ヲ見ル時間ヲ亡フ 白渕ノ方計画書ガホシイトノコトデ帰り清平宅ニヨリ少シヤリアト明朝宅ヘ來ルコトニシタ食後久次郎ト同道帰宅 九時

▲▼347ページ▲▼ 昭和14(1939)年11月30日(木)

天気 晴

清平九時過ぎ來 三ヶ年間ノ予算書作製 二時迄カゝル 工場出 小原氏十一時頃ヨリ待ツテ居タ パラシユートノ試験ハスデニ済ンデ居タ 間モ

ナク帰ル

三式修理不良検査ト布施ニ注意ス

野口來場 宮崎休

五時半帰宅 徳次クラブノベント用コード東京迄取りニヤル

山形一三式原價計算ス 九百余円デ五割カケテモ千四百円弱トルノニ会社帳簿ハ千七百円余ニナツテ居タ 明日取調ベヲ要ス

◆◆348ページ◆◆ 十二月

航空局猛進ノコト 上ノ方ニ政治的方法ヲ必要トスベシ 努力ヲ要ス

◆◆349ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月1日(金)

天気 晴

今日ハ寢過ギテ六時二目ガ醒メタ 皆ヲ起ス 定刻前工場出 九時半野口來 クラブ山形一三ノ計算ヲ示シ調査ヲ命ズ 尚昇給ノ参考トスル調書作製ノコトモ命ズ 山東休ミ

組合ノ件宇賀東京府デハ前以テ諒解ヲ得ヨト云ワレタトノコトデ千葉デヤルコトニキメル

十時半ヨリ上京 船橋迄一時間カゝル バスニハイヤニナツテシマウ 局ニ行ク 工政課村上氏ニ会ヒ組合員ニツイテ旭ト河合ノ件聞カレ入レルコトニキマツテ居ルカラ、トニカクレデ証明貰ヒタイコトヲタノム 外ニ奈良原氏表彰ノ件不可能ニナルラシイ 村上氏モツトメタガ評バンガヨクナイトノコト ソレニツキ大ニ辨明ツトメ尚自分ノヲヤメテモ奈良原氏ヲ表彰シテ貰ヒタイコトヲタノム

榊原サンニ會フ プライマリーノ願書早クトノコト 協会三行キ加治木氏ニ會フ 大分オコツテ居タガヨク話シテ帰ル

三越ニ立ヨリ六時帰宅

◆◆350ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月2日(土)

天気 晴

終日在所

辻本クラブ一三検査ニ來 準備悪カッタガタ方終了ス

午後奈良原氏來場

野口ヨリ決算ノ方法ニツキ相談アリ 二十五万ノ損失ヲ二回ニ落スコトトシ五月ノ決

算二廿一万円バカリニナッテ居タノデ材料デ五万円ヲ減スルコトニサセル

根岸君來 夕食共自宅デ共ニシテ帰ル

島田來宅 佐藤、梅山、岡田等ノヤリ方ニツキ話シアリ ヒソカニ不安ヲ感ジテ居タコトガ実現シテ來タ様ナ氣ガシタ

◆◆351ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月3日(日)

天気 晴

久シ振リニ九時頃迄ニ床ニ居ル 徳次昨夜工場泊リト思ッテ居タラ朝工場カラ徳次ヲ呼ビニ來タ ドウモユダンノナラナイ奴ダ 青木ト一所ラシイ 午後五時頃縣庁カラ帰ルマダB六ノ承認番号ガ貰テナイソウダ。尚松戸ヘ誰レモ行キ人ガナイノデ青木行クトノコトニ徳次又同行ス

午後清平ヲ呼ビ木村氏ノ三百円渡し萱場ト設計事ム所ノ件ウマクヤルヨウ命ズ 臼渕氏ノ方ノ話モ聞ク。明川一派ノ方ハスデニ百万円位使ツタトノコトデアッタ 夕方佛手柑ヲ大キナ鉢ニ入レ替エ黃梅ヲ鉢上ゲシ内一ツヲ石付ケシテ見タ ウマク行クカドウカ

◆◆352ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月4日(月)

天気 曇リ

八時工場出 野口宮崎出

プライマリー試作申請書ノ原稿ヲ作ル

松木氏來場ノ予定デ待ツタガツヒニ來ラズ

午後二時船橋ニ行ク予定デ出カケタガ中止シテ帰宅 盆栽ノ冬ゴマリヲナス

◆◆353ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月5日(火)

天気 晴

今日ハ晴レテ居タノデヤ、アタ、カカッタ

七時半散髪ニ行ク 野口宮崎出

十時ヨリ船橋署へ産業報国会合ニ行ク 精神運動ト撰舉ニ対スル事項デアッタ

晝食辨當後二時社ヨリ電話アリ 松木氏來場ノ由 スグ帰宅 謝礼ニツキ協議ノ上決

定 全部デ九十五円預ル

野口氏ヨリ奈良原氏ノ十、十一月分三百円受取ル 尚今月ノ事ニツキ拂全部会社デマカナワネバナナイト思フカラ協力ヲ願フトノコトデアッタ 吉田ヨリ釘ヲササレテ來タノデアロウ

◆▼354ページ◆▼ 昭和14(1939)年12月6日(水)

天気 曇夜雨

六時半起床 定刻前出社 朝礼

今朝機械部ノ就業状態ヤ、ヨロシ 昨日八時半ママダ一人シカ作業シテ居ナカッタ

上京 局ニ行ク 村上氏ニ會フ マダ証明出ナイ 商工省ト協議中トノコト 井上機ノ

三式願書ヲ提出

器材課長松浦氏ニ會フ 修理ノ件木下ニ話シテアルカラ直接交渉セヨトノコトデアッタ

木下氏ハ後輩トシテ先輩ニ下請サセルト云フコトハスマヌ様ナ氣ガスルトノコトデアッタ由

ソレサエ差支ナケレバ急(ママ)ガシイ時デ困ツテ居ルカラ進ンデヤツテ貰ヒタイトノコト

大ニ我意ヲ得タノデ部長ニ會フノヲ止メ榊原氏ニ一寸会ヒ文部省ニ松下氏訪問 体育

協会ノ謝礼ヲ渡ス。生田來ル

東日ニヨル 清水居ラズ謝礼ヲ給仕ニ預ケテ帰ル 三時帰社 根岸來テ居タ 白渕ノ方

浅野ハダメニナツタラシイ 外二百万円程度ノモノ交渉中ノ由

◆▼355ページ◆▼ 昭和14(1939)年12月7日(木)

天気 曇リ

定刻出 事ム所ニ火ナク焚火サセル 明日ヨリ火ヲ入レサセルベク今朝氣付イタ事ヲ個

條書キニシテ野口ニ渡ス

清平來 野口宮崎ヲ呼ビ萱場ノ仕事ニツキ協議 萱場へ清平ト野口同道サセル

正午ヨリ羽田へ行ク 東京飛行機木下訪問 S修理ノ件 木下來ラズ 帰途協会木村

氏訪問 京都へプライマリ五台定價デヨイカ 運賃ダケマケテヤツテ呉レトノコト 荷造

運賃負担デキメル 早速見積リ出スコトニシテ帰途清平宅へ六時頃ツク 夕食後白渕へ

出ス小予算書作製 九時半終リ帰宅

◆▼356ページ◆▼ 昭和14(1939)年12月8日(金)

天気 晴

定刻出 イツモ君ガ代ガ長イノデ今日ハ教エル

終日在所 奈良原氏來 クラブ全員ヲ集メクラブノ前途ニツキ奈良原氏ヨリ話シ尚整

備費トシテ入会金ヲ復活スルコトニシテ発表シ自分ヨリモクラブノ財政ニツキヨク話シ諒

解ヲ求メル

朝大口ヨリ傳票ニヨリ岡田ノ不正ヲ聞ク ソレヲ野口宮崎ニ傳フ 宮崎調査ス イヅレ

モ理由アル如キ回答アリ

根岸、兄ト夕食ヲ共ニス

家内第二本目ノ注射 夕方ヨリ三十九度余ノ発熱アリ九時頃醫者ヲ呼ブ 注射ノ爲メトノコトデ安心 ホルモン注射ヲシテ貰フ

◆◆357ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月9日(土)

天気 晴後曇リ

定刻出 八時工場出上京 野口氏ト途中會フ 此頃ハ中々早イ 清田ニヨリカタログヲ貰ヒ線ノコトヲ聞ク 配給モ東京府ノ配給券デナケレバ賣レナイトノコトデアッタ 航空局ニ行 村上君ニ會フ 奈良原サンノモ賞勲局へ出タ由 安心ス 組合ノ証明マダ出ズ 目下商工省ト交渉中ノ由。東日ニ行ク 清水君ト共ニ第一ホテルニ行キ松下氏ト三人デ晝食ヲ共ニシ文部省ノ方針ナド聞ク 自分カラハ組合ヲ利用活要(ママ)シテ貰フコトヲタノム 木下耶麻次君ヲ銀坐ノ飛行クラブニ尋ネル 居ラズ 自宅ノ電話ヲ聞キ尚名刺ニ用件ヲ書イテ預ケ朝日ニヨリ木村君ニ會ヒカストル五鐘借リルコトニナリ帰ル

清水ニ伊東民雄ト工場ノ大宮工學ノ委任状ヲタノム 尚鷺見ニセコンダリー設計ノ件清水ノ話シニヨリタノムコトニス
プライマリーノ圖清平ニ渡シ山崎君へ依頼ス

◆◆358ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月10日(日)

天気 晴夕雨

七時半起床 八時半工場出

家内今日モ熱下ラズ 午後醫者ニ來テ貰フ 仁三郎モ七度八分アリ 夜七度三分ニ下ル 家内通ジヲツケテ後快クナル

辻本氏來 三式試飛行終ル Bニ内部検査(高工)終ル 受験費トシテ辻本氏クラブへ五十円ヨコス 返シタガ預ツテ呉レトノコトニ預ル

市川ノ永井妻君來 貳百五十円第二回分渡ス 本月分二月末ニ延期シテ貰ヒタイコトヲ依頼ス

宮崎ニ鍛造ノ方一度行ツテタシカメテ見ル様命ズ

野口本日休ミ

兄ト清平川口氏へ行ツテ帰りニ寄ル 三時帰宅 夕方家内ガスシヲ喰ヒタイトノコトニ買ヒ方々船橋へ行ク 七時半帰宅

東京飛行機木下君ニ連絡シタガ今日モ不在 明日午前中返事シテ呉レル由

◆◆359ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月11日(月)

天気 晴

定刻出 北風強ク終日富士全山ヲ望ミ得 練習中止
正午木下代理ヨリ電話アリ 昨日自分ヨリノ招待ニ対シ所用アリトテコトワリ有リ
然ラバイツト云フコトニ対スル返ナシ 少シシヤクニサワル
野口氏本日モ出ズ 宮崎來ラズ 鷺津ヲ醫者ニ見セルトノコトデアッタガ鷺津モ又帰ラ
ズ。山東大矢ノ事ム所行衛(ママ)不明ニナッタノヲサガストテ上京 変ナ話シダ 兎三角
事ム所ハ空デアッタノデ自分上京ヲ中止シテ終日居ル。佐藤鍛造へ行ツテ帰ラズ。

◆◆360ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月12日(火)

天気 晴

定刻出 今日モ富士ハヨク見エタガ風ハナカッタ
午後温カクナル 九時前宮崎、十時過野口來場 自分引違ヒニ上京 清平同道ス 三
越ニテ北島サンノ祝物ヲ買ヒ清平ニ持タセテヤル 局ニ行ク 工政課長守屋氏ニ會フ
組合ノ証明モ少シ待ツテ呉レトノコト 年内ニ最(ママ)非タノムト云ツテ居ク 工場ノ件
ハ大分六ツ間敷シイトノコトデアッタ 器材課長ニ會フ 木下マダ會エナイガ局カラ最後
ハ命令シナケレバイケナイノデハナイカト聞イタガ之レニ対シテハ必要ナイ勝手ニヤツテヨ
イトノコトデアッタ

日本橋ニテ晝食後萱場ニ行ク 明年仕事ニツキ社ヨリ話アリ 単發カラハ木部ヲ當方デ
金具ヲ萱場デ組立テ立川デヤリタイトノコトデアッタ
武田氏不在 會ツテ呉レトノコト 圖面最初ノ製作図一番カラ廿五番迄ノ原圖ト計算
書ヲノゾク外全部持参 松井氏ニ渡ス 鷺見君ニ會フ。

家内大分ヨシ 上野デ大坂スシヲ求メテ帰ル。清平明朝工場へ來ル様ニ云フ

◆◆361ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月13日(水)

天気 晴

定刻出 七時四十分ニテ千葉ニ行キ菅谷君ニ會フ 徳川サンノ写真ヲ渡シ吉田ニ會ツタ
カ聞イテ見ル 一昨日會ツタ由 吉田ハ又千葉県ニ温泉ヲ出スコトヲ初メタ由 朝鮮ノ
方ノコトハ知ラナイ様ダ。今日多田場長ニ會フトノコトニ通信省門(ママ)題ニツキ同氏ニ
會ヒタイカラ會見出來ル様タノム

帰途布施サンニヨリ血脈ヲ取りホルモン注射ヲナス 奈良原氏來。小原氏來 終日在所

木下へ會見申込ミノ手紙出ス

鍛造ノ件三分ノ二ヲ今月中ニ 三分ノ一ヲ來月二十日トノコトリベツトマダ一本モ出
來ズ 不安多シ 野口宮崎ニ注意ス

◆▼362ページ◆▼ 昭和14(1939)年12月14日(木)

天気 晴

定刻出 菅谷氏ニ電話スル 昨日多田氏ニ會ツタ由 十六日千葉へ來ルカラ其時自分ニ會フトノコトデアッタ由

野口宮崎來 朝調ベタ養生工ノ欠員ニツキ注意ヲウナガス 野口君モ之レニハ多大ノ題問(ママ)ヲ有シタラシク宮崎ニ調査ヲ命ズ。佐藤鍛造発注文ノ爲メ上京 其前呼ンデ話シヲ聞ク 主トシテ野口氏質問 発注ヲ命ズ。宮崎同道ヲス、メテアルノダガツヒニ行カズ

正午ヨリ野口千葉吉田ニ呼バレテ居ルトテ行ク

自分昇給、及年末手當ノ件大体ダケ取キメ中止トナル 余モ又晝食後帰宅 鳥小屋ノ手入レヲナス 家内相変ラズ 醫者明朝來ル由

◆▼363ページ◆▼ 昭和14(1939)年12月15日(金)

天気 晴

定刻出 六時半起床 八時半工場ヲ出上京 清平宅ニ立ヨリ局ニ行ク 村上氏ニ會フ 局ト商工省トノ覺書ヲ見セテ貰フ。ソノ爲メ遅レテ居ルノダガ年内ニ出來ルダケ間ニ合セテ貰フ様タノム 佐田サンニカストルノ件聞ク ドウニモナラヌラシイ。榊原サンニモ會フ 監理部長會議ノ爲メ會エズ 東日ニ行ク 松下、清水鷺見ニ會ヒ會館ニテ晝食ヲ共ニス。福前ノ前田氏歸ツテ來タガ福田ヨリ千円ノ金デ出サレタトノコト 誰レデモフンガイスルダロウ。朝日ニ木村氏ヲ訪問 カストルノ礼ヲ述ベル 木下氏ノ住所ヲ聞イテ東日ノ自動車ニテ洲崎ニ行ク 本年第二回グライダー訓練大會ノ閉會式ニ参列 D1式後清水操縦ワシ見同乗津田沼ニ歸ル 西原少佐ニ伊東民雄ノコトヲタノム。局長自カラ自分ノ處へ來テドウカトノコトデ今予算モ終ッテヤット落付イタカラ君ノ方ノコトヲ會議ニカケルカラ待ツテ呉レトノコトデアッタ。船橋宅ニテ清水鷺見ト夕食ヲ共ニス 九時帰宅 家内相カワラズ

◆▼364ページ◆▼ 昭和14(1939)年12月16日(土)

天気 小雨

八時工場出 昨日白濁ヨリ今朝九時頃船橋へ着クカラ迎へニ來テ呉レトノコトデアッタ 由 ソレヲ野口ノコトダト佐藤間違へ船橋へ電話シテ駅へ野口氏ヲ見ニ行ク様ニス 野口氏昨日吉田同伴デ上京 出社ナシ 宮崎今朝午前中私用歸ル 正午帰社

十一時ヨリ布施醫師ニ行ク 又注射ヲシナケレバナライコトニナリ今日ヨリ水薬ヲ用

ヒルコトナル 鷺津ニ会ヒ木更津ノ金百五十円受取ル 野口ニ渡ス 午後帰宅 三時半頃ヨリ寒気ス 床ニ入ル 夕方七度六分迄熱上ル 両手腕ニ家内ト同様ノブツ、、出來ル 醫者ニ電話サセル 七時半頃発汗ハゲシクアトプツ、、ナクナリ気分ヨクナル 木下君ヨリ明日差支アリ都合知ラセルトノ返電アリ。兄ヨリ明朝十時頃臼渕ノ方來ルカモ知レヌトノコトデアッタ

◆◆365ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月17日(日)

天気 晴

八時迄床ニ居ル 眠クモアッタ 九時朝食ヲ終ルカ終ラナイ内ニ醫者來 自分ハ熱モ下ツテ居タガ家内ハマダ熱ガアッタノデ注射ス 午後カラ六度九分位ニ下タ由 十時工場ニ行ク 兄來テ居タ 東京高工ノ箱根行Bニ昨夜徹夜デ完成 十一時頃東日ノトラック 取りニ來ル

十一時頃臼渕氏來 清平船橋駅ニ迎ヘル 高砂製作所ノ今江氏同道 工場ヲ見テ丁度十二時ニナリ樂園ニ案内 晝食ヲ共ニス 臼渕氏ノ話ニテ原邦造氏ノ初歩ヨリノ友人デ今江氏ノ話シダケハ原家ノ家憲タル顧問会議ヲ經ナイデヤレルノダソウデ十九日ニ原氏ガ関西銀行カラ帰ルカラ其二日程後デナイト話シハ出來ナイトノコトデアッタ 二時今江氏他ニ約束アリ帰り臼渕氏四時迄話シ合ヒ帰ル 清平宅ニテ六時迄打合せ 兄二百円渡シテ帰ル

◆◆366ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月18日(月)

天気 晴

六時半起床 定刻出社 一三艦攻重心測定ヲ行フ 五時頃終リ六時計算終ル 今村 休 肥田木行フ 午後清平モ來 三鷹航空ノパラシュート試験ヲ行フ ■中君二十年 振リデ會フ 桜井養秀少将モ來

萱場ヨリ内藤氏來 無尾ノ重心測定ヲ行フ 萱場ヨリ電話アリ廿日内部物見ニ行クト ノコトデアッタ

今朝野口氏ニ明年初メノ作業トグライダーニ関スル状況ヲ話シ初年工採用方針ヲ示ス 尚金工部ニ責任者ヲ設ケ一任スル方針ヲ提案ス。ニエキラナイ返事デアッタ

◆◆367ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月19日(火)

天気 快晴

朝散髪シテ八時半工場出

一三艦攻督励 根岸君ニ金ノ方ノ事話ス。早速電話シテ明日午後會計課長見ニ來ル

由 其節年内ニ貫エル様相談シテ見ルコト

本日二万円ノ書替日 利子ガナイトノコトデアッタガ昨日安房中カラ鷺津ガ五百二十円貰ッテ來タノデ丁度間ニ合フ 利子百九十円位ノ由

午後上京 協会加治木氏ニ会フ ロクニロモ聞カナイ 氣ノ小サイ人ダ。日航永田氏ニ會フ 大藪ノ件ヤハリダメ。鷺見君ニB二ノ圖面時代社ニ預ケル 渡辺君ト小時話シ三時ヨリ香雲莊ニ行ク 肥田木不在 午後五時新宿駅デ会フトノ清平カラノ電話アリタル由 新宿ニ行ク 四時半清平來タガ山崎ト会フ上ニ差支ルノデ返ス 五時十五分山崎來 駅前ノ肉屋デ会谈 マイゼノ件同氏ホンヤク中トノコト 計算ヲタノム 文部省型ノ件及方針等ヲ聞ク 來年度千台以上作ルラシイコトガ想像サレル プライマリーノ試作ノ件現Aニヲ材料ヲ安イモノニシ模造デ工賃ヲ下ゲル方法ガ一番ヨカロウトノコトニソレニツキ研究スルコトス

八時四十分清平宅ニヨリ十時帰宅 野口宮崎出社

◆◆368ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月20日(水)

天気 曇リ

六時半起床 三時頃ヨリ眠レズ 主トシテ金工部ノ事心配ス 定刻出 本日ノ作業初メ金工部トグライダー部最モ悪シ 發動機又之レニ次グ

布施ニ小林ヲ呼ンデ聞カセル。ヤハリ昨日大口ノ話シノ通りデアッタ 尚島田件ヲ重キヲ居イテ居ルラシイ 宮崎ヲ呼ビ善處ヲ命ズ 宇賀佐藤ハ今日ノ場合アク适会社味方トシテ事件ニアタラセルコトス 野口來場セシモイヅレカニ行キ晝頃來 金工部問題一寸話シテ又千葉ヘ呼バレテ居ルトテ行ク 明日ハ又一時朝鮮ノ件デ上京スル由 困ツタモノタ 昇給発表延期ス

カヤバヨリ鷺見竹田、外二名來 無尾改造ニツキ打合せ。島午後來 會ワズ。三時頃大友氏來年内金ノ件諒解ヲ得 タ食ヲ共ニス 清平來 ガソリン調査ノ件報告ス

◆◆369ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月21日(木)

天気 快晴

八時半起床。九時半出社

岡田ノ件岡田一人デスミソウダトノ宇賀ノ報告アリタル由 自分トシテハ若シ岡田ガ來テ居ルナラ待命ヲ命ジ一步モ工場ヘ入レズ他ノモノヲ集メ宮崎ヨリヨク話シスル様注意シタガ其必要モナサソウトノコトデアッタ

昇給表ヲ見セルト云ツタガ野口氏持ッテ行ツタトノコト 氣象台ノ見積書サガシタガコレモ見當ラズ 明日ノコトニシテ上京スルコトス バスガ來ナイノデ下リデ稲毛ニ行キホルモンノ注射ヲ受ケ大口宅ニヨリオバアサンニ春子ノモノ何ニカ買ッテヤッテ呉レト十円

渡ス 福西ニ行キ小川ノ残金三千円二十八日ニタノミ万一ノ場合五万円ハ來月ニ廻シテ貰フコトノ諒解ヲ得。萱場ノ竹田大佐ニ電話シ明日午後行ク約束ヲナス。福西ト盆栽クラブニ見ニ行キ分レテ帰ル 清平宅ニヨリ兄ニ会ヒ帰宅

夕食終ル頃縄野來 館山ヘ行ツタ時ノコトノ報告アリ 同人ハ会社ヘ負傷ノ件ヲ電話デ通知スル様人ニタノシタノニ会社カラハ何シノコトモナクフンガイシテ居タトノコト コニ行違ヒアリタル由 尚明日辞表ヲ出ストノコトデアッタ

◆◆370ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月22日(金)

天気 曇後晴

今日モ野口來ラズ 宮崎ノ話シデハ昨夜一時迄吉田ニ居タガ吉田モ上京ノマ、帰ラヌ由

正午ヨリ上京 清平白渕ヘ書類持参ス 自分航空局ニ行ク 松浦氏木下ノ方下受出ス ツモリニナツテ居ルトノコト 相羽カラモ願出テ居ル由 工政課長修理ノ件モ出ス様ニナルトノコトデアッタ 組合ノ証(ママ)認モ年内ニ出ス由 萱場ニ行キ修理ノ點決定シ模型ハ割ラナイコトニキメテサテー○式ノ話シヲシタガ武田氏ハ立川デ一型デヤツテ貰エルトノコトデ買ヒソウニモナカッタ

五時井上ニ行ク 磯部氏ノ主催 集マルモノ飯沼、川辺、武田次郎、眞壁(コノ人自分初メテ会談ス)井上勝好、北尾亀尾(ママ)、奈良原、自分 以上九名 來ル筈ノ尾崎氏不参ス 愉快二十時散会ス。十一時帰宅

◆◆371ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月23日(土)

天気 晴

四時頃ヨリ下痢ヲ初メル ツヒニ終日十数回ニ及ブ 朝一度上ゲタノデ痛(ムネ)ノ悪イノハ晝頃カラヨクナツタ

夜布施サン來 ホルモンダケ注射シサルバルサンハ中止ス 夜カタクリヲノム

野口宮崎出社 宮崎間モナク帰ツタ由 吉田ト会フ爲メ思ワレル 昇給表見ルカラ持参サセル様徳治ニ野口ニ云ワセタガ宮崎ガ持ツテ居ルトテ見セズ。昨日一昨日ハ宮崎ハ野口氏ガ持ツテ居ルトノコトデアッタ

夜島田見舞ニ來。マイゼ圖面今日取りニ來コイトノ通知アリ。スグ清平ニヤル様手配シタガ午前十一時迄ト云フノデ間ニ合ワズ中止 廿六日ニシタ由 一三艦攻発動機試運転ヲ行フ

◆◆372ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月24日(日)

天気 晴

九時半工場出 宮崎昇給表預ッテ居テ忘レテ居マシタトテ持参ス 変ナ奴ダ 佐藤二
円 今村其他三円ノ昇給ト安元普通昇給シタコト、徳治ノ昇給ヲ減シ久次郎、青木ニ
増スコトヲ一應注意シタガソレ、宮崎ヨリ辨解アリ 原案通リトス 野口氏ニ金融ノ
件聞ク マダキマラス由 宮崎ノ話シデハ吉田ハ貸金ノ取立ヲセヨトテ今ダ出スコトノ承
認ヲ與ヘヌ由 従ッテ年末手當ナドマダ出来テ居ナイラシイ 島田岡田門(マ)題モ出
タ 島田モ岡田ヲ同等ニ取扱ッテハイケナイコト 島田ニ責任ヲ與ヘルコトヲ強調セシモ、
岡田ニ対シ強行手段ヲ取り得ズ

午後醫者ニ行キ自宅ニ帰ル 清平、兄待ッテ居タ 白渕ノ方三四十万差當リ出シテ事
業ヲ進メテハ如何トノコトニテ、ソレニ対スル計畫予算書ヲ作ル

◆◆373ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月25日(月)

天気 晴

九時半出社 宮崎休 吉田ニ金ノ交渉カト思ッテ居タガソウデナク、タバノ休ミラシイ
野口ノ話シデアッタ 昨日重心検査終ラズ 今日辻本氏來テ漸ク夕方終ル 明日飛行
試験ノ由

午後白渕氏來 清平、兄、先キ二案内シ自分遅レ鈴木館ニテ会見 白渕氏ノ談 先日
今江氏工場見タ結果アノマ、デハ原サンニ話シテモ他ノ者ニ見ニヨサレテハ反ッテ悪イ
結果ニナルニツキ前デ三四十万ヲカケ黒字化スルコトガ出来レバ其上ニテ原サンニ話シス
ル方ガ上策デアルトノコト 白渕シ然ラバ其金ハ如何トノ問ニ今江氏ソレダケハ出来ルト
ノコトデアッタ由 ソレニツキ現株主デウルサイノガアッテハ困ルガ其點ドウカトノコトニ
国産、吉田ノ状況ニツキ話シ、ウルサイコトハナイガ尚ナイ様ニ話シヲマトメルコトヲ、チ
カウ 尚今月其當リ吉田カラ出ナイ時三三万出来ルカラ聞ク。ハッキリシナイガ二三
日余裕ガアレバ出来ルト思フトノコトデアッタ

◆◆374ページ◆◆ 昭和14(1939)年12月26日(火)

天気 雨後晴

七時半起床 八時半工場出 宮崎本日モ出社ナシ 吉田会見ノ爲メカ 野口決算書
作製

辻本氏來 昨日ノ重心検査量リ不良ノ爲メ充分ナラズ 十一時半ヨリ試飛行 初メ
一人次ニ二人最後ニ三人搭載シ良好ナル成績ヲ上ゲル 午後ハ補助タンク取付カバ
取付等ヲナス 自分食後上京 二時半航空本部ニ西原少佐ヲ訪問セシモ不在 スグ福
西ニ行ク 植村子爵來テ居タ。弐千五百円返金ヲ千五百円ニシテ貰ヒタイコト。工場
支拂ヒイマダ予定ツカヌ由話シテ居ク 明朝來ル様ニ云ッテ居ク

今朝六時半ヨリ眠レズ 午後東京ノ帰りニ馬鹿ニ眠カッタ

▲▼375ページ▲▼ 昭和14(1939)年12月27日(水)

天気 晴

役員会十時ノ予定例ニヨリ十二時ニナル 全員出席 下期決算報告アリ 減資ノ件手續キヲ取ルコトニ決定ス 明日ノ支拂ヒニツキ宮崎ヨリマダ吉田ノ諒解得ラレヌ報告アリ 決(ママ)局宮崎、野口、吉田ニ今夜交渉スル事 場合ニヨリ菅谷氏應援ニ行クコトトシテ四時半終了 其間悲觀的説多ク、福西ヨリ宮様ノ話シヲナス

終ッテ東京ノ人ノ帰ルノト一所ニ上京 宇喜代ヘ直行シタガ六時三十分遅レル 渡辺君森氏スデニ待ッテ居タ 約三時間懇談 森サンカラ獨逸ノ話シヲ聞ク。銀坐デ日野サンニ會ヒ藤田ヲ小林醫院ニ見舞ヒ清平宅ニヨリ帰宅 十二時

角子供産レル 午前三時半 男子ニテ二人共無事

▲▼376ページ▲▼ 昭和14(1939)年12月28日(木)

天気 晴

九時半迄待ッタガ二人共來ラズ 上京 清平宅ニヨル 白洲大坂ヘ行ク由 ハガキ來テ居タ 福西ニ行キ氣象台ノ金四千九百円ノ小切手ヲ渡シ六千円ヲ返シサラ二千円借り入レ利子五十円ヲ支拂フ 残り晝夜ノ小切手ニテ受取り現金ニテ替航空時代ニ行キ昨夜ノ金二十円預ケ外三十三円広告料ヲ支拂ヒ組合ノ広告料五十円ヲ四十円ニマケサセ支拂フ

船橋ニ帰り工場デ電話スル 宮崎居リ漸ク諒解ナリ野口東京ヘ行ッタトノコトニマツ安心シテ兄ト話シ五時過帰宅ス

▲▼377ページ▲▼ 昭和14(1939)年12月29日(金)

天気 晴

八時過ギ工場出 十時頃野口九八銀行ヨリ電話アリ 宮崎判ヲ以テ行ク 根岸來 辻本氏練習ニ來 一三燃料ポンプノ件 結局ギヤーポンプヲ使用スルコトニ決定 午後テストヲ行フ カバー完成ス 夕方四時半全部ノ支拂ヒヲ終ル

黒沢君二年振りデ來 帰宅 夕食ヲ共ニス

▲▼378ページ▲▼ 昭和14(1939)年12月30日(土)

天氣 晴

七時起床 朝食後九時半工場出 其前太田來 數日前兵器廠木工作業ニツキ野口宮崎ヨリヒドク、シカラレタトノコトデアッタ。工場ニハ佐藤、布施、長島、アトヨリ宇賀太田來 金ガ足りナイノデ貸シテ呉レトノコトデアッタガ今日ニナツテ云ツテモ如何トモナラナイトコトワツテ吉田ニ行ク 宮崎ニ會ツタ時鍵ヲ借りテ歸ツテ銀行カラ出シテ貸シテヤロウカト思ツタガ止メタ 吉田氏ニ會ヒ昨年ノ不成績ヲコトワリ年末金融ノ礼ヲ述べ一寸雑談シテ歸ル 布施醫院ニ立ヨリ八十六円余支拂ヒ注射シテ帰宅。徳次貳百円松平ヨリ受取り木下、島、安岡、庄司、ニ支拂ヒアト六十円残ル 徳次ノ給料モ三十円出サセル 洋服屋五十円シカヤレズ夜十時頃家内ニ持參サセル 中台ハ全部來月廻シ 夜布施來 二十円貸ス 長島來 五十円入ルトノコトデアッタガ何ントモナラズ自分ノ紋付一揃ヲ貸與 金融サセル 十一時就床

▲▼379ページ▲▼ 昭和14(1939)年12月31日(日)

天氣 晴

終日在宅 小鳥ノ手入レ 盆栽ヲ一鉢ツクル 鹿島デ取ツテ來タ松一本立予定通りニ出來上ル
御供ヘノ御飾リ付ヲナシ坐敷額ノ掃除 床ノ軸ノ掛替、本箱ノ整理 以上デ丁度一日
フツヒヤス
満航ノ瀬川君來 二三十分満州ノ話シヲ聞ク 島吉正、職工吉野ノ母歳暮ノ挨拶ニ來

本年モ又時機ヲ失シ資本主ニ多少金アルダケニヤ、横ボウノ感アリ 押切ツテ積極政策ヲ取ル必要アリ 人事ニツキ又大ニ考慮ヲ要ス 自カラ努力家タルベク努ムベシ 強イ人トナル事

▲▼380ページ▲▼ 補遺

(65および66ページから続く)

三月一日ヨリ續キ

吉田氏ヨリ中島以上ニ最(ママ)非スルカヲトノコト 熱心ナ話シアリ 取締役トシテ菅谷野口両氏 監查役未定 会社一名吉田氏身内ノ人宮崎義雄氏ヲ照(ママ)介セラル野口氏ヨリ会社組織ニツキ質問アリタリ。尚経営ニ関シテハ吉田氏一任ノコトヲ現役員カラ念書ヲ一通貰ヒタイトノコト 其爲メ菅谷氏明日津田沼へ來ルコトナル
本日株主總會招集ノ通知ヲ出ス 日ヲ十五日ト定ム

三月二日

ヨク心配ニモナラズ帰ラズニ居ルモノダ 岡田氏ノ話シデハ、コチラノ出来タコトマダ知ラヌ由

全部集ツタ處デ経過ヲ報告シ小切手ヲ見セ之レハ九八津田沼

◆◆381ページ◆◆ 補遺

(380ページから続く)

支店へ預金シタキコトニテ同意ヲ得 支店へ電話シタガ支店長不在ノ爲メ明朝ノコトトス 終ツテ念書ノ件福西ヨリ話ス 岡田、章両氏承認 副社長帰京ノ上書イテ出スコトス 本社移轉ノ件議題ニ昇ル 岡田、章両氏進マザル模様アリ 之レハ株主總會迄ニ決定スルコト 其前ニ根本的方針ヲ定メ職制、組織ヲ改メ之レヨリ本社ノ東京ニ置ク適否ヲ定メ決定スルコトヲ自分ヨリ提案 且ツ協力ヲ希望ス。四日東京ニテ更ニ役員会ヲ定メルコト

岩間君ノ件 岩間氏ヨリ四千八百円ハ寄附シタノデ四百株ハ謝礼トシテ貰ツタトノコト右ニツキ自分ノ見解ハ十一月十五日岩間ノ申出ニヨリ出資ニ振替ルトノ言ニヨリ出資ト認メタルコトヲ述ベル 結局岩間氏ハ氏ノ立場上右ヲ認メ伊藤個人

◆◆382ページ◆◆ 補遺

(381および67ページから続く)

トシテデナク会社トシテ考慮シテ貰ヒタイト岡田、章氏ニ依頼ス 之レモ四日更ニ協議スルコトトシテ五時ニナッタノデ千葉ニ行ク 六時クラブ着 九時八時半散会モ頗ル、ナゴヤカニ宴ヲ終ル

昨日

三月三日

協会ニ適當ナ方法デ認メルコトト記入スルコトトシテ承認ヲ得タイトノコトデアッタ。田山氏ノ件金ハ出サナイコト 若シ出ス様ナラ大口ノ分ヲ出サセルカヲ岡田氏迄ニ話シテ居ク。中沢氏ノ千円ト昨年立替ノ四百二十一円九十銭受取ル。之レハ利子トシテ十円貰フ 中沢氏ノ分ハ無利子ニツキ章氏ノ返(マ)対アツタガ返スコトトス 章氏ニ内証ニシテ呉レトノ岡田氏ノ言 福西氏來 岡田氏トドコカデ相談ノ上田山

◆▼383ページ◆▼

(382ページから続く)

氏ニ行ツテ貰フコトトス 自分徳次ヲ連レテ局ニ行キ各方面ニ徳次ヲ紹介ス 法典ノ分ト一三艦攻堪航書出セルコトニナル。坂本氏ヨリ年度内奨励金ノ件話シアリ。

相羽、井上、渡辺一英、尾崎氏ト食堂デコーヒーヲノム 席上民間學校経営者ノ不平ニツキ坐談会ヲ催シ其筆記ヲ局ニ提出スルコトニシテハト俄ニ話シマツマリ出テ午後一時ヨリ飛行館ニ集ルコトニナル ヤレ、折角ノ休養日ガ又ダメカ。相羽氏ヨリ外ニ井上、伊藤デ局ヘ定期ヲ止メル代案トシテ局使用ノ練習機製作ヲ請願シタイトノコトデ牛俵夜又集マルコトトナリ午後八時第一ホテルニテ会フ 井上ハ大日本ニ買収サレルノデ右ニ参加出來ナイトノコトデ話シハ相羽ト自分ダケニナツタノデ双方更ニ考慮スルコトヲ約ス

徳治野一色ニ連レテ行ク 永クカゝルガ必ズ直ルトノコトニヤツテ貰フコト

◆▼384ページ◆▼ 補遺

(383および68ページから続く)

トス

四五年ハカゝルラシイ

第一ホテルヨリ帰途銀坐ヲ歩キ船橋デ清平宅ニヨル 瓦斯電ハマタニ三日遅レル由木村氏ノ話シハ小林今ノ仕事ダケデハ手が明クカラ月給ヲ下テ貰ツテ研究所ノ仕事ヲヤリタイトノコトデアツタ由 當方ノ事情ヲ話シマダ人ノ入ルコトヲ云ツテ居イタトノコト

三月四日ヨリ

本社ニテ現金受取リ中沢氏ニ行ク 千円返ス 手形自宅アリワザ、取リニヤラレル其爲メ遅ク三時過ギル 奈良原氏來 明日矢吹キノ飛行場命名式アリ行クトノコトデアツタ。帰社 松崎氏待ツテ居ラレタ 清平ト福田ノ工場見テ來タ由 先方ノ御希望ヲ松崎氏ニ聞イテ貰フコトトス。豊橋航空團ノ金主ヲ連レテ來 印鑑ヲ持ツテ來タトノコトデアツタガ用紙ガナクアトカラ送ルコトトス

◆▼385ページ◆▼

(384ページから続く)

副社長帰宅シテ居タ 岡田氏ヨリ止ムヲ得ザル用件ノ爲メ遅レタトノ申訳ケアリ 五時頃ヨリ会議 (一)国産ヨリ金ヲ全部一度ニ返シテ呉レトノ申出アリ 自分ハ福西氏

ノ分ヲ先ニシ国産ノ分ハ期日毎ニ返スコトニシテハト云ツタガ更ニ聞カズ 過日章氏ハ先方ノ人達入ツタ上ニスルコトニ、アンナニ賛成シテ居テ今日ハ全然反対デアッタ (二)十五万円ノ四割返スコトヲ認ルヤ否ヤノ件 最(マ)ニ非認メテ貰ハネバト之レモ国産トシテ困ルト章氏第一ニ主張。之レハ菅谷ニ岡田氏ヨリ想(マ)談シテ貰フコトス (三)最後ニ念書ノ件 如何ニモ吉田氏ガ皆ヲオサエツケル様ナ格工(マ)ニ見エルガ人格適(マ)ニソナコトハナイノダガ兎ニ角之レモ国産側トシテ好マシカラズトノ意見出タルモ岡田氏止ムヲ得マイトノ初メヨリノ意見ト福西氏ノ積極的賛成意見トデ章氏シブシブ賛成留雄ハ個人トシテ絶対不賛成ト明瞭ニシタゞ会社ノ爲メニトナラバ止ムナク承認スルトノコトデ尚字句ヲモット、エンキヨクニ直スコトトシテマトマル

◆◆386ページ◆◆ 補遺

(385および70ページから続く)

本日ノ會議ハ徹頭徹尾国産側ノ反対意見出タルモマトマル 将来ヲアヤブム 本日スデニ章氏、留雄ハ不用ノ者トノ考ヘ方ヲ公表スルナド少シ不謹慎ナ言動デアッタ。福西氏ハシキリニソレヲ口外スベカラズト云ツテ居タ

金ノ問題ハ出ナカッタ 七時十五分帰宅 徳治家内マダ帰ラズ 夜八時半

三月六日

甲斐航空官ニ會フ 中等學校へ賣込ミノ件話ス。文部省デ統制シ其カワリ賣價ヲウント引下ゲルカラウラマナイデ呉レトノコトデアッタ。之レモスベテヨカッタ 此頃万事好都合ニ行クノデ、大坂デ買ツタ物憲ノ茶碗ガ利キ目ガアッタモノト考ヘル。少シオカシナ話シダガドウモソウライシイ

四時半菅谷訪問 岡田福西ト菅谷宅ニテ借金全部スグ支拂

◆◆387ページ◆◆

(386ページから続く)

フコトニ菅谷賛成ス。菅谷ヨリ吉田氏ノ人トナリニツキ承(マ)細話シアリ。且ツ今度ノ初メニ菅谷ヨリ一切マカセルカラ乗り出シテ貰ヒタイト頼ミコンダトノコト話シアリ。今日自分居ラナイ内ニ念書問題デ又副社長返(マ)対シタラシク今日持ツテ行ノヲ持参シナカッタガ岡田福西ハ一言モ返ス言葉ナキノミナラズ最モ千万ト協共鳴引下ル。又食尚六万円問題岡田氏一向話シ出サズ。止ムナク夕食ニサソヒ菅谷氏ノオゴリトシテ行ク 最後ニ帰リガケ自分カラ岡田氏ニ四割問題ウナガシタガ一人言ノ様ニアレハアノ程度デヨカロウト思ヒマスガ伊藤サンカラ話シテ下サイデ終ル 帰り車中岡田氏今日ノ

第一ノ用件ハ國産ノ立場上カラ右ノ必要ヲ話シテ貰フ爲メニ來テ貰ツタノニズルイトナジツテ居ク。明日役員会デ総辭職ノコトヲキメタ上總會ノ通知ヲ出スコトナル 金モ明日全部支拂フコト 但シ定期ノ一万一千円ニ對シテハドウスルカト自分ノ質問ニ對シ明日御相談シテトノコトナル

◆◆3888ページ◆◆ 補遺

(71ページから続く)

三月七日

残ス方針デ話シタ處アニハカラシヤ章氏ハ國産ノ帳尻デ請求シテ來タ 從テ去ル十一月決算ノ際問題ニナツタ去年三月五万円借入レノ時ノ利子手数料其他デ九千四百余ト云フモノ 伊藤帳簿ニ乗セルコトヲ止メ何ニカ増資其他適當ナル方法ガアツタ場合支拂フコトトナツテ認メテ居タノヲ全部請求シテ來タ シカモ、ソレヲ分ラヌ様ゴマカシテ來タノニアキレタガ結局種々問題ニハナツタガ伊藤帳簿殘高ニヨツテ野村分モ全部支拂フ 笠井ノ分迄日歩十錢ヲ支拂フ。副社長ニ日歩イクラデスカト聞イタ時十錢ト平氣デウソブイテ云フタノニモ又アキレサセラレタ

以上終ツテ福西氏ヨリ自分ノ此度ノ努力ニ對シ感謝ノ意ヲ表シテ謝礼ヲシタイトノコトニ自分ハコトワツタガ兎ニ角相談スル間外ニ出テ呉レトノコトニ清平ト事ム所ニ行ツテ待つ間モナク岩間氏呼ビニ來テ行ク 福西氏ヨリ禮金ヲ取ツテ貰ヒタイ、ソシテ幾分カ外ノ役員タチニ分配シテ貰ヒタイトノコト

◆◆3889ページ◆◆

(3888および1588ページから続く)

ガ一寸出タノデ一体札金ト云フノハ、ドコカラ出スノカト聞イテ見ルト会社ノ金ダトノコトソレナラ一錢モ頂ケナイトコトワル。少シ坐ハ白ケタガ馬鹿ナ人々ダ。会社ノ金ガ今日ノ場合貰ヘル訳ノモノデアルマイシ又ソレヲ分配ニ預ロウナドトハ言語同(マ)斷ダ岩間一人正論ニ感服シテ居タ 最後ニ念書ノコトニナリ字句ヲ修正シテ調印ヲ終ル 今日會議前タレモ居ラヌ内岡田氏ヨリ將來ニツキ事ム所ヲ半分デモ殘スコト 京都モ一部國産デ負担スルカラ殘スコト、岡田仕事ノ方ヲヤラセテ貰ヒタイコト 國産ヨリ有給者二名程殘リタイ様ナ口振リデ以上ノコトヲ言ワレタ タゞ聞クダケニ止メ出來ルダケ尽力スルコトス 八時帰宅夕食

五月三十一日

五時半上野着 福西宅ヲ訪ヒ浅草ニ居ル菅谷氏ヲ迎ヘ日花ニテ会食會談 菅谷氏ノ話

シハ吉田氏ノ腹デ今後国産ニ負担ヲカケズ出來ルダケ伊藤ノ方デ千株ヲ出サセテ呉レ其代リアトハ引受ケルトノコトデアッタトノコト

◆◆390ページ◆◆ 補遺

(389ページから続く)

尚福西ヲ呼ンダノハ菅谷ガ伊藤君ガ大坂ヘ行クノハ一人デハ心モトナイノデ福西菅谷モ同道シテ共ニ説得ニツトメル爲メ先ヅ福西ガ伊藤ニ対シドシナ考ヘヲ持ツテ居ルカヲ聞ク爲デアッタトノコト 之レデヤ、ウナツケル 尚自分ヨリ吉田氏ノ眞意ニツキ質問スヤルノカヤラナイノカ近來ノ金ノ出シ方ト云ヒ野口氏ノ口振リカラ見ルト頗ル消極的ノ様ニ思ワレルノニ昨日ノ局トノ件ヲ話シ時機問題モアルノデ至急積極的ニ出ナケレバナラナイ旨強調 之レニ対シ吉田氏ハ一二年ノ中ニコチラヲカタメ其後ハ海南島ニ進出スルトノコトデ決シテ消極的デナイコトヲ菅谷氏保証 今後ハ菅谷福西ニテ其點引受ケヤラセルトノコトデ大体明後日ノ夜行ニテ大坂ヘ行クコトニ決定シテ十時帰宅。留守中留雄、章、岡田三氏国産ノ借入金名義(ママ)書替ノ件ト九千四百余円ノ利子ノ件デ來タ由 來ルコトハ昨日德次ニ電話シテアッタトノコト 德治ガ忘レテ云ワナカッタ

◆◆391ページ◆◆

(390および391ページから続く)

ノハ悪カッタガ德次モ上京シテ不在中自分ガ聞イテ居ナガラコトサラサケテ柏(行ッタ様ニ曲解シテ云ツテ居タ由 イヅレニシテモ右二件ハ自分個人デ解決スベキ問題デナイノデ役員タル彼ノ人達自身ニモ考ヘテ貰ワネバナラナイ問題デアル

二五九頁

結局国産ニ対スル義理ノ様ニ考ヘラレル。ソレデハ先キノ人心一新ノ話ト全然違フノデ其點菅谷君ニ説明ノ足りナカッタコトヲ述ベテ居ク 尚清平ノ小供ノ時カラ今日ノ爲メニ仕込ンデ來タコト。清平ノアトニ誰レカ入レルカト聞イテ見ル 絶対ニ入レナイトノコト。主任級以下ノ問題ニツキ話ス 之レモ絶対ニハラサナイコトハ吉田氏ノ言デアルトノコトデアッタ 最后ニ明朝清平ノ辞表ヲ出シテ貰ヒタイトノコトデアッタノデ歸リニ清平ニヨリ右ノ話シヲ明朝川口氏ヘ行クコト 七時半津田沼駅デ兄ト落合フコトヲ打(ママ)セル 兄今夜ハ宅デ泊ル

▲▼405ページ▲▼ 手控

姓名 伊藤音次郎 49才 明治24-6-3

住所 千葉県千葉郡津田沼町鷺沼字権現台688

勤務先 伊藤飛行機株式会社社長

時計番号 腕時計ステンレス 596186-1010

生命保険期日 7-15-1-15

帽子寸法 6 3/4

カラー寸法 14 1/2

家族誕生日

名前	誕生日	摘要
妻吉子	明治30-3-10	
徳治	大正9-8-4	
恵美子	々11-10-21	

仁三郎	々13-8-25	
和子	昭和7-7-10	